	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	**安全・安心のために**	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	**メーターの見方**	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	**各部の操作**	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	**運転**	運転に必要な操作やアドバイス
5	**室内装備・機能**	室内装備の使い方など
6	**お手入れのしかた**	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	**万一の場合には**	故障したときや、緊急時などの対処
8	**車両情報**	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 30
排気ガスに対する注意 36
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 37
チャイルドシート 38
1-3. 盗難防止装置
イモビライザー 50
オートアラーム 51

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 56
計器類 60
マルチインフォメーション ディスプレイ 64

3 各部の操作

3-1. キー
キー 72
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 74
スライドドア 78
バックドア 83
3-3. シートの調整
フロントシート 88
リアシート 91
ルームセパレーターバー 94
3-4. ハンドル位置・ミラー・ アンテナ
ハンドル 97
インナーミラー 99
アウターミラー 101
補助ミラー 104
アンテナ 105
3-5. ドアガラス・スライド式 リアサイドガラスの開閉
パワーウインドウ 106
スライド式リアサイド ガラス 109

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 112
荷物を積むときの注意 124
4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ 126
オートマチックトランスミッション 129
方向指示レバー 134
パーキングブレーキ 135
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 136
オートマチックハイビーム 140
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） 144
ワイパー＆ウォッシャー（リア） 146
4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 148
4-5. 運転支援装置について
衝突回避支援パッケージ 152
プリクラッシュセーフティシステム 158
レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報） 168
クリアランスソナー 176
PKSB（パーキングサポートブレーキ） 186
パーキングサポートブレーキ（静止物） 196
運転を補助する装置 200
排出ガス浄化装置 206
4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転 211

5 室内装備・機能

5-1. エアコン・デフォッガーの使い方
マニュアルエアコン 216
リアクーラー 221
リアヒーター 223
パワーヒーター 224
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 226
・フロントルームランプ／リアルームランプ 227
5-3. 収納装備の使い方
収納装備一覧 228
・グローブボックス 229
・マルチユースシートバックコンソール 230
・カップホルダー／ボトルホルダー 231
・カードホルダー 232
・オープントレイ 233
荷室内装備 234
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 235
・サンバイザー 235
・灰皿 236
・アクセサリーソケット 237

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....240
内装の手入れ.....244
6-2. 簡単な点検・部品交換
エンジン点検口.....247
ボンネット.....250
ガレージジャッキ.....252
AdBlue®（尿素水）の補充.....254
ウォッシャー液の補充.....259
タイヤについて.....260
タイヤ空気圧について.....263
エアコンフィルターの清掃.....265
キーの電池交換.....268
ヒューズの点検・交換.....271
電球（バルブ）の交換.....274

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは..... 288
非常点滅灯（ハザードランプ)..... 289
発炎筒 290
車両を緊急停止するには..... 292
水没・冠水したときは 293
7-2. 緊急時の対処法
けん引について 294
フューエルポンプシャットオフシステム（ガソリン車) 300
警告灯がついたときは 301
警告メッセージが表示されたときは..... 306
パンクしたときは 311
エンジンがかからないときは..... 326
バッテリーがあがったときは 327
オーバーヒートしたときは... 331
スタックしたときは 334

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....338
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....347
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....350

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....352
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....356
アルファベット順さくいん.....358
五十音順さくいん.....360

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
マツダ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- マツダが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は衝突回避支援パッケージのような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はマツダ販売店にご相談ください。
  ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
  RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数 / 電気モーター回転数
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・運転支援システムの作動状況
・前方カメラの画像情報

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

マツダはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、マツダは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・マツダが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

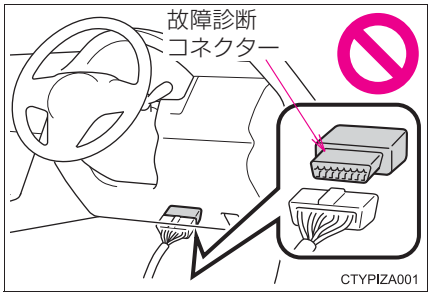
● 記録した画像情報はマツダ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。
EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。マツダにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、マツダは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・マツダが訴訟で使用する場合

ただし、マツダは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- 4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）
- SRS エアバッグ
- シートベルト　フロントシート　プリテンショナー
- 衝突回避支援パッケージ

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずマツダ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をマツダ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

本書の見方

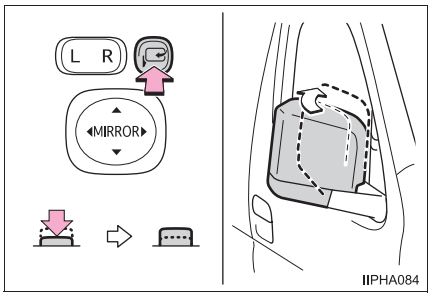
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

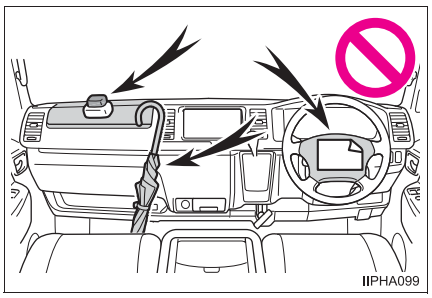
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

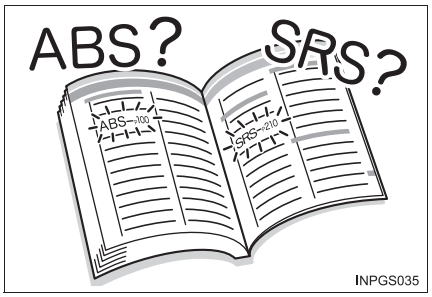


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

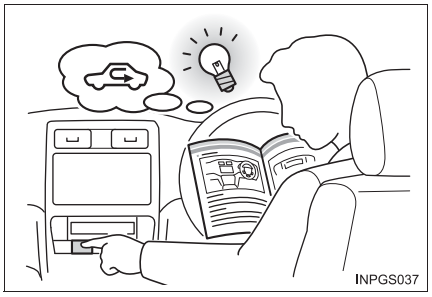
■ **名称から探す**

・五十音順さくいん.....360
・アルファベット順
さくいん.....358



■ **取り付け位置から探す**

・イラスト目次.....12



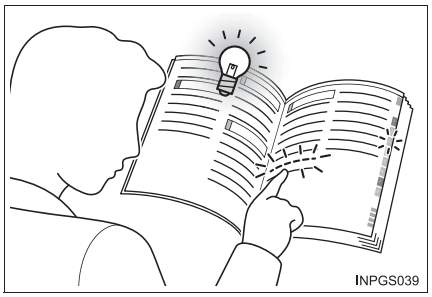
■ **症状や音から探す**

・こんなときは
（症状別さくいん）.....352
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....356



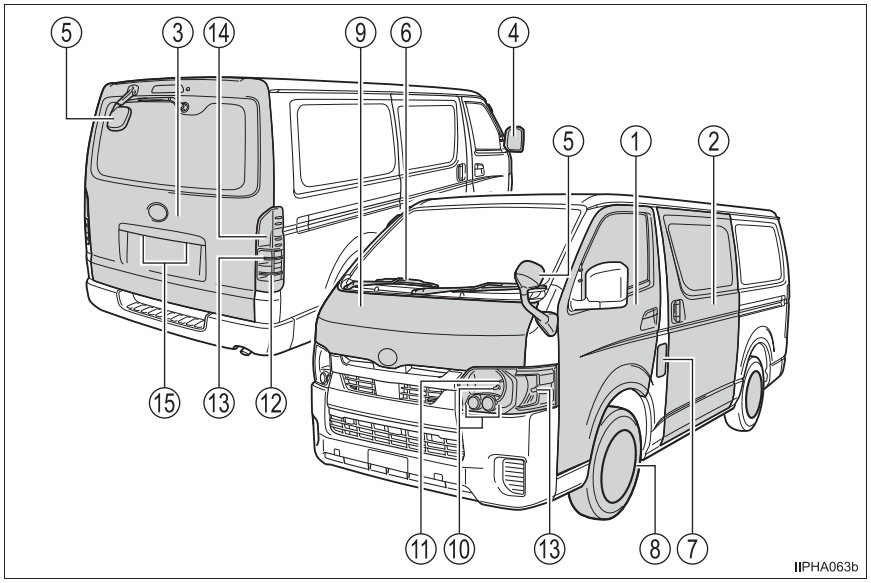
■ **タイトルから探す**

・目次 2



イラスト目次

■外観



① **フロントドア** . . . . . **P. 74**
施錠／解錠 . . . . . P. 74
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 106
警告メッセージ . . . . . P. 306
② **スライドドア** . . . . . **P. 78**
施錠／解錠 . . . . . P. 78
車外から開ける . . . . . P. 79
スライド式リアサイドガラスの開閉 . . . . . P. 109
警告メッセージ . . . . . P. 306
③ **バックドア** . . . . . **P. 83**
車外から開ける . . . . . P. 84
警告メッセージ . . . . . P. 306

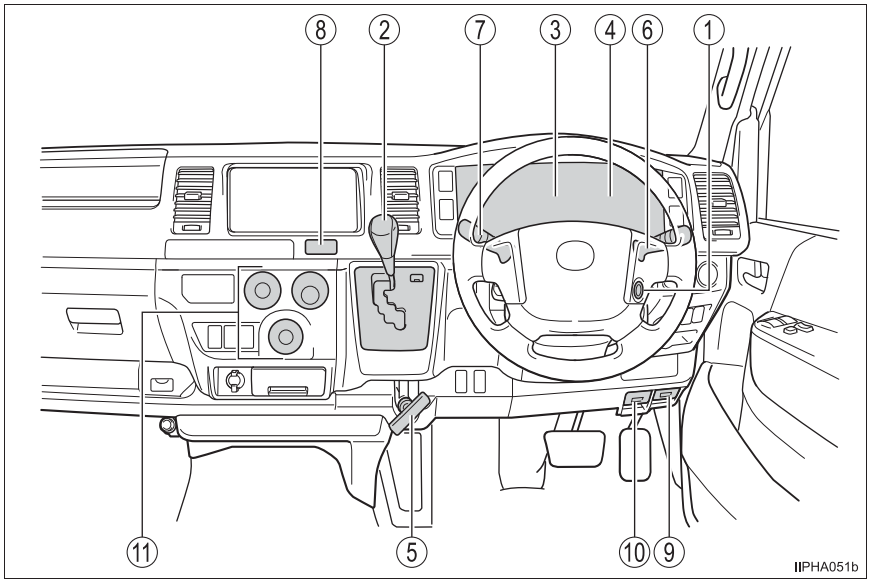
④ **アウターミラー**.....**P. 101**
鏡面の角度調整.....P. 101
ミラーの格納.....P. 102
曇りを取る（ヒーテッドドアミラー）★.....P. 217
⑤ **補助ミラー**.....**P. 104**
⑥ **ワイパー**.....**P. 144, 146**
冬季の注意.....P. 211
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★.....P. 217
⑦ **給油口**.....**P. 148**
給油方法.....P. 148
燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 338
⑧ **タイヤ**.....**P. 260**
サイズ・空気圧.....P. 345
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 211
点検・ローテーション.....P. 260
パンク時の対処.....P. 311
⑨ **ボンネット**.....**P. 250**
開け方.....P. 250
オーバーヒート時の対処.....P. 331

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 274, ワット数：P. 346）

⑩ **ヘッドランプ**.....**P. 136**
⑪ **車幅灯**.....**P. 136**
⑫ **後退灯**
シフトポジションをRにする.....P. 129
⑬ **方向指示灯**.....**P. 134**
⑭ **制動灯／尾灯**.....**P. 136**
⑮ **番号灯**.....**P. 136**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

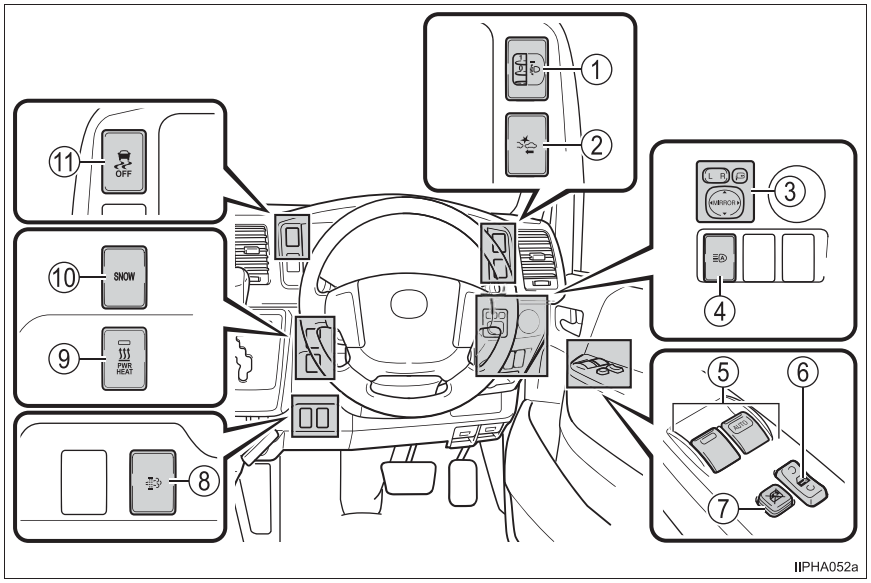
■インストルメントパネル



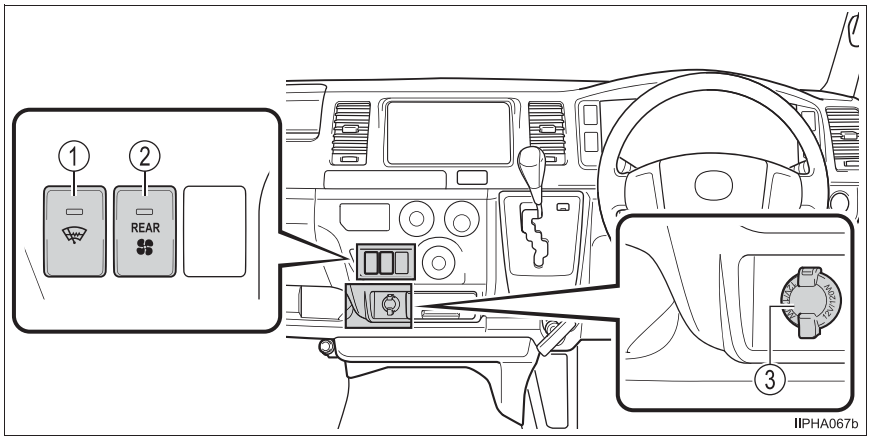
① **エンジンスイッチ . . . . . .P. 126**
エンジンの始動・位置の切りかえ . . . . . .P. 126
エンジンの緊急停止 . . . . . .P. 292
エンジンが始動できないときの対処. . . . . .P. 326
警告メッセージ. . . . . .P. 306
② **シフトレバー . . . . . .P. 129**
シフトポジションの切りかえ. . . . . .P. 129
けん引時の注意. . . . . .P. 294
シフトレバーが動かないときの対処. . . . . .P. 131

③ **メーター**.....**P. 60**
見方・明るさの調整 ..... P. 60, 61
警告灯／表示灯.....P. 56
警告灯点灯時の対処 ..... P. 57, 301
④ **マルチインフォメーションディスプレイ** .....**P. 64**
警告メッセージ表示時の対処.....P. 306
⑤ **パーキングブレーキ** .....**P. 135**
かける・解除する .....P. 135
冬季の注意 .....P. 212
警告ブザー .....P. 301
警告メッセージ.....P. 306
⑥ **方向指示レバー**.....**P. 134**
ランプスイッチ.....**P. 136**
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯.....P. 136
⑦ **ワイパー&ウォッシャースイッチ** .....**P. 144, 146**
使い方.....P. 144, 146
ウォッシャー液の補充.....P. 259
⑧ **非常点滅灯スイッチ** .....**P. 289**
⑨ **給油扉オープナー** .....**P. 148**
⑩ **ボンネット解除レバー**.....**P. 250**
⑪ **マニュアルエアコン** .....**P. 216**
操作方法.....P. 216
リアウィンドウの曇り取り（リアウインドウデフォッガー）...P. 217

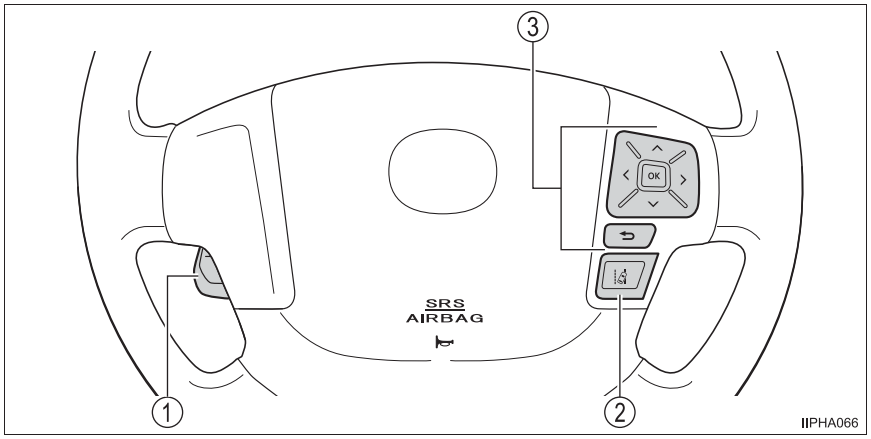
■スイッチ類



① 手動光軸調整ダイヤル★ . . . . . .P. 138
② プリクラッシュセーフティシステムスイッチ . . . . . .P. 161
③ アウターミラースイッチ★ . . . . . .P. 101
④ オートマチックハイビームスイッチ . . . . . .P. 140
⑤ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 106
⑥ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 76
⑦ パワーウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 106
⑧ 排出ガス浄化スイッチ★ . . . . . .P. 206
⑨ パワーヒータースイッチ★ . . . . . .P. 224
⑩ スノーモードスイッチ★ . . . . . .P. 130
⑪ ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム
[横滑り防止機構]（DSC）OFF スイッチ . . . . . .P. 200



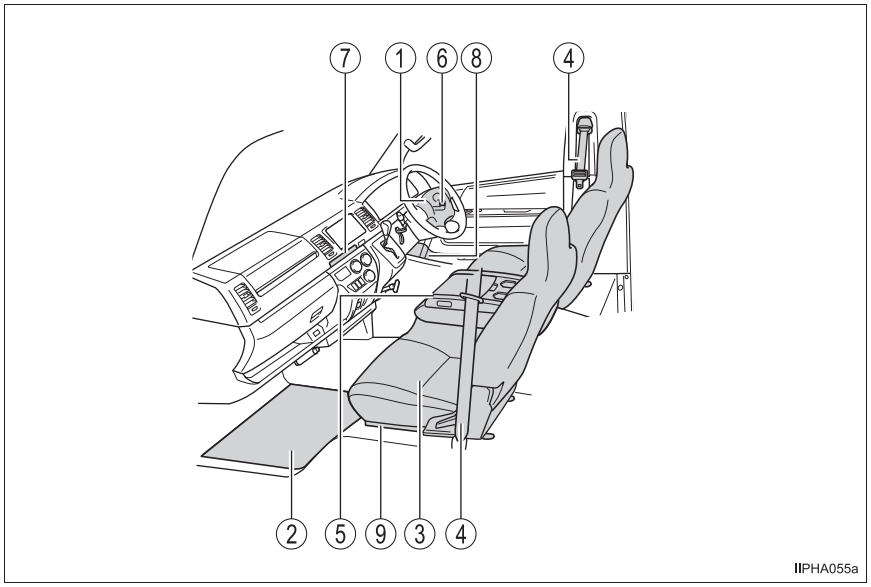
① ウインドシールドデアイサースイッチ★.....P. 217
② リアクーラーメインスイッチ★ .....P. 221
リアヒーターメインスイッチ★ .....P. 223
③ アクセサリーソケット.....P. 237



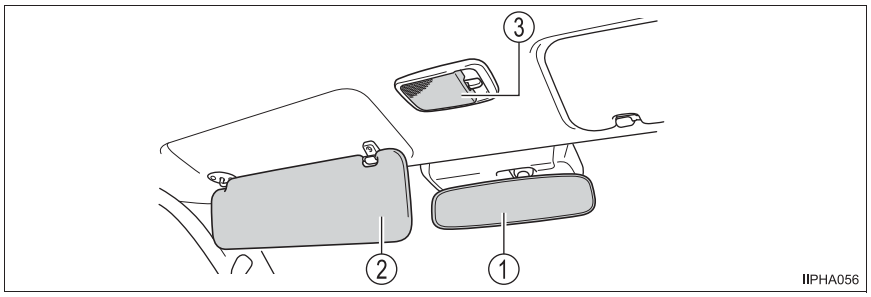
① ハンドル位置調整レバー .....P. 97
② レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）スイッチ....P. 168
③ メーター操作スイッチ.....P. 65

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 30
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 88
リアシート . . . . . P. 91
④ シートベルト . . . . . P. 26
⑤ マルチユースシートバックコンソール . . . . . P. 230
⑥ ロックレバー . . . . . P. 76
⑦ カップホルダー . . . . . P. 231
⑧ ボトルホルダー . . . . . P. 231
⑨ エンジン点検口 . . . . . P. 247
エンジンオイル . . . . . P. 339



① インナーミラー.....P. 99
② サンバイザー※1.....P. 235
③ フロントルームランプ／リアルームランプ※2.....P. 227

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P. 41）

※2：図はフロントですが、リアにも装着されています。



1 安全・安心のために

～必ずお読みください～

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために 24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....30
排気ガスに対する注意 36
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 37
チャイルドシート.....38
1-3. 盗難防止装置
イモビライザー.....50
オートアラーム.....51

運転する前に

点検整備

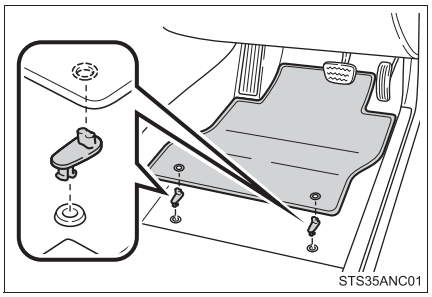
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、マツダ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

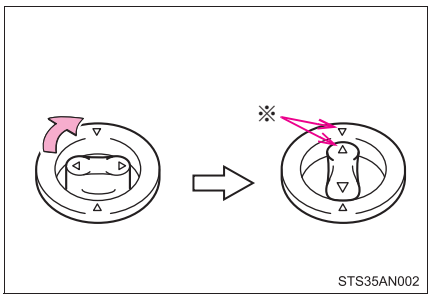
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

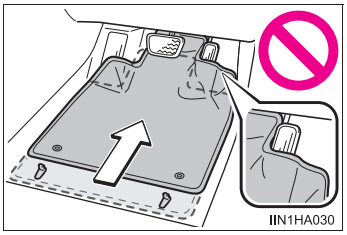
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- マツダ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



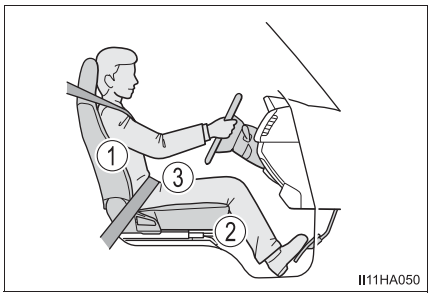
安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 88）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 88）



③ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 38）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・アウターミラーを正しく調整してください。（→ P. 99, 101）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシート※の下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

  ※ 前後位置が固定式のシートを除く
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

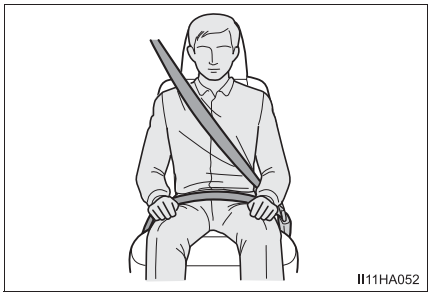
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

◆ 3 点式シートベルト

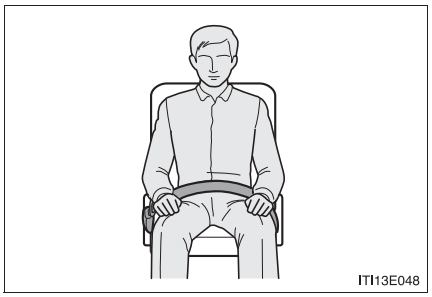
- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



◆ 2 点式シートベルト

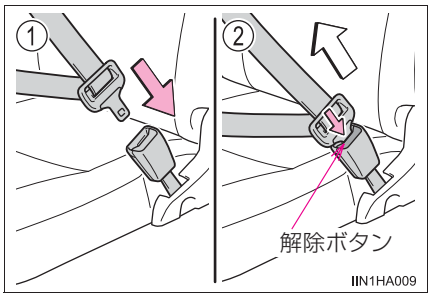
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させ、ベルトの長さを調整する
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

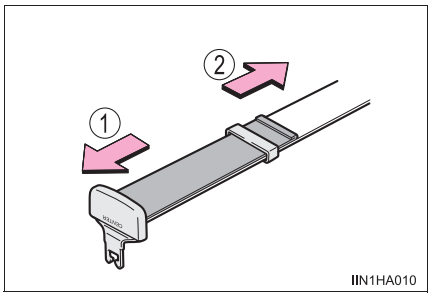


シートベルトの長さ調節（2 点式シートベルト）

① 伸ばす

② 縮める

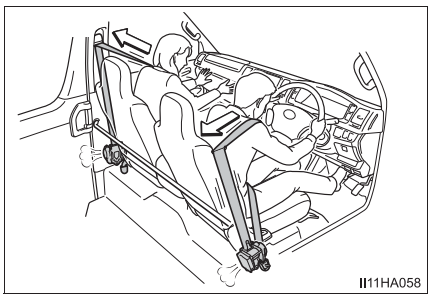
着用時は、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着するようにベルトの長さを調節してください。



シートベルト　フロントシート　プリテンショナー（SRS エアバッグ装着席のシートベルト）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法（3 点式シートベルト）

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→ P. 38）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルト　フロントシート　プリテンショナーについて

シートベルト　フロントシート　プリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- フロントシートの２点式シートベルトは､背もたれとシートクッションのあいだに通して着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリアシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

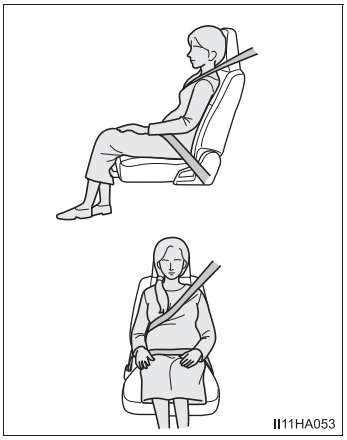
⚠ 警告

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→ P. 48

■プリテンショナー付シートベルトについて

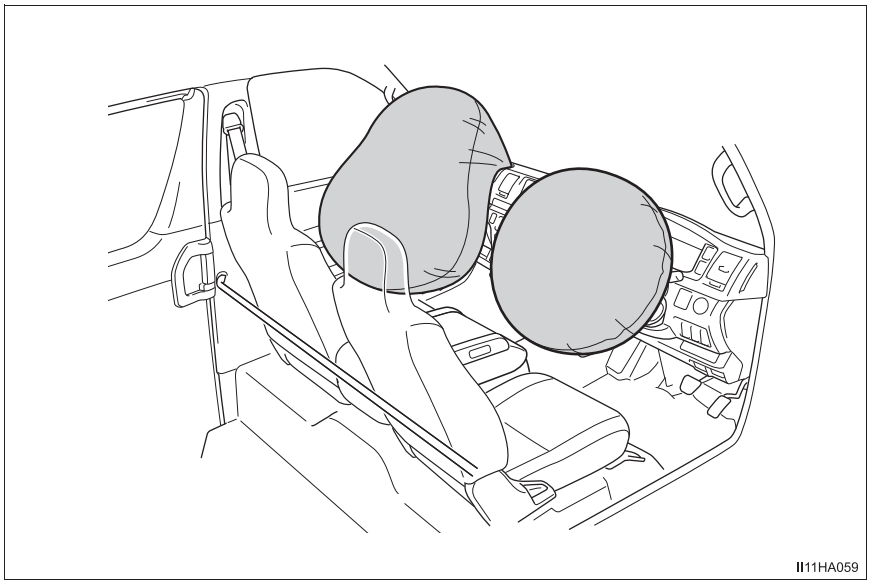
シートベルト　フロントシート　プリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずマツダ販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにマツダ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、マツダ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

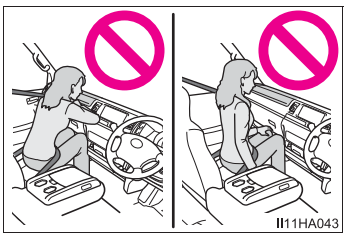
SRS エアバッグシステム　運転席＆助手席
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

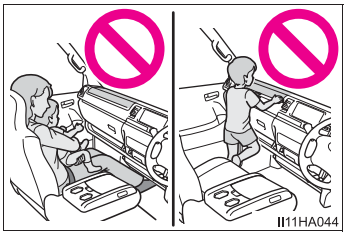


⚠ 警告

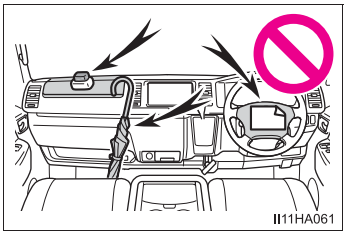
■SRS エアバッグについて

●お子さまを助手席SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



●ダッシュボード･ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずマツダ販売店で交換してください。

⚠ 警告

■改造・廃棄について

マツダ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパーなどの修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

- ●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- ●作動音と共に白いガスが発生します。
- ●エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）が数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- ●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

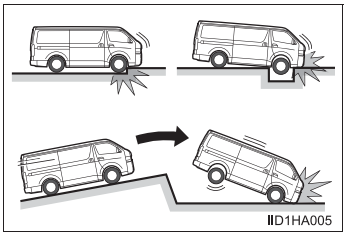
■SRS エアバッグが作動するとき

- ●SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
  - ・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
  - ・もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- ●衝突条件によってはシートベルト　フロントシート　プリテンショナーのみ作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、SRS エアバッグが作動する場合があります。

- ●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



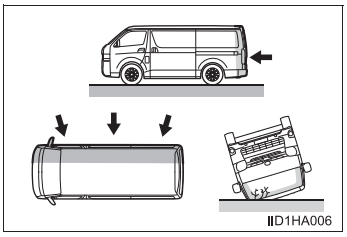
■SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

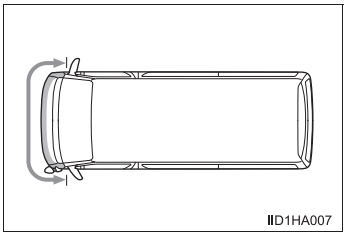


■マツダ販売店に連絡が必要な場合

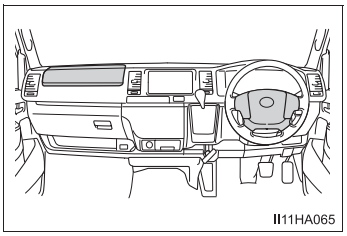
次のような場合には、できるだけ早くマツダ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラス・スライド式リアサイドガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにマツダ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。
（ディーゼル車は、P. 207 の注意も併せて参照してください）

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 38）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリアシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にスライドドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプルーフ（→ P. 79）・パワーウインドウロックスイッチ（→ P. 106）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→ P. 38）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- マツダでは、より安全にお使いいただくために、マツダ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  マツダ純正チャイルドシートは、マツダ車のために作られたチャイルドシートです。マツダ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 38
チャイルドシートを使用するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 40
シート位置別チャイルドシートの適合性について・・・・・・・・・・P. 43
チャイルドシートをシートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・P. 48

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 43)

⚠ 警告

■お子さまを乗せるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- マツダでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートを取り付けることを推奨します。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 43）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



⚠ 警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

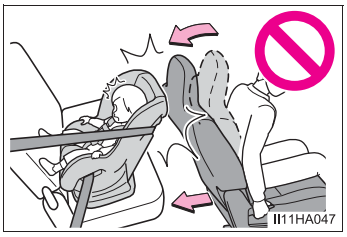
●助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



⚠ 警告

■チャイルドシートを使用するとき

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリア席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 45）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

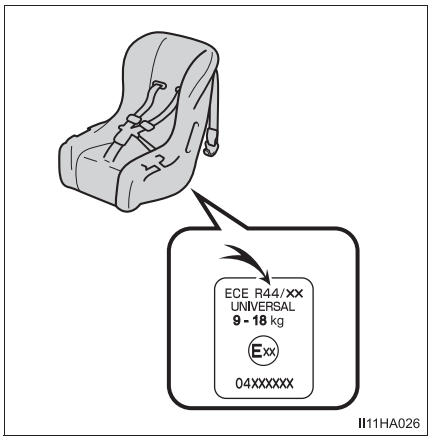
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

UN(ECE) R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



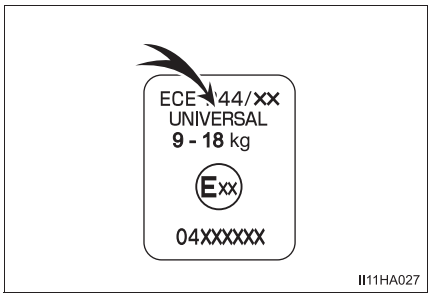
※1 UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

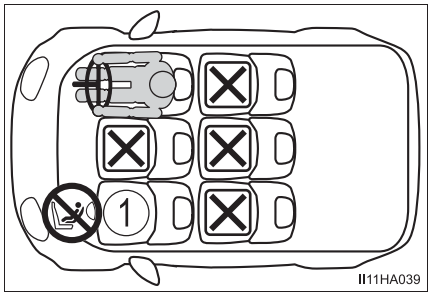
2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



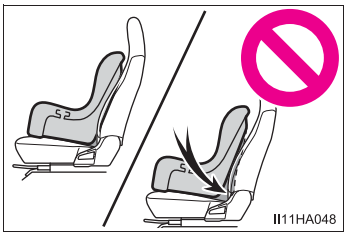
①※1	U※2

U　車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

×　チャイルドシートの取り付けに適していません。

助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※2 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置	
シート位置の番号	①
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

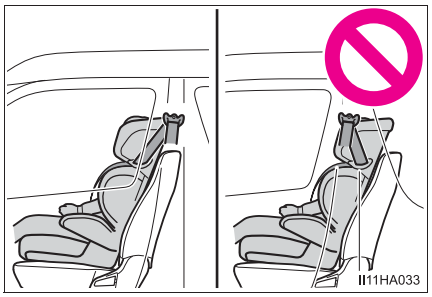
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リアシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、背もたれを起こします。



チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 44, 45）

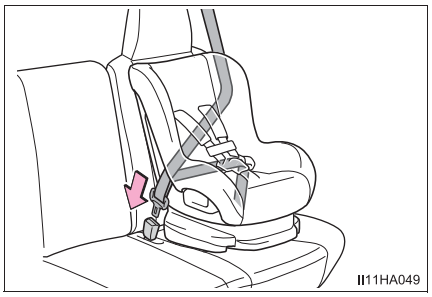
1 チャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 40）

2 背もたれを可能な限り起こす

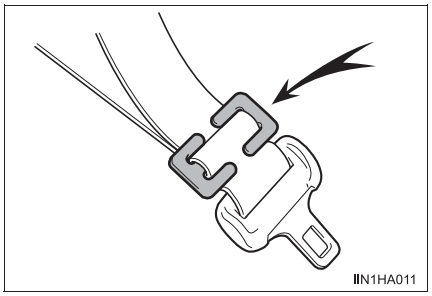
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（市販品）を使用して固定する



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 49）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

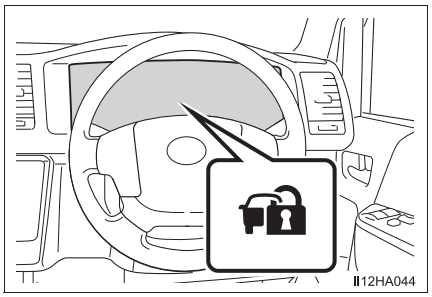
イモビライザー

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

キーをエンジンスイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

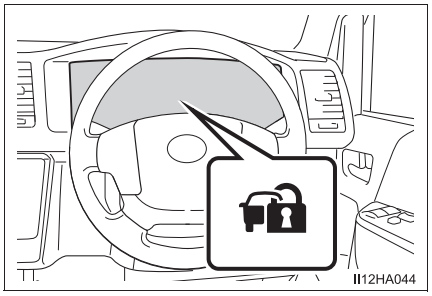
オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、リモコンキーを使わずに開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定する

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、リモコンキーを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアまたは、バックドアを解錠する
- エンジンスイッチを “ACC” または “ON” にするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- ●車内に人が乗っていないか
- ●ドアガラスが閉じているか
- ●車内に貴重品などを放置していないか

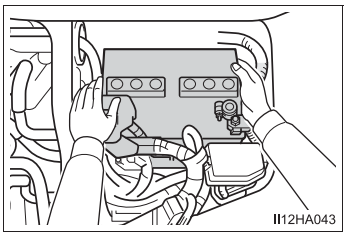
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- ●車内に残った人が、ドア、バックドア、ボンネットを開けた、またはロックレバーで解錠したとき



- ●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき(→ P. 327)



■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のようなときに自動的にドアが施錠されることがあります。

- ●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動した
- ●アラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠した
- ●バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

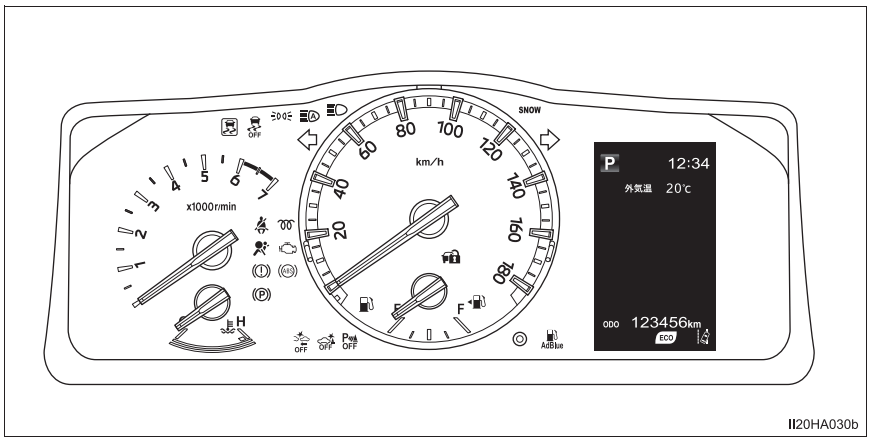
システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方 2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯.....56
計器類.....60
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....64

警告灯／表示灯

メーターの警告灯・表示灯でお車の状況をお知らせします。



II20HA030b

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。（→ P. 301）


ブレーキ警告灯
（→ P. 301）

※2

充電警告灯
（→ P. 301）

※2

油圧警告灯
（→ P. 301）

※2

高水温警告灯
（→ P. 301）

※1

エンジン警告灯
（→ P. 301）

※1

SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→ P. 301）

※1

4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）警告灯（→ P. 302）


燃料残量警告灯
（→ P. 302）

※1

（点滅または点灯）
プリクラッシュセーフティシステム警告灯
（→ P. 302）

※2

（黄色）
レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯（→ P. 302）


運転席＆助手席シートベルト非着用警告灯
（→ P. 302）

※1

スリップ表示灯
（→ P. 304）

※1

（点滅）
クリアランスソナー OFF 表示灯 （→ P. 303）

※1

（点滅）
PKSB OFF 表示灯
（→ P. 303）

※2

ペダル誤操作警告灯／
PKSB 警告灯（→ P. 303）


AdBlue® 残量警告灯★
（→ P. 304）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを “ON” にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。


方向指示表示灯
（→ P. 134）


尾灯表示灯（→ P. 136）


ハイビーム表示灯
（→ P. 138）

※3


エコドライブインジケーター
（→ P. 68）


予熱表示灯★（→ P. 126）



SNOW 表示灯★
（→ P. 130）


セキュリティ表示灯
（→ P. 50）

※1


ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム［横滑り防止機構］(DSC) OFF 表示灯（→ P. 202）

※1

スリップ表示灯
（→ P. 201）
（点滅）

※1, 2


プリクラッシュセーフティシステム警告灯
（→ P. 158）

※3

（緑色）
レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯（→ P. 171）

※2, 3

（黄色）
レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯（→ P. 171）

※3

（黄色点滅）
レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯（→ P. 172）


オートマチックハイビーム表示灯（→ P. 140）

※1, 2


クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 177）

※1, 2


PKSB OFF 表示灯
（→ P. 189）


パーキングブレーキ表示灯
（→ P. 135）

※3, 4

低温表示灯（→ P. 61）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを “ON” にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

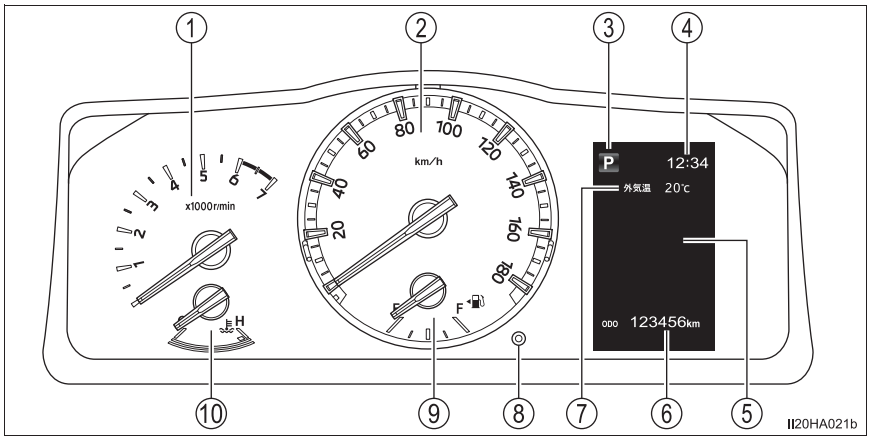
※4 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅したあとに点灯します。

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを “ON” にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

計器類



① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

② スピードメーター

車両の走行速度を示します。

③ シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。

④ 時計

時刻を表示します。

⑤ マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 64）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 306）

⑥ オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

メーター照度調整：
メーター照度が調整できます

⑦ 外気温／メニューアイコン表示

外気温表示：
外気温を－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。外気温が約 3 ℃以下になると、低温表示灯（→ P. 58）が点灯し、5 ℃以上になると消灯します。

メニューアイコン表示：
メーター操作スイッチを操作すると、数秒のあいだ、メニューアイコンが表示されます。（→ P. 64）

⑧ オドメーター／トリップメーターボタン

→ P. 61

⑨ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。
・ 少量給油（約 5 L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

⑩ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ・メーター照度調整

オドメーター／トリップメーターボタンを押すごとに表示が切りかわります。

① オドメーター

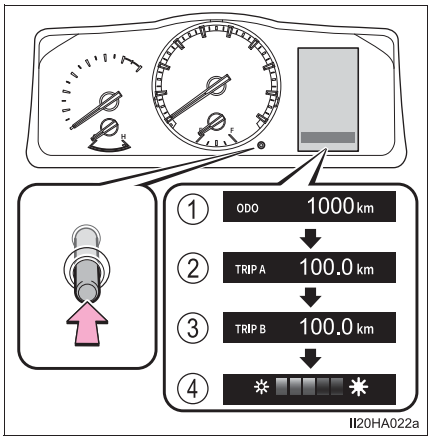
② トリップ A

③ トリップ B

④ メーター照度調整

トリップメーターを表示中にボタン押し続けると、走行距離が 0 にもどります。

メーター照度調整を表示中にボタンを押し続けることでメーター照度が調整できます。



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが “ ON ” のとき

■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “ -- ” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 オドメーター/ トリップメーターボタンを押してメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる

3 エンジンスイッチを “ LOCK ” にする

4 オドメーター / トリップメーターボタンを押したまま、エンジンスイッチを “ ON ” にする

5 そのまま約 5 秒間 オドメーター / トリップメーターボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす
オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。
(→ P. 348)

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 331）

マルチインフォメーションディスプレイ

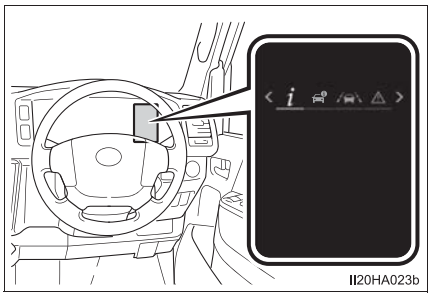
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、時計や走行に関するさまざまな情報を表示します。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。（→ P. 65）

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



トリップインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 65）

車両情報表示画面★

次のシステムの情報を表示します。
・ 排出ガス浄化装置堆積モニター（→ P. 208）
・ AdBlue® 残量（→ P. 68）

運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。
・ レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）（→ P. 168）

警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→ P. 306）

設定

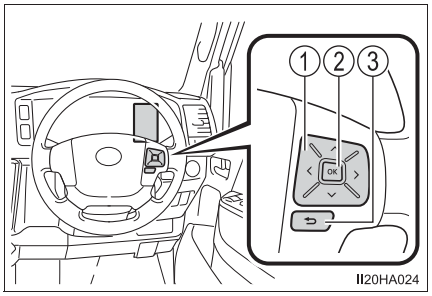
メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。（→ P. 66）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

① 選択／ページ送り
② 決定／設定
③ ひとつ前の画面にもどる



ドライブインフォメーション

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの 〈 または 〉 を押して *i* を選択し、∧または∨を押します。

■ **瞬間燃費**

現在の瞬間燃費をバーグラフで表示します。

■ **リセット間平均燃費**

リセットしてからの平均燃費を表示します。
・リセットするには、平均燃費の表示中にメーター操作スイッチの「OK」を押し続けます。
・表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ **航続可能距離**

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。
・運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
・燃料給油量が少量（約 5 L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。
この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 62）

■ **始動後走行時間**

エンジン始動後の経過時間を表示します。

■ **エコインジケーター（エコドライブインジケーターゾーン表示）**

→ P. 68

■ **車速（デジタルスピードメーター）**

車両の走行速度を示します。

■ **ふらつき度合表示**

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合いをバーの長さで表示します。

バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示は、レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）の機能のひとつです。レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）のふらつき検知機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。（→ P. 173）

■ **ブランク表示（画面 OFF）**

ドライブインフォメーションが非表示になります。

設定

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの 〈 または 〉 を押して  を選択し、∧ または ∨ を押します。

■ **時計調整**

● 時刻変更

12 時間表示／ 24 時間表示の選択および時刻を変更することができます。

● 正時合わせ

分の単位の表示を 00 にすることができます。

■  **レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）（→ P. 168）**

■  **クリアランスソナー（→ P. 176）**

■  **PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→ P. 186）**

■ **表示設定**

● 言語

マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を切りかえることができます。

● ECO

エコドライブインジケーターの作動／非作動を切りかえることができます。

● カラー

マルチインフォメーションディスプレイの表示色を切りかえることができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

知識

■エコドライブインジケーター

① エコドライブインジケーター※

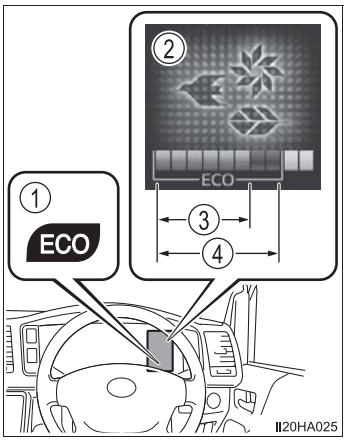
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターは消灯します。



④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- スノーモード★（→ P. 130）を使用しているとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

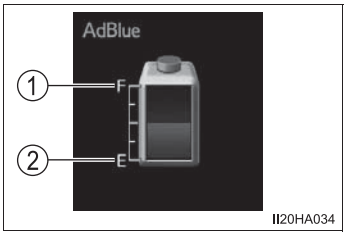
※ エコドライブインジケーターの作動／非作動を設定できます。（→ P. 347）

■AdBlue® 残量表示★

AdBlue® の残量を表示します。

① “F”（多い）

② “E”（少ない）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

●警告メッセージが表示されたとき

●走行し始めたとき

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションのデータはリセットされます。

■液晶ディスプレイについて

→ P. 62

⚠ 警告

■走行中の警告

メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

各部の操作 3

3-1. キー
キー....72
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア....74
スライドドア....78
バックドア....83
3-3. シートの調整
フロントシート....88
リアシート....91
ルームセパレーターバー....94
3-4. ハンドル位置・ミラー・アンテナ
ハンドル....97
インナーミラー....99
アウターミラー....101
補助ミラー....104
アンテナ....105
3-5. ドアガラス・スライド式リアサイドガラスの開閉
パワーウインドウ....106
スライド式リアサイドガラス....109

キー

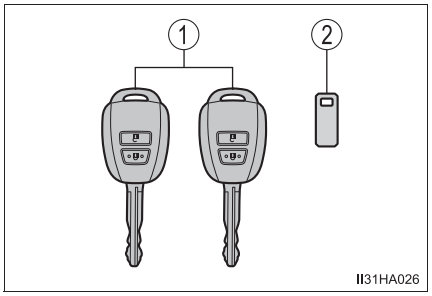
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① キー（リモコン機能装着）

リモコン機能の作動（→ P. 72）

② キーナンバープレート

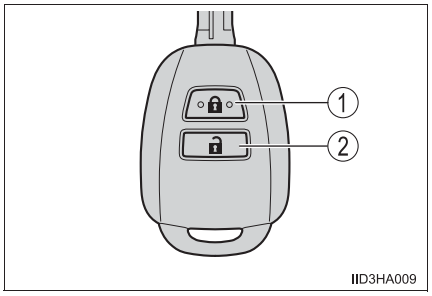


リモコンキー

① ドアの施錠（→ P. 74）

必ず施錠されたことを確認してください。

② ドアの解錠（→ P. 74）



知識

■キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、マツダ販売店でマツダ純正品の新しいキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るときは

航空機にリモコン機能装着キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

リモコン機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。(→ P. 268)

■電池の交換方法

→ P. 268

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはマツダ販売店へご相談ください。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キー取り扱いの注意

ワイヤレスドアロックリモコンは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを紛失したとき

キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。
車両に付属している残りのキーをすべてお持ちの上、ただちにマツダ販売店にご相談ください。

フロントドア

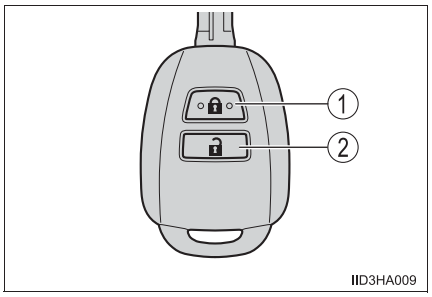
車外からの施錠・解錠

◆ リモコンキー

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

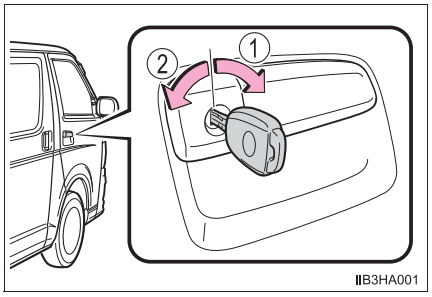
② 全ドアを解錠する



◆ キー

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する



知識

■作動の合図

リモコンキーでのドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■リモコンキーの作動条件

- 周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約 1m まで近付いて操作してください。
- エンジンスイッチにキーが挿し込まれている場合は、リモコンキーが作動しません。

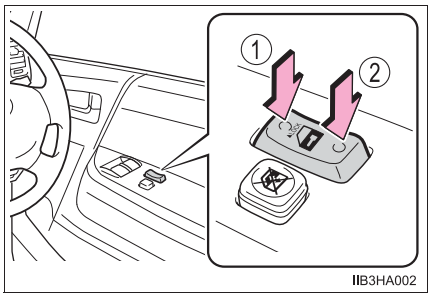
■解錠操作のセキュリティ機能

リモコンキーでの解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

車内からの施錠・解錠

◆ ドアロックスイッチ

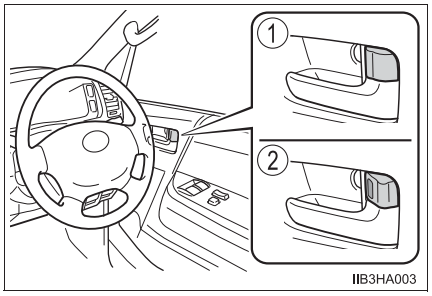
① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。



知識

■半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドアが確実に閉まっていません。マルチインフォメーションディスプレイに開いているドアが表示されます。ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。全ドアを確実に閉めてください。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

キーがエンジンスイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

知識

■リモコンキーが正常に働かないおそれのある状況

●次のような場合、リモコン機能が正常に働かないおそれがあります。

・近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
・無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
・複数のリモコンキーが近くにあるとき
・リモコンキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
・近くで電波式リモコンキーを使用しているとき
・リモコンキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

●金属を含むフィルムや、金属物（マツダ純正品以外のアンテナなど）をバックドアガラスに貼り付けると、車両後方からの操作時に、作動可能距離が短くなる場合があります。

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

スライドドア

スライドドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

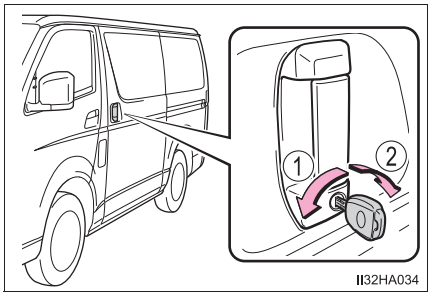
車外からの施錠・解錠

◆ リモコン機能

→ P. 74

◆ キー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する



車内からの施錠・解錠

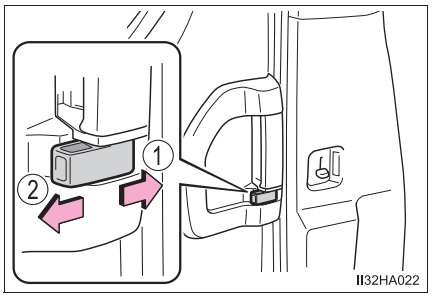
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 76

◆ ロックレバー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する

車外から施錠するときは、ロックレバーを施錠側にしてスライドドアを閉じます。



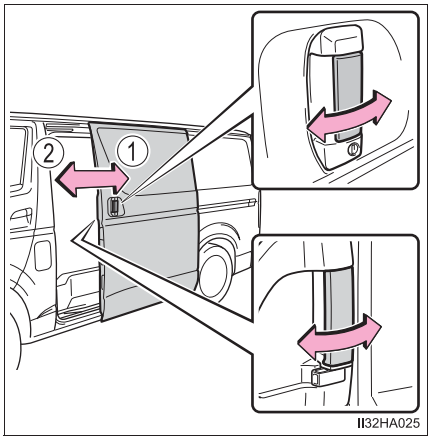
スライドドアの開閉

車外または車内のスライドドアハンドルを操作します。

① 開く

② 閉じる

ロックが解除されるまで、確実にドアハンドルを引きます。



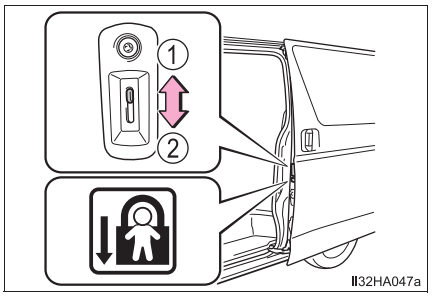
チャイルドプルーフ

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。



知識

■チャイルドプルーフ使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。
スライド式リアサイドガラス装着車で、万一、車内から開ける場合は、リアサイドガラスを開けて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

⚠警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中は車内のドアハンドルを操作しない
- お子さまをリア席に乗せるときは、チャイルドプルーフを使用して車内からドアが開かないようにする

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

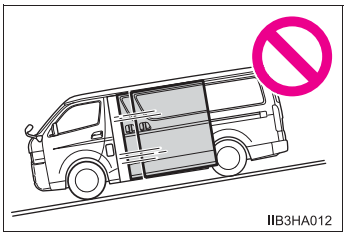
- お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

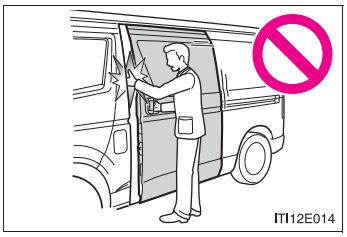
■スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- スライド式リアサイドガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- 坂道ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂での停車時に乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。


IIB3HA012

- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

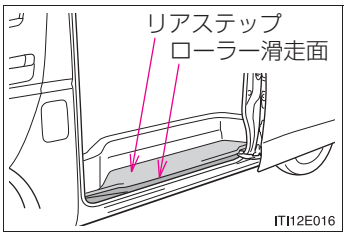

ITI12E014

⚠ 注意

■スライドドアについて

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアのリアステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠、および開けることができます。

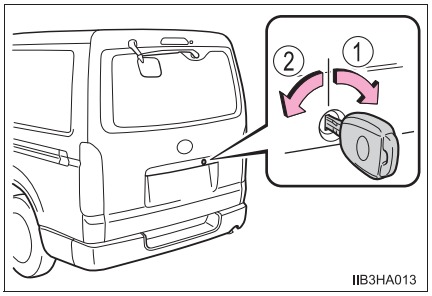
車外からの施錠・解錠

◆ リモコン機能

→ P. 74

◆ キー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する



車内からの施錠・解錠

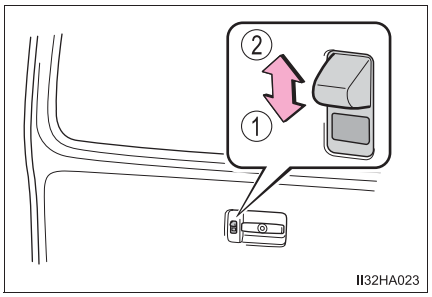
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 76

◆ ロックレバー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する

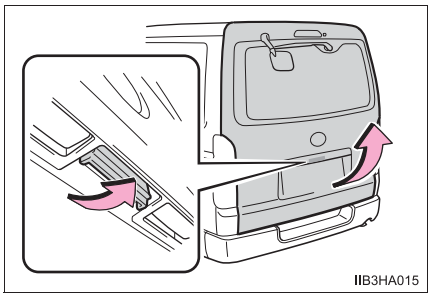
車外から施錠するときは、ロックレバーを施錠側にしてバックドアを閉じます。



バックドアを開けるには

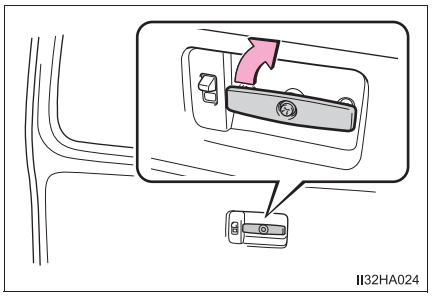
◆ バックドアハンドル（車外）

バックドアハンドルを引いたまま、バックドアを持ち上げる



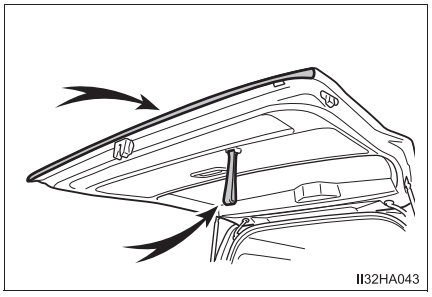
◆ バックドアハンドル（車内）

バックドアハンドルを右にまわして、バックドアを押し上げる



バックドアを閉めるときは

バックドアストラップまたはバックドアの下端を持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



⚠ 警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●荷室には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は車内のドアハンドルを操作しないでください。
バックドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●荷室でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

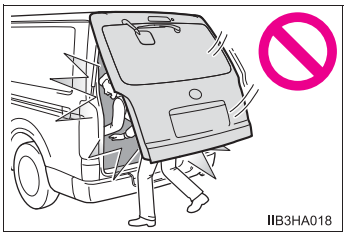
●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

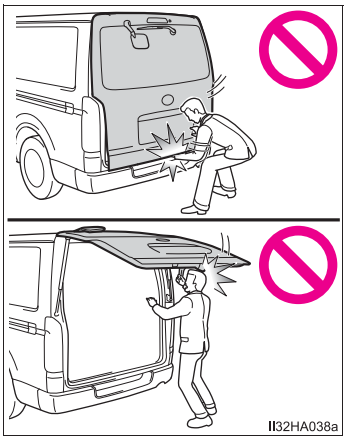
■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアストラップで直接バックドアを閉めると、頭をぶつけたり手や腕を挟むおそれがあります。



⚠ 警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

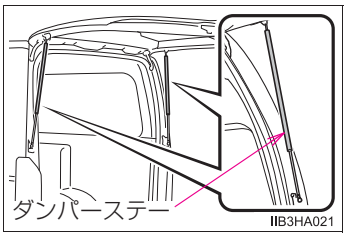
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、マツダ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにマツダ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■バックドアを操作するときは

車内のドアハンドルや、バックドアの下端に付いているロック部品などをつかんで、バックドアを操作しないでください。ドアハンドルやロック部品などが破損するおそれがあります。

フロントシート

調整のしかた

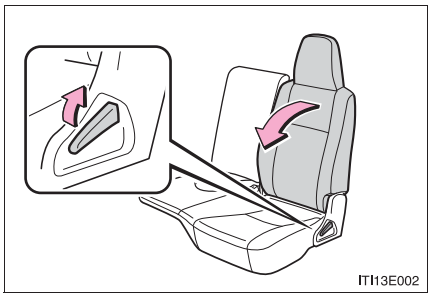
① 前後位置調整（運転席のみ）
② リクライニング調整



助手席・中央席の前倒し

■ 助手席

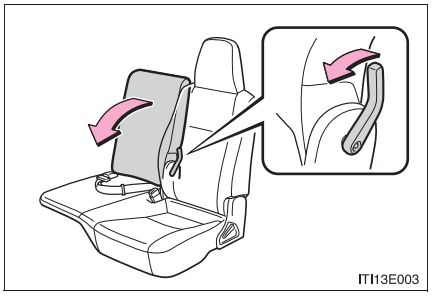
1 レバーを引いたまま、背もたれを前に倒す



2 もとにもどすときは、背もたれをそのまま引き起こす

■ 中央席

1 レバーを前側に引いて、背もたれを前に倒す



2 もとにもどすときは、レバーを前側に引いて背もたれを引き起こす

知識

■中央席の背もたれについて

前倒しから起こした状態で、レバーを前側に引きながら後方に倒すと、背もたれを３段階うしろに倒すことができます。

警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

■背もたれを前倒しするとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする
- 倒した背もたれの上に人を乗せて走行しない

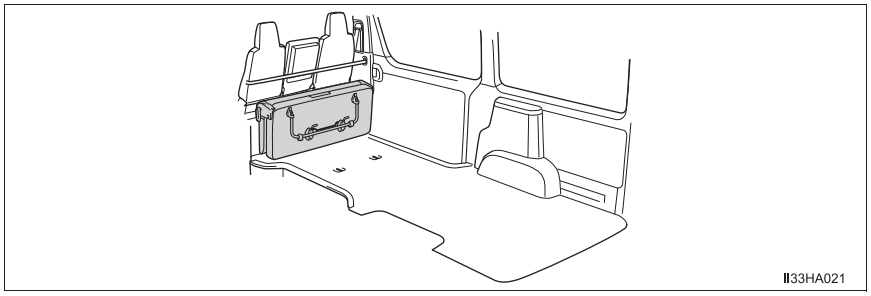
■背もたれをもとの位置にもどしたあと

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトを挟み込まないようにする

リアシート

折りたたんでスペースを拡大することができます。

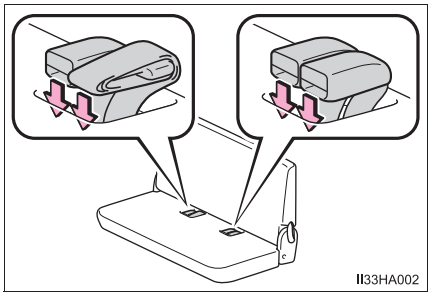


荷室の拡大

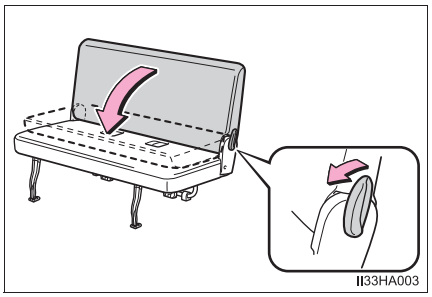
■ 荷室の拡大のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける

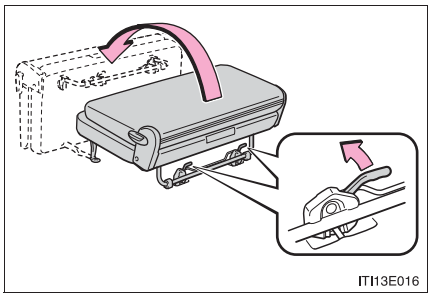
2 シートベルトのバックルとプレートを格納する



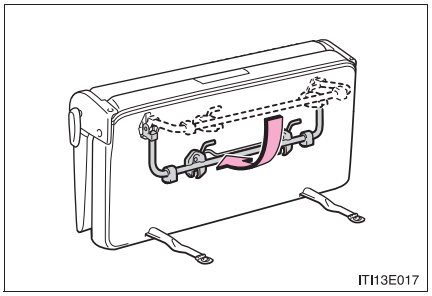
3 シート側面（助手席側）にあるレバーを引いて、背もたれを前に倒す



4 左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、シート全体を前方に起こす



5 脚部を折りたたむ



6 ルームセパレーターバーの取り付け位置をかえる（→ P. 94）

■ **もとにもどすときは**

荷室を拡大したときと逆の手順で操作を行います。

⚠ 警告

■荷室の拡大について

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- シートに人が乗っている状態で操作をしない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 倒した背もたれの上や荷室に人を乗せて走行しない
- お子さまが荷室に入らないよう注意する
- 操作をしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する
- シートのあいだにシートベルトなどが挟み込まれていないか確認する

■シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

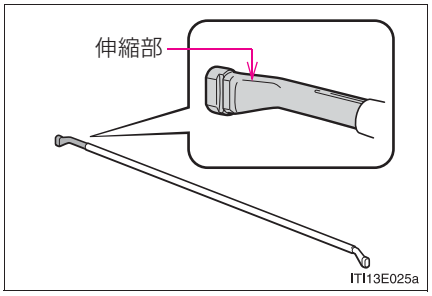
- シートを前後・上下に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトを挟み込まないようにする

ルームセパレーターバー

ルームセパレーターバーは、必ず荷室のいちばん前の位置になるように取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、不正改造になります。
また、紛失すると車検を受けることができなくなります。

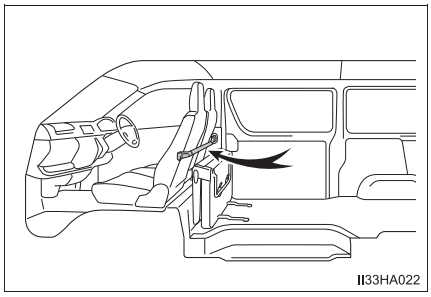
ルームセパレーターバーについて

- ルームセパレーターバーのカーブが必ず車両後方を向くように取り付けます。
- ルームセパレーターバーの伸縮部が、運転席側になるように取り付けます。

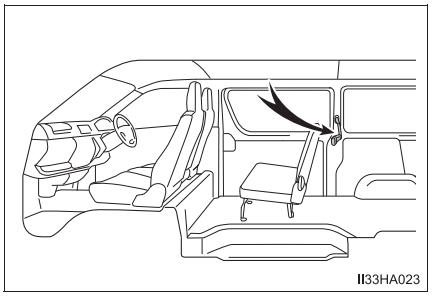


ルームセパレーターバーの取り付け位置

▶ 前席使用時



▶ 前後席使用時

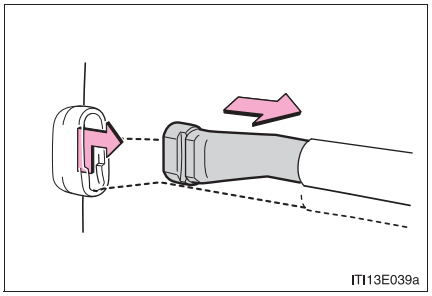


ルームセパレーターバーの脱着

■ 取りはずし方

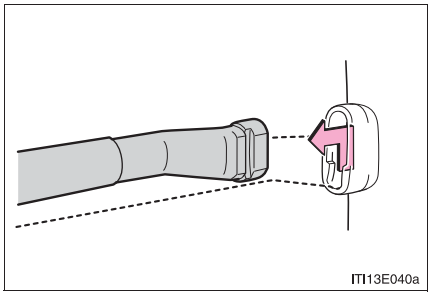
1 ルームセパレーターバーの取り付け部（運転席側）を引き上げ、内側に縮める

運転席側の取り付け部は、伸縮します。



2 ルームセパレーターバーの取り付け部（助手席側）を引き上げ、ルームセパレーターバーを取りはずす

助手席側の取り付け部は、伸縮しません。



■ 取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で行います。

ルームセパレーターバーのカーブが車両後方を向き、伸縮部が運転席側になるように取り付けてください。

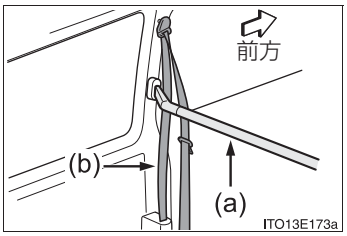
ルームセパレーターバーの取り付け部は、ブラケットに確実にはめ込んでください。

⚠ 警告

■ルームセパレーターバーを取り付けるとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、シートベルトが正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ルームセパレーターバーを取り付けるときは、右図のようにルームセパレーターバー（a）をリアシートベルト（b）の車両後方側に取り付けてください。



■ルームセパレーターバーを取り付けたあとは

確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だと、走行中にルームセパレーターバーがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

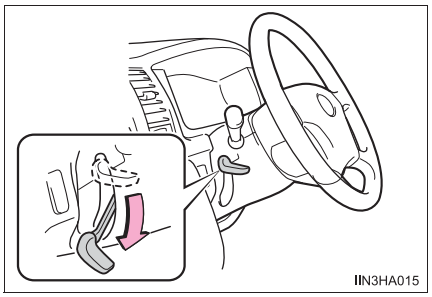
■はめ込むタイプのルームセパレーターバーについて

ルームセパレーターバーの取り付け部をブラケットにはめ込むときは、必ずルームセパレーターバー全体を下側に押さえてください。片側のみに荷重をかけると、ブラケットが破損するおそれがあります。

ハンドル

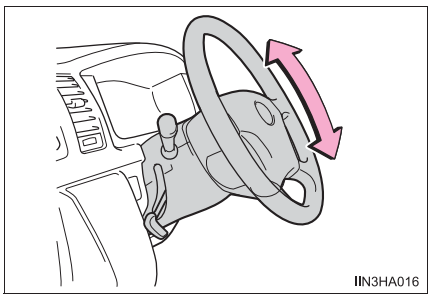
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



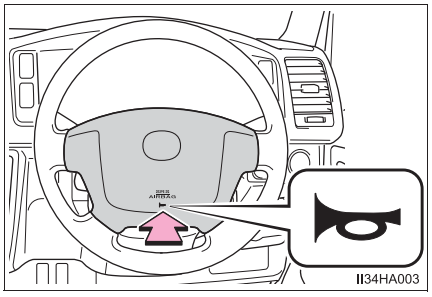
2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。

⚠ 警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

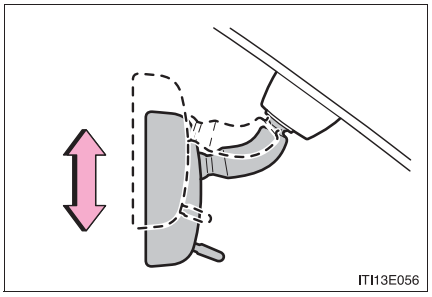
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



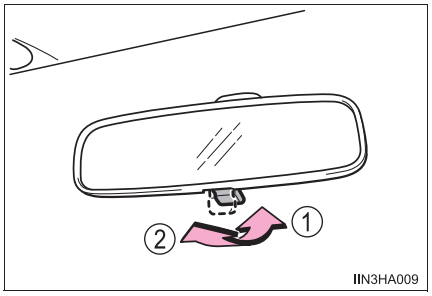
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



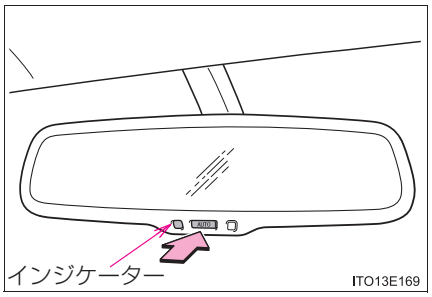
▶ 自動防眩ミラー

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ

ON ／ OFF

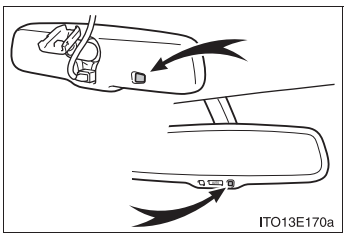
ON のときはインジケーターが点灯します。
エンジンスイッチを“ ON ”にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。



⚠警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

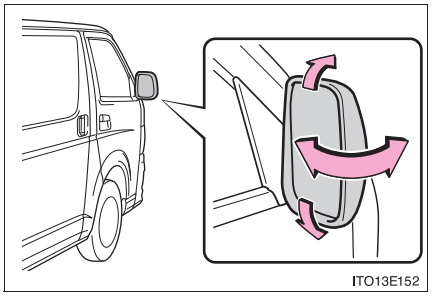
アウターミラー

調整のしかた

▶ 手動タイプ

ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。



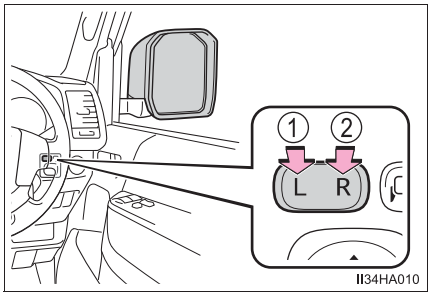
▶ 電動タイプ

スイッチで鏡面の角度調整をします。

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右



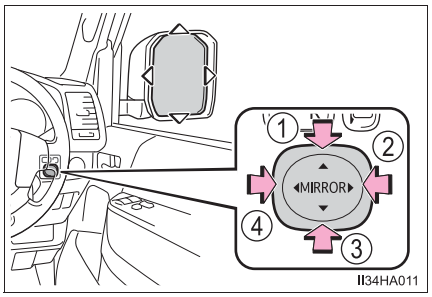
2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

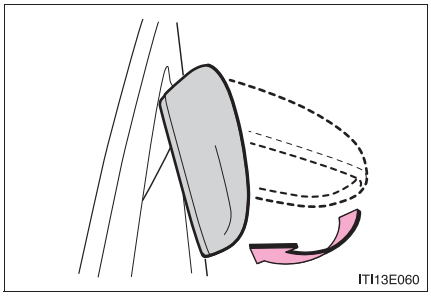
④ 左



アウターミラーを格納する

▶ 手動タイプ

手で後方に押して格納する



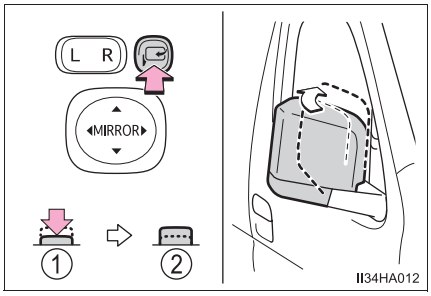
▶ 電動タイプ

ボタンを押してアウターミラーを格納する

① 格納状態

② 復帰状態

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



知識

■作動条件（電動タイプ）

エンジンスイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

■ミラーが曇ったとき（ヒーテッドドアミラー装着車）

リアウインドウデフォッガーを作動させると、ヒーテッドドアミラーが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 217）

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき（電動タイプ）

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

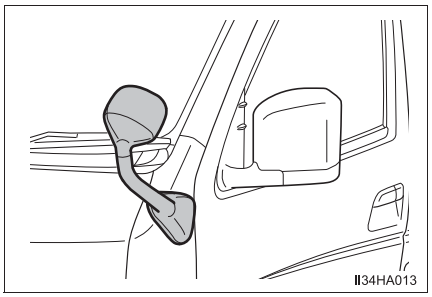
■ヒーテッドドアミラーが作動しているとき（ヒーテッドドアミラー装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助ミラー

フロントアンダーミラー

発進時またはごく低速時に、車両前面を確認するときに役立ちます。

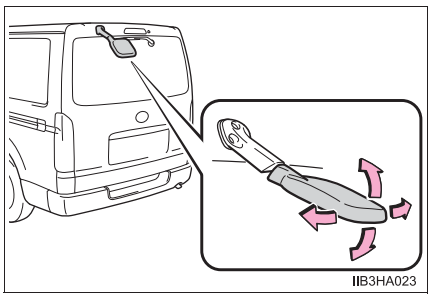


リアアンダーミラー

後退時の視界確保に貢献します。

ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。



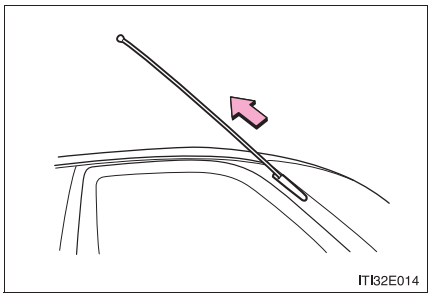
⚠ 注意

■補助ミラーについて

- 補助ミラーの鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー・アウターミラーなども併用し十分注意して行ってください。

アンテナ

ラジオ使用時は、いっぱいまで引き出してください。



⚠ 注意

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機で洗車するとき

パワーウインドウ

調整のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

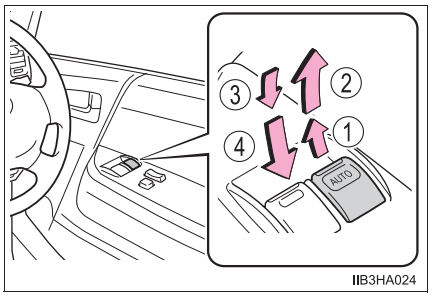
① 閉める

② 自動全閉（運転席のみ）※

③ 開ける

④ 自動全開（運転席のみ）※

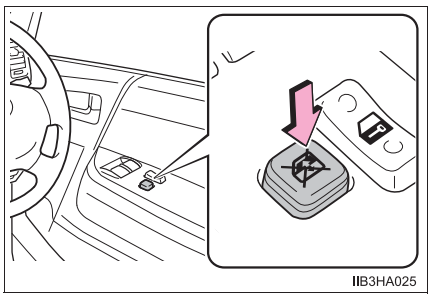
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



パワーウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、助手席のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが “ ON ” のとき

■エンジン OFF 後の作動（運転席ドアガラスのみ）

エンジンスイッチを “ ACC ” または “ LOCK ” にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能（運転席ドアガラスのみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ドアガラスを閉じることができないときは（運転席ドアガラスのみ）

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉じることができないときは、パワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- ●車を停止し、エンジンスイッチを “ ON ” の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。
- ●上記の操作を行ってもドアガラスが閉じない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチを “ ON ” にする

2 半分までドアガラスを開ける

3 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けてドアガラスを全閉し、そのままスイッチを約 1 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを再接続したときは

運転席ドアガラスの自動開閉や挟み込み防止機能などが作動しなくなります。パワーウインドウを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

1 半分まで運転席のドアガラスを開ける

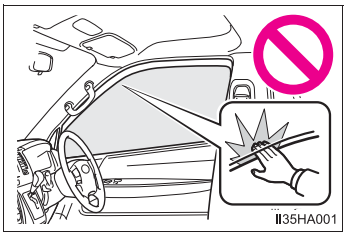
2 スイッチを引き上げて運転席のドアガラスを全閉し、そのままスイッチを 11 秒間保持する

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するときは

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
  また、お子さまが同乗するときはパワーウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 106）
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを “ LOCK ” にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

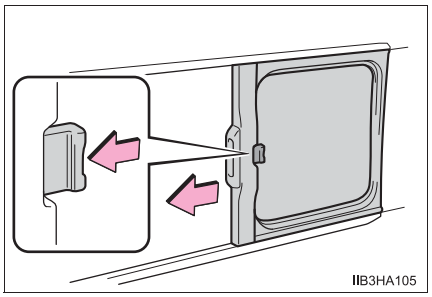
■ 挟み込み防止機能（運転席ドアガラスのみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

スライド式リアサイドガラス

開けるときは、ノブを押してロックをはずし、ガラスをスライドさせる

ガラスの開度は、3 段階から選択できます。
操作後は、ガラスが確実に固定されたことを確認してください。



⚠警告

■スライド式リアサイドガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リアサイドガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、リアサイドガラスの操作をさせないでください。
リアサイドガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

運転 4

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 112
荷物を積むときの注意..... 124

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ 126
オートマチックトランスミッション..... 129
方向指示レバー 134
パーキングブレーキ..... 135

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ..... 136
オートマチックハイビーム ... 140
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 144
ワイパー＆ウォッシャー（リア）..... 146

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方..... 148

4-5. 運転支援装置について
衝突回避支援パッケージ 152
プリクラッシュセーフティシステム..... 158
レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）..... 168
クリアランスソナー..... 176
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 186
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 196
運転を補助する装置..... 200
排出ガス浄化装置..... 206

4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転..... 211

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→P. 126

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 129）

2 パーキングブレーキを解除する（→P. 135）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 129）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 135）、シフトレバーを P にする（→P. 129）

3 エンジンスイッチを “ LOCK ” にしてエンジンを停止する

4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。（→P. 312）

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

急発進の抑制（ドライブスタートコントロール）

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

● R に切りかえたとき ※

● P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 200）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドリング運転について（ディーゼル車のみ）

ターボ装置の損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドリング運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約 1 分

■環境に配慮した運転

→ P. 68

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ドライブスタートコントロールについて

TRC の作動を停止（→ P. 202）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→ P. 202）

■路面状態の悪い泥水路を走行したあとは（ディーゼル車のみ）

尿素水インジェクターの冷却フィンに詰まった異物（泥や木の葉）を取り除いてください。
必要に応じてマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 292を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→P. 129）

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・アウターミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
  やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
  また 4WD 車でも、この車は本格的なオフロード走行を目的とした車両ではありません。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
  急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くマツダ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。
パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。特にディーゼル車は高温になる場合がありますので、注意してください。（→ P. 206）

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また、制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ターボ装置の故障を防ぐために（ディーゼル車のみ）

●高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。
（→ P. 114）

●排気管・エアクリーナなどには純正部品または同等品をお使いください。

●排気管の改造は絶対にしないでください。

●エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。

●定期的なオイル交換を必ず行ってください。（→ P. 342）

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 311 を参照してください。

⚠ 注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずマツダ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- 電動ファンシステム
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物は荷室に積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
  - ・運転席足元
  - ・助手席・フロント中央席・リア席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- ルームセパレーターバーを取りはずした状態で、荷室に荷物を絶対に積まないでください。
  急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。また、ルームセパレーターバーを取りはずしたまま走行すると、不正改造になります。
- 寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- 荷室に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
  乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
  お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

エンジンのかけ方

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

4 エンジンスイッチをまわす

ガソリン車：“ START ” の位置にまわします。

ディーゼル車：“ ON ” の位置までまわし、（予熱表示灯）が点灯後消灯したら “ START ” の位置にまわします。

エンジンスイッチの位置の切りかえ

① “ LOCK ”（OFF）
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。
- キーを抜いたとき、ステアリングロックがかかります。

② “ ACC ”

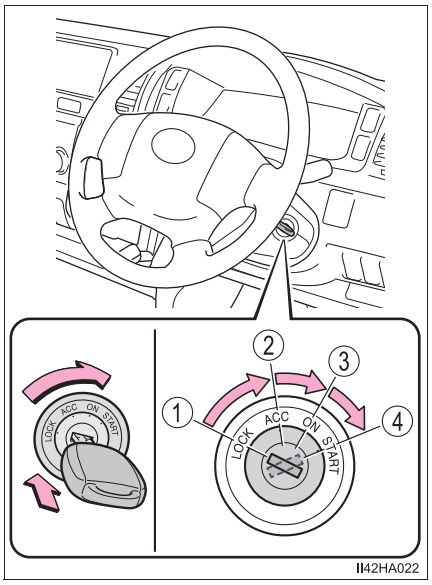
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

③ “ ON ”

すべての電装品が使用できます。

④ “ START ”

エンジンが始動できます。

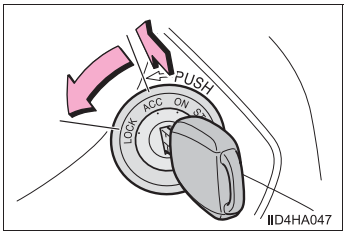


知識

■キーを “ ACC ” から “ LOCK ” にまわすには

1 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

2 キーを押し込みながら “ LOCK ” までまわす

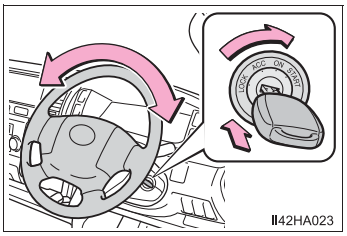


■エンジンが始動しないときは

イモビライザーが解除されていない可能性があります。（→ P. 50）
マツダ販売店へご連絡ください。

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが “ ACC ” または “ LOCK ” のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■極寒時のエンジン始動について（ディーゼル車のみ）

極寒時は約 30 秒を限度に、エンジンが始動するまでエンジンスイッチをまわし続けてください。約 30 秒スターターをまわしても始動しないときは、エンジンスイッチを “ ACC ” にもどし、約 20 秒以上待ってから再始動してください。

⚠ 警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを “LOCK” にしないでください。
緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には “ACC” にしてください。ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
(→ P. 292)

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを “ACC” または “ON” にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

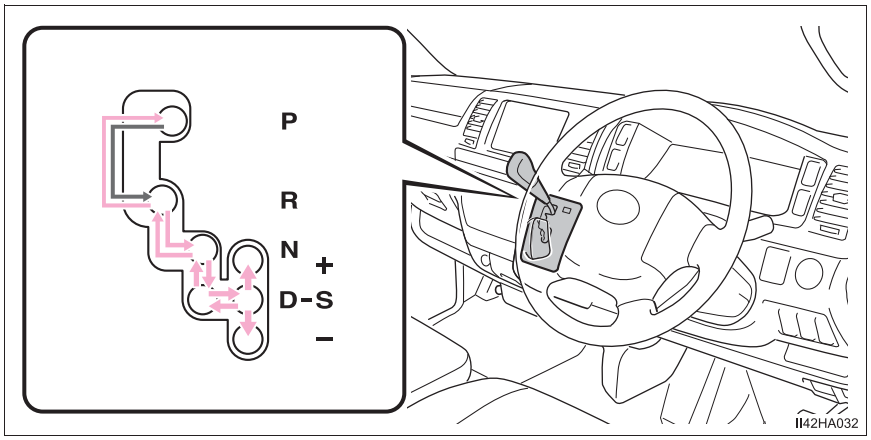
- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

■予熱表示灯について（ディーゼル車のみ）

- 予熱表示灯が消灯してからエンジンを始動してください。消灯する前に始動操作を行うと、バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。
- 予熱表示灯の点灯時間は、エンジンが冷えていると長くなります。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチが “ ON ” の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2（→ P. 130）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

S モードでのシフトレンジ切りかえ

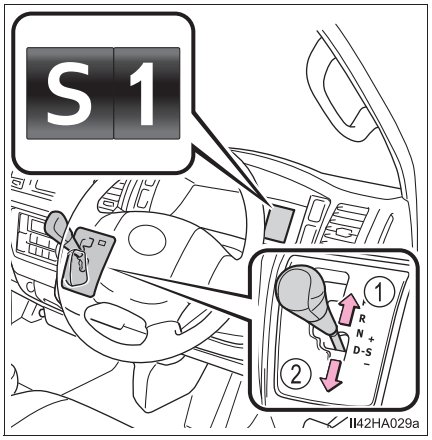
シフトレバーが S の位置にあるとき、シフトレバーを次のように操作できます。

① シフトアップ

② シフトダウン

1 ～ 6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて 5 または 4 レンジに設定されます。
ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが3レンジになる場合があります。
(→ P. 132)



■ シフトレンジ機能

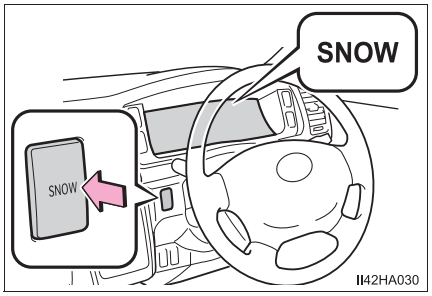
- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

スノーモードの選択★

雪道などすべりやすい路面での発進時に選択します。

スノーモードスイッチを押す

もう一度押すと、解除されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤動作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが “ ON ” でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。
ただし、一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロック解除のしかた：

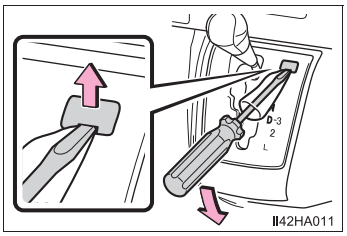
1 パーキングブレーキをかける

2 エンジンスイッチを “ LOCK ” にする

3 ブレーキペダルを踏む

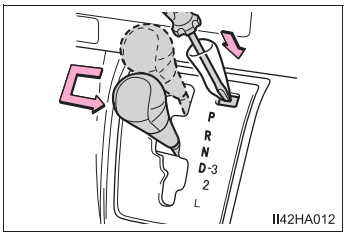
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 ドライバーの先などでシフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■S モードについて

4 レンジ以下のとき、シフトレバーを “ + ” 側へ保持すると 6 レンジに設定されます。

■シフトレバーを S にしても “ S ” が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

■シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■スノーモードの自動解除★

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤに切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに、自動的に作動します。（シフトレバーを S ポジションにすると、機能が解除されます。）

■オートマチックトランスミッション保護機能

ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。
このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤが一時的に固定される場合があります。
トランスミッションの温度が下がるとギヤの固定は解除され、通常作動に戻ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

① 左折

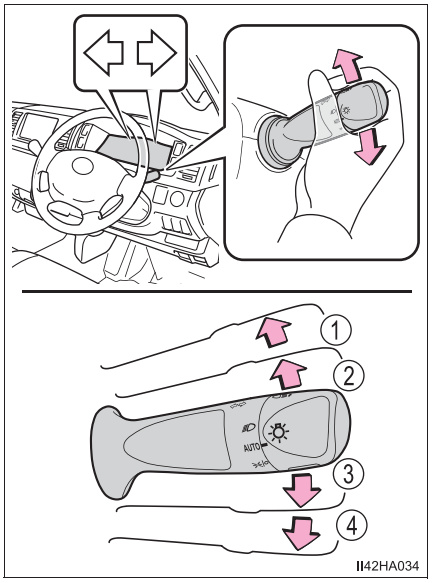
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■作動条件

エンジンスイッチが “ ON ” のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

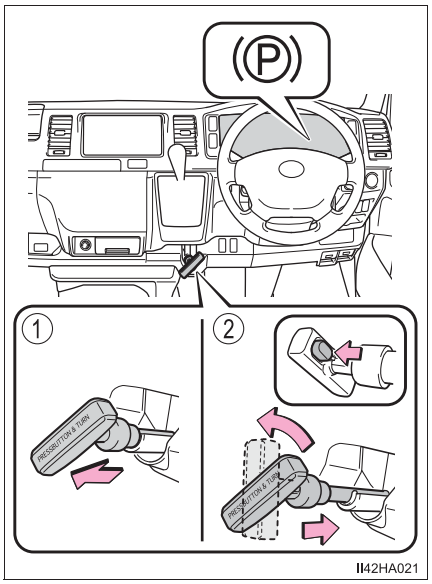
方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

② パーキングブレーキを解除するには、レバー裏側にあるボタンを押しながら左にまわし完全に奥までもどす



知識

■駐車するとき

→P. 112

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 211

⚠ 注意

■走行前の注意

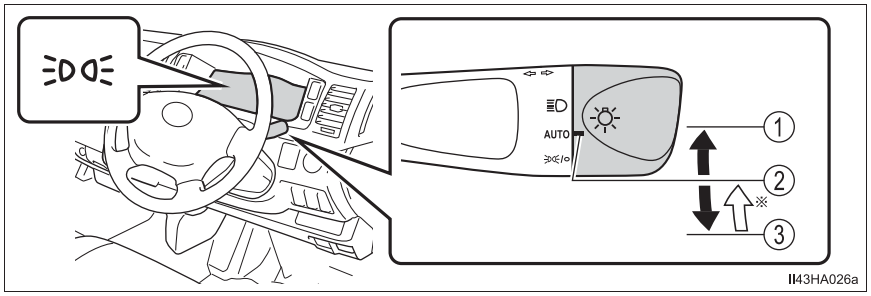
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように　スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③の位置へ操作し手を離すと、自動的に②AUTOの位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
①	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
②AUTO※1	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

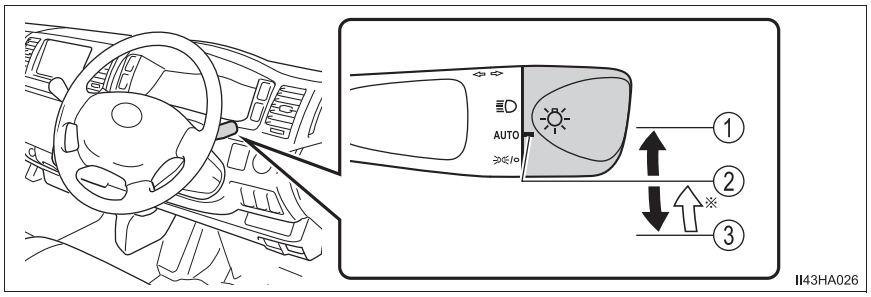
※1 操作するたびに、②AUTOによる点灯状態と③による点灯状態が切りかわります。

※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると②AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを③ OFFの位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に① か③ OFFの位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを③ OFFの位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTOの位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③ OFF	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

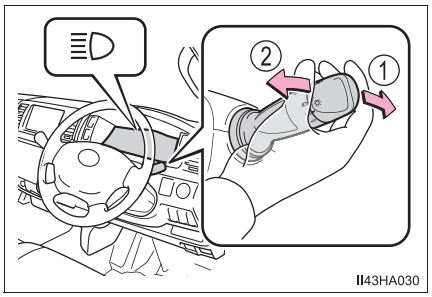
ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

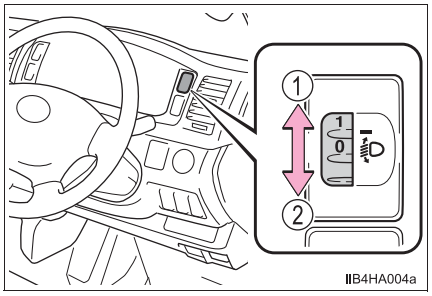


手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員およびフロント中央席乗員	ラゲージルーム満載時	3

知識

■AUTO モードの作動条件

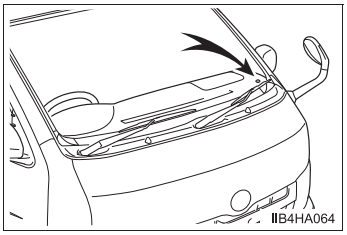
エンジンスイッチが “ ON ” のとき

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを “ ACC ” または “ LOCK ” にして運転席ドアを開けると、すべてのランプが自動的に消灯します。
再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを “ ON ” にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてからまたはの位置にします。

■オートレベリングシステム（LED ヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P. 348）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

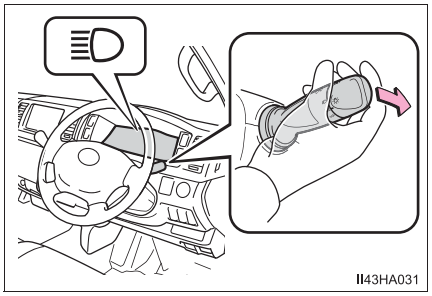
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

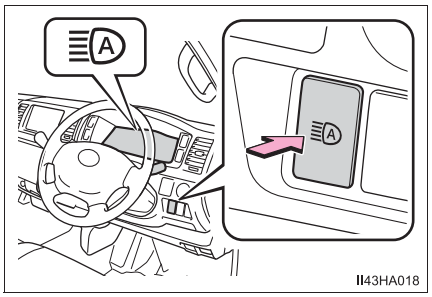
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを≣Dにし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

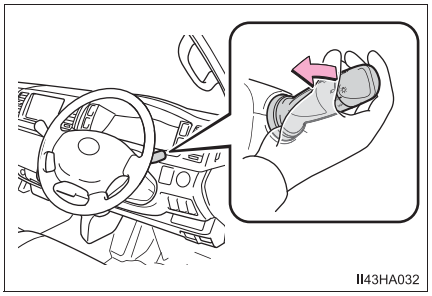
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

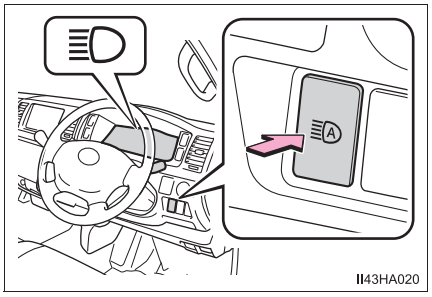


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが “ ON ” のとき

■オートマチックハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・ 他車が前方を横切ったとき
・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●対向車のフォグランプにより、ハイビームからロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・対向車または先行車のランプの明るさ
・対向車または先行車の動きや向き
・対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
・対向車または先行車が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

⚠ 警告

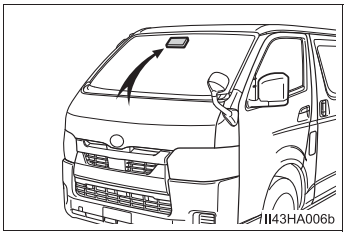
■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

⚠ 注意

■オートマチックハイビームを正しく作動させるために

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- 前方カメラのレンズにふれない
- 前方カメラに強い衝撃を与えない
- 前方カメラを分解しない
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- 前方カメラ周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- マツダ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

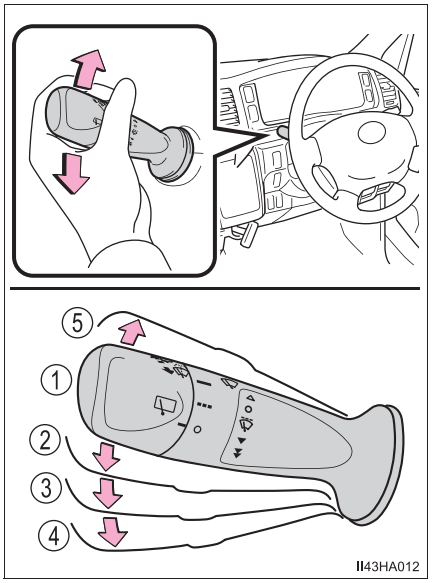
① o 停止

② 間欠作動

③ 低速作動

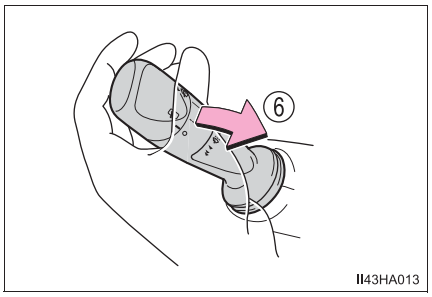
④ 高速作動

⑤ 一時作動



⑥ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが “ ON ” のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リア）

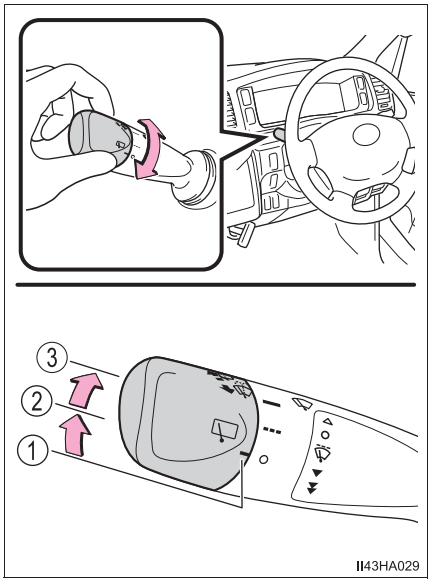
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リアワイパーが作動します。

① o 停止

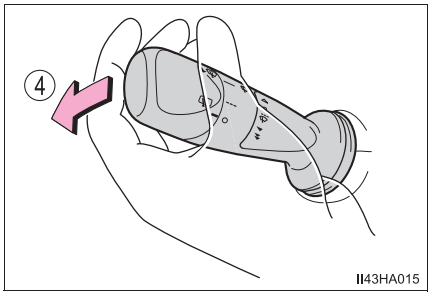
② --- 間欠作動

③ ― 通常作動



④ ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが “ ON ” のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- すべてのドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを “ LOCK ” にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

▶ガソリン車

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

▶ディーゼル車

超低硫黄軽油（S10ppm 以下）

■バイオ混合ガソリンについて

ガソリン車は、エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

⚠ 警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■給油するとき

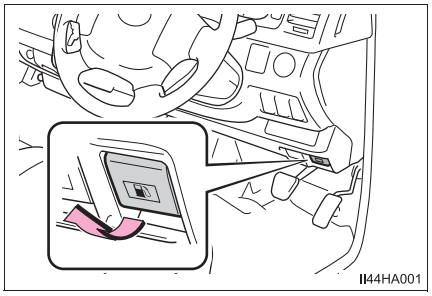
指定のガソリン・軽油を使用してください。
指定以外のガソリンまたは軽油や、他の燃料（粗悪ガソリン・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する
- 排出ガス浄化装置が正常に機能しない（ディーゼル車のみ）
  指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

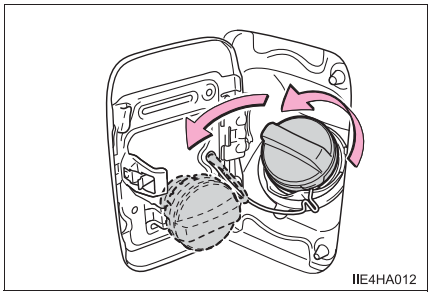
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを引いて、給油扉を開ける



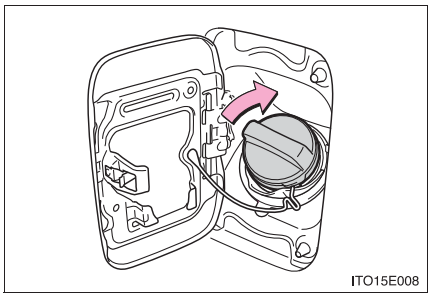
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずマツダ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

衝突回避支援パッケージ※

衝突回避支援パッケージは、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ プリクラッシュセーフティシステム

→P. 158

◆ レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）

→P. 168

◆ オートマチックハイビーム

→P. 140

※ レーダークルーズコントロールは装着されていません。

⚠ 警告

■衝突回避支援パッケージについて

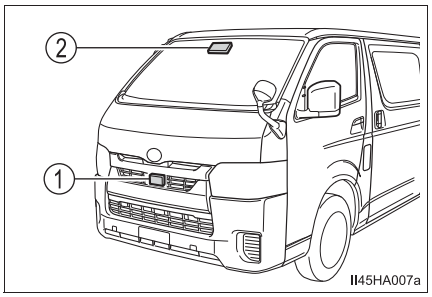
衝突回避支援パッケージは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダー

② 前方カメラ



⚠ 警告

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

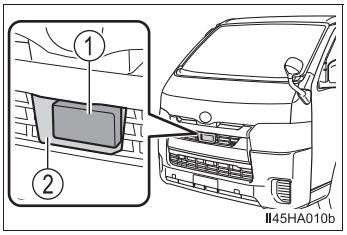
●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

① レーダー

② レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
・ フロントバンパーを交換したとき

⚠ 警告

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

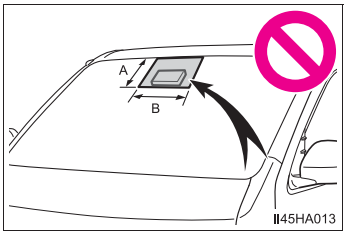
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、マツダ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A:フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P. 217）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

⚠ 警告

- ●前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- ●前方カメラに強い衝撃を加えない
- ●前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- ●前方カメラを分解しない
- ●インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
- ●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ●ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■ **レーダーの取り扱い**

本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。認証番号:202-LSE009
本製品の改造は禁止されています。(適合証明番号などが無効となります)

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はマツダ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く （フロントウインドウガラスの曇りを取るには： →P. 217）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
「プリクラッシュセーフティ 現在使用できません」が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はマツダ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には「プリクラッシュセーフティ 一時使用不可しばらくお待ちください」が表示されます。

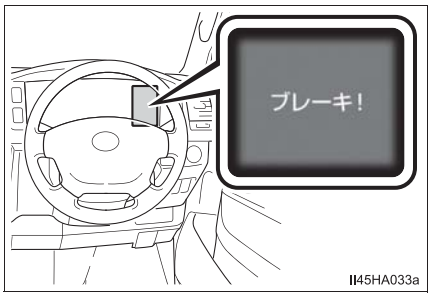
プリクラッシュセーフティシステム

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 161）

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ･･･”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき:→P. 163
・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 165

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

⚠ 警告

■プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき

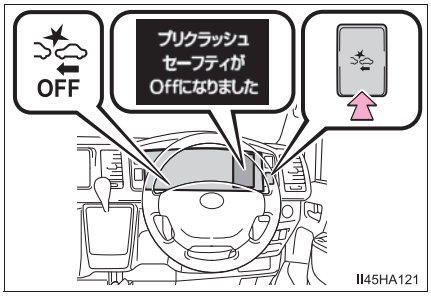
次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする

プリクラッシュセーフティシステムスイッチを 3 秒以上押す



プリクラッシュセーフティシステム警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度プリクラッシュセーフティシステムスイッチを押します。

エンジンスイッチが “ ON ” になるたびシステムは ON になります。

■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

プリクラッシュセーフティシステムスイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示され、表示された状態でプリクラッシュセーフティシステムスイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

エンジンスイッチを “LOCK” にしても選択した警報タイミングは継続します。

① 遠い

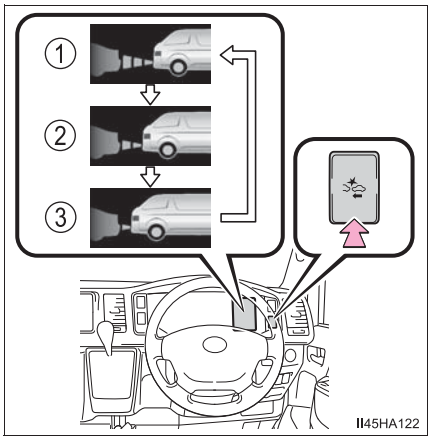
「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

・ 自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト

・ 自車速度約 30 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ～ 80km/h）
・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ

・ 自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

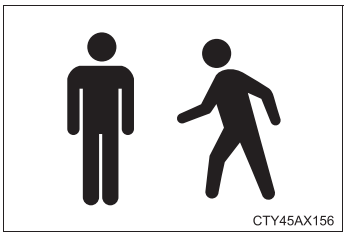
●シフトレバーが R のとき

●ダイナミック･スタビリティ･コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ･輪郭･動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き･姿勢･角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 167）



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

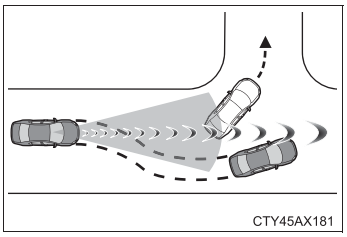
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

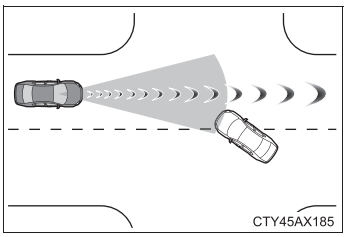
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

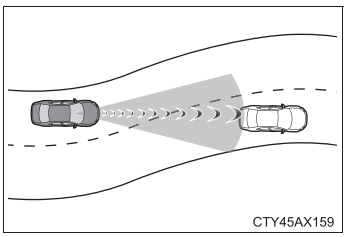
・車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
・車線を変更して先行車を追いこすとき
・車線変更している先行車を追い抜くとき
・右左折する先行車を追いこすとき



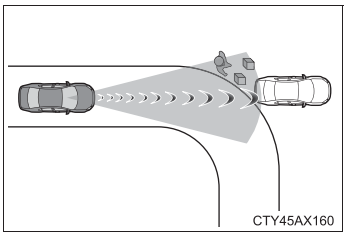
・右左折待ちの対向車とすれ違うとき



・隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

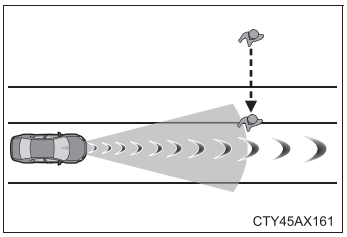


・前方車両に急接近したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

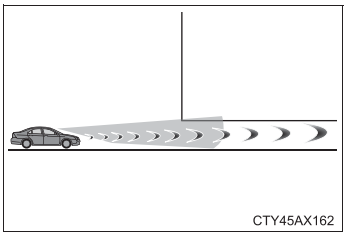


・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
・路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

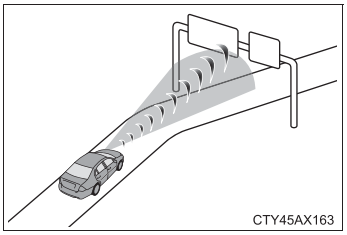
・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

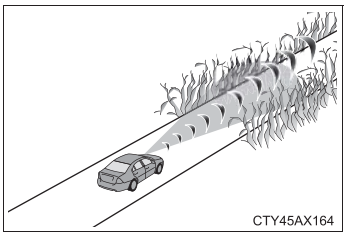


・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
・洗車機を使用するとき

・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

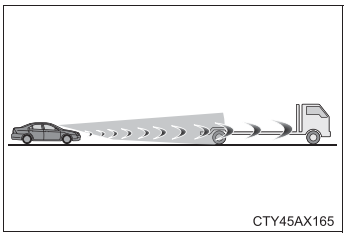


・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・路面または壁面に車両や歩行者との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

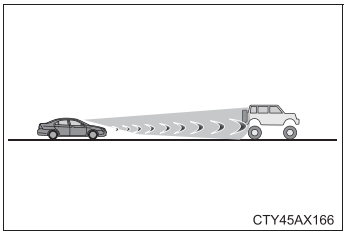
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

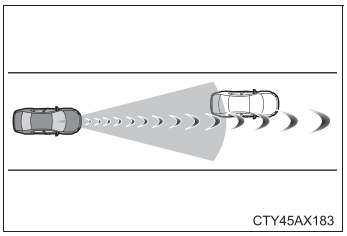
・前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
・前方車両がオートバイ・自転車のとき
・車両の側面または前面に近付いたとき
・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）


CTY45AX165

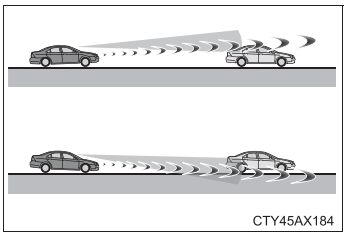
・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき


CTY45AX166

・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
・前方車両と自車の中心がずれているとき


CTY45AX183

・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき
・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき


CTY45AX184

・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
・ふらつき運転をしているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合(ブレーキ部品が極度に冷えている･過熱している・ぬれているなど)
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

●例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・身長が約 1m 以下、または約 2 m 以上の歩行者
・合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
・ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
・集団でいる歩行者
・白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
・夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
・服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
・壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
・路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
・歩く速度が速い歩行者
・歩く速度を急激に変化させている歩行者
・物陰から飛び出してきた歩行者
・車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）を停止したとき

●ダイナミック･スタビリティ･コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）の作動を停止（→ P. 202）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

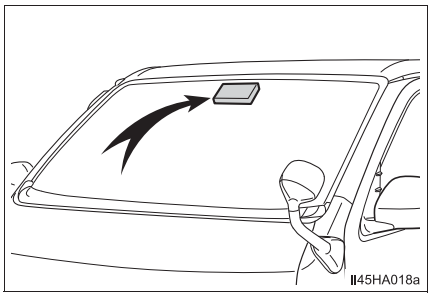
●プリクラッシュセーフティシステム警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のため プリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）

機能概要

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）は、フロントウインドウガラス上部の前方カメラで、白（黄）線を認識します。

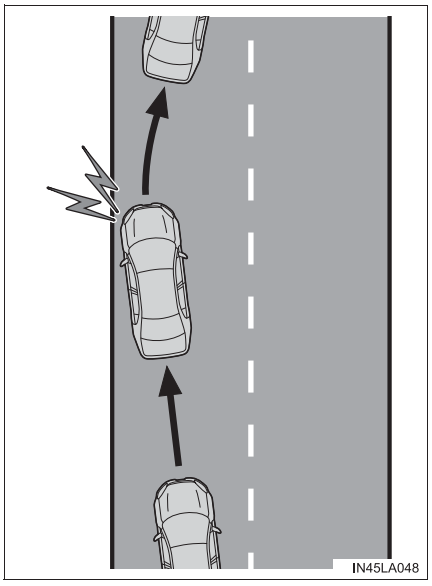


レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）に含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

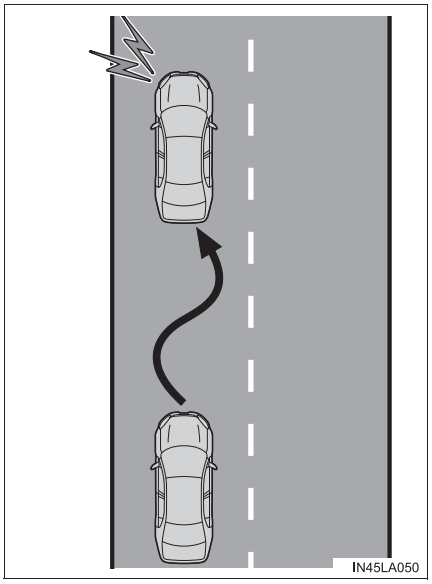
車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



◆ ふらつき検知機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



⚠ 警告

■レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）をお使いになる前に

レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を過信しないでください。レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■誤作動を防ぐために

レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を使用しないときは、レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）スイッチでシステムを OFF にしてください。

■レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を使用してはいけない状況

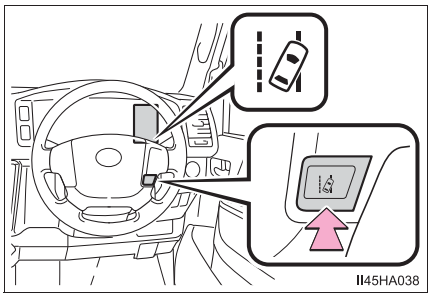
次の状況では、レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき

■レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

設定のしかた



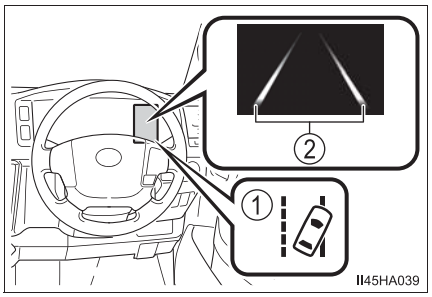
レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）スイッチを押すごとにレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）の ON ／ OFF が切りかわります。

レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を ON にするとレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯が緑色に点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに車線逸脱警報機能情報が表示されます。

レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を OFF にするとレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯が黄色に点灯します。

エンジンスイッチを “ ON ” にするたびにレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）は ON になります。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



① レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

緑色に点灯：車線逸脱監視中

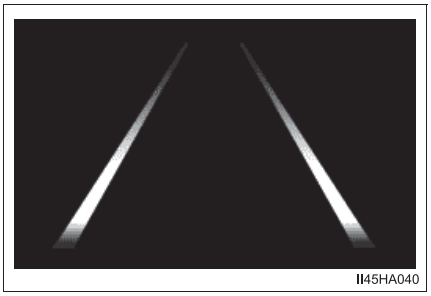
黄色に点滅：車線逸脱警報中

黄色に点灯：レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）OFF時、レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）異常時またはレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）一時使用不可時

② 車線逸脱警報機能情報

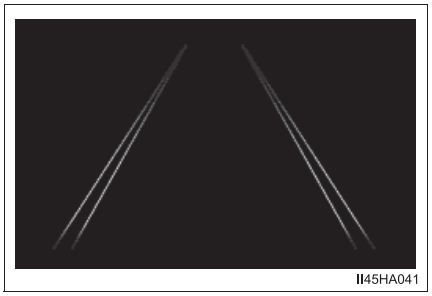
マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を ON にしているとき
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ システムが白（黄）線を認識しているとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 175）

●ふらつき検知機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ マルチインフォメーションディスプレイの 画面で「ふらつき検知」を「有」に設定しているとき（→ P. 347）
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 175）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 173）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

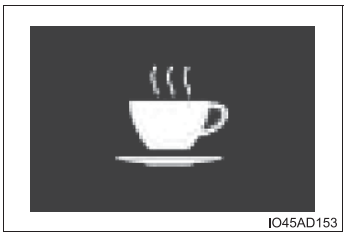
■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■ふらつき検知機能について

ふらつき検知機能の作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図に示すシンボルが表示され注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。


IO45AD153

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方カメラが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
●白(黄)線がかすれている、またはキャッツアイ(道路鋲)や置き石などがあるとき
●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
●分岐・合流路などを走行しているとき
●坂道を走行しているとき
●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
●急カーブを走行しているとき
●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
●先行車との車間距離が極端に短くなったとき
●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯が黄色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
LDA 故障 販売店で点検してください	システムが正常に作動しなくなっているおそれがある → マツダ販売店で点検を受けてください。
前方カメラ 一時使用不可 しばらくお待ちください	前方カメラの作動条件（温度など）が満たされていない → 前方カメラの作動条件（温度など）が満たされると、レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）は使用可能になります。いったんレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を OFF にして、しばらく待ってから、再度レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を ON にしてください。
LDA 現在利用できません	前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している → いったんレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を OFF にして、警告メッセージの内容に対処したあと、しばらくしてから再度、レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を ON にしてください
LDA 約 50km/h 以下で 使用できません	車速が約 50km/h 以下のためレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）が使用できません → 約 50km/h より速い速度で走行してください。

その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報	警報感度
ふらつき検知機能	機能の ON ／ OFF
	警報感度

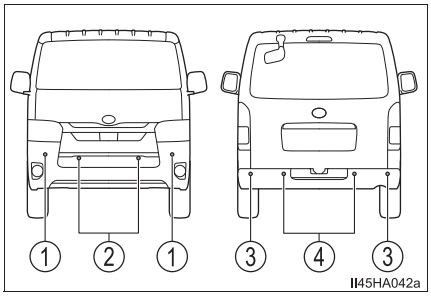
設定変更のしかたは、P. 347 を参照してください。

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイで運転者にお知らせします。

センサーの位置・種類

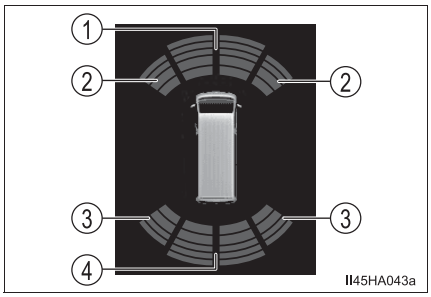
① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リアコーナーセンサー
④ リアセンターセンサー



クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

① フロントセンターセンサー作動表示
② フロントコーナーセンサー作動表示
③ リアコーナーセンサー作動表示
④ リアセンターセンサー作動表示



クリアランスソナーの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 64）から、クリアランスソナーの ON（作動）／ OFF（非作動）を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチ（→ P. 65）の ∧ または、∨ を押して「クリアランスソナー」を選択し、メーター操作スイッチの「OK」を押す

2 メーター操作スイッチの ∧ または、∨ を押して「クリアランスソナー」を選択し、メーター操作スイッチの「OK」を押す

クリアランスソナーが OFF（非作動）になっているときは、クリアランスソナー OFF 表示灯が点灯します。（→ P. 58）

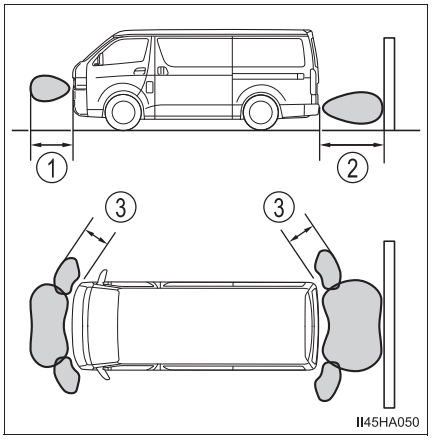
OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

静止物を検知できる範囲

① 約 100cm
② 約 150cm
③ 約 60cm

検知できる範囲は右図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



距離表示の見方

マルチインフォメーションディスプレイ※	静止物までのおおよその距離	
	フロントコーナー&フロントセンターセンサー	リアコーナー&リアセンターセンサー
 （点灯）	フロントセンターセンサーのみ： 約 100cm ～ 60cm	リアセンターセンサーのみ： 約 150cm ～ 60cm
 （点灯）	約 60cm ～ 45cm	約 60cm ～ 45cm
 （点灯）	約 45cm ～ 30cm	約 45cm ～ 30cm
 （点灯および枠が遅い点滅）	約 30cm ～ 15cm	約 30cm ～ 15cm
 （点灯および枠が早い点滅）	約 15cm 以下	約 15cm 以下

※ イラストは説明のための例であり、表示により異なります（→ P. 176）

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30 cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。ただし、静止物のと距離が約 30cm 以下のときは消音されません。（自動ミュート機能）

ブザーの音量を変更することができます。

知識

■作動条件

●エンジンスイッチが “ ON ” のとき

●クリアランスソナーが ON のとき

●シフトレバーが P 以外にあるとき

●車速が約 10km/h 以下のとき

■ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。
(→ P. 349)

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

メーター操作スイッチの「OK」を押すとクリアランスソナーのブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトレバーを切りかえたとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●エンジンスイッチを “ LOCK ” にしたとき

●シフトレバーが D または S で、車速が約 15 km/h 以上のとき

●クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●次のような状況では、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

・ オーディオ使用時
・ エアコン使用時
・ 他システムのブザー音吹鳴時

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

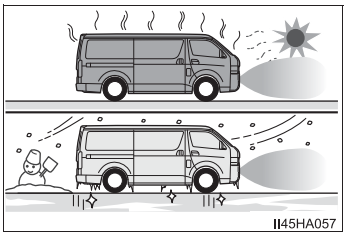
●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

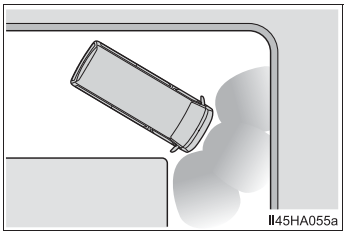
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

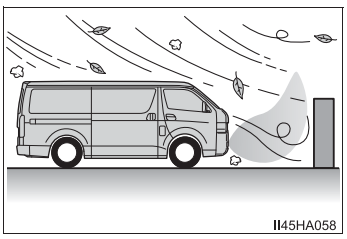
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴･氷･雪･泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません　ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障　販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません」が表示されたときは

●大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

●バッテリーを脱着したあとに、初期化がされていないことが考えられます。
システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■カスタマイズ機能

センサーの検知範囲を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 349）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はマツダ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はマツダ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

⚠ 警告

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- マツダ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗浄機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 自走式洗車機を使用する場合は、システムを OFF にして下さい。

⚠ 注意

■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点灯もしくは点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）があります。

◆ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→ P. 196

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB （パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

⚠ 注意

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは**

エンジンスイッチを “ ON ” にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスソナーセンサーの周辺の汚れを取り除いてください。

システムを作動させるには

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 64）から、PKSB（パーキングサポートブレーキ）の ON（作動）／ OFF（非作動）を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチ（→ P. 65）の ∧ または、∨ を押して「PKSB」を選択し、メーター操作スイッチの「OK」を押す

2 マルチインフォメーションディスプレイの表示内容に従って、メーター操作スイッチの ∧ または、∨ を押して「はい」または、「いいえ」を選択し、メーター操作スイッチの「OK」を押す

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF（非作動）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。（→ P. 58）

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「加速抑制中です」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「アクセルが踏まれています　ブレーキを踏みなおしてください」

アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏んでください」が表示されます。

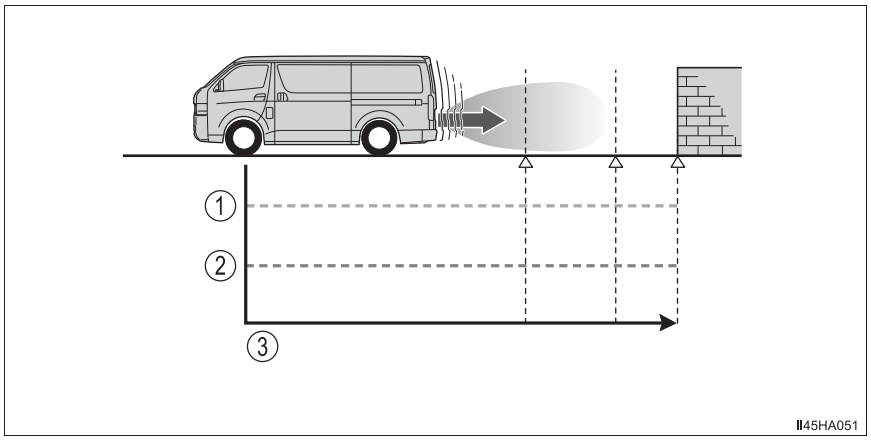
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

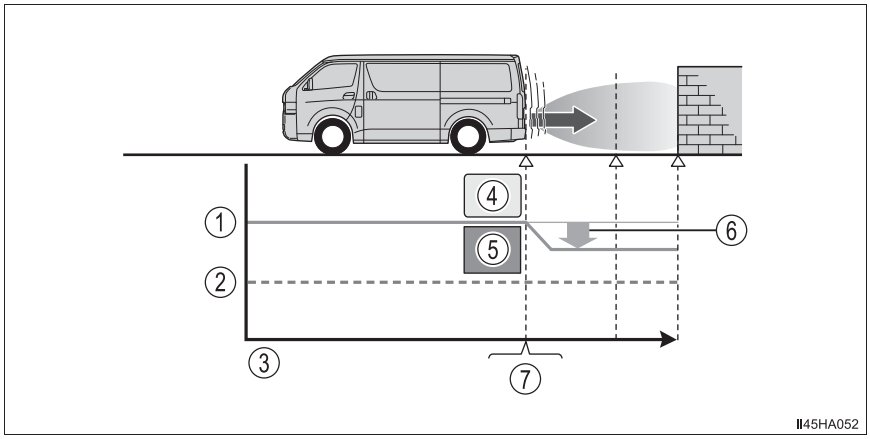


① エンジン出力

② 制動力

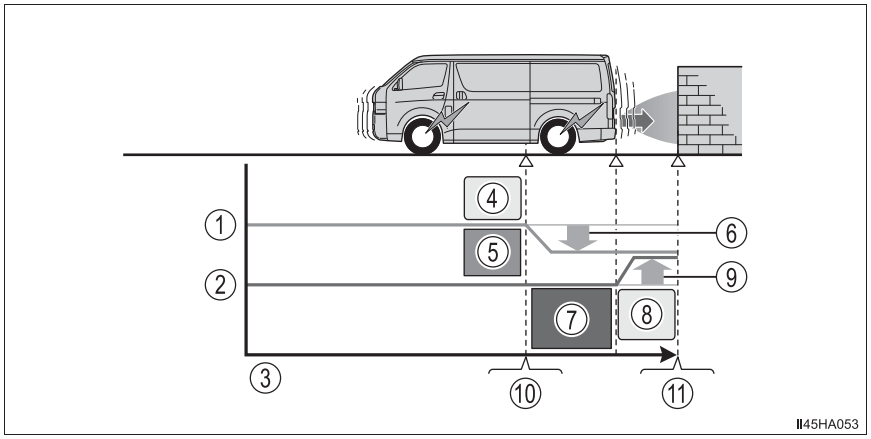
③ 時間

● 図 2（エンジン出力抑制制御時）



① エンジン出力
② 制動力
③ 時間
④ エンジン出力抑制制御開始
⑤ 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき
⑥ エンジン出力を抑える
⑦ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「ブレーキ！」

● 図３（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



① エンジン出力
② 制動力
③ 時間
④ エンジン出力抑制制御開始
⑤ 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき
⑥ エンジン出力を抑える
⑦ 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき
⑧ ブレーキ制御開始
⑨ ブレーキ制御を上げる
⑩ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「ブレーキ！」
⑪ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「アクセルが踏まれています ブレーキを踏みなおしてください」

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合、次のいずれかを行うと、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰します。このとき、PKSB OFF 表示灯が消灯します。（→ P. 58）

- PKSB システムを ON（作動）にする（→ P. 189）
- エンジンスイッチを “ LOCK ” にしてから、再度 “ ON ” にする
- シフトレバーを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。 この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはマツダ販売店で点検を受けてください。
- センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。
- 大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」と「クリアランスソナー使用できません　ソナーの汚れを除去してください」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

●センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。 この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはマツダ販売店で点検を受けてください。

●センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。

●大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

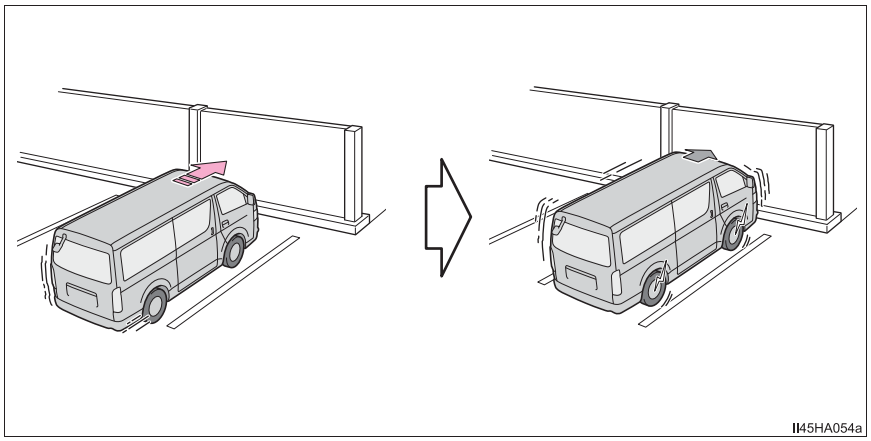
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

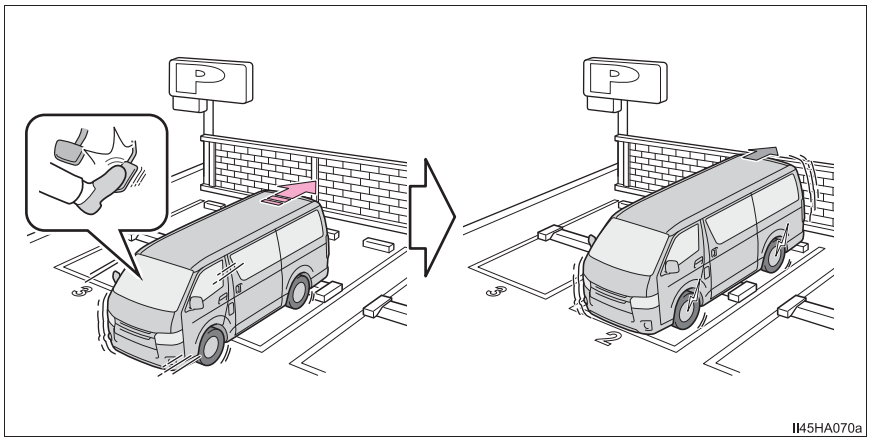
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

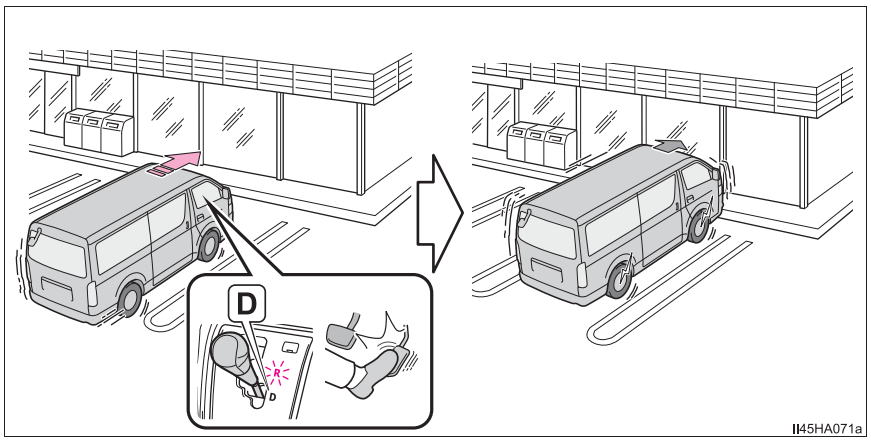
■ **低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→ P. 176

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→ P. 184

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→ P. 194

■洗車時の注意

→ P. 185

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 57, 58）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物がある（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・エンジン出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約2～4m先まで）

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約2～4m先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 177）とは異なります。
そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 181

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 182

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ 4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

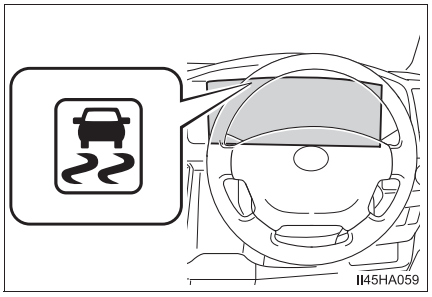
上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）が作動しているとき

TRC･ダイナミック･スタビリティ･コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

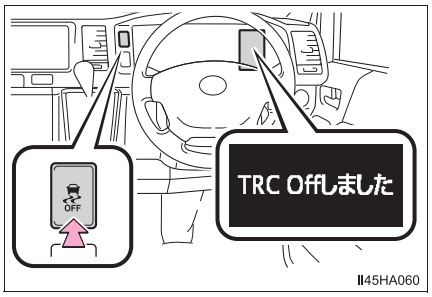
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■TRC とダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）を停止するには

TRC とダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持する

ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。プリクラッシュセーフティシステム警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 167）

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はマツダ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- ●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- ●車両停止状態
- ●アクセルペダルを踏んでいない
- ●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- ●シフトレバーを P または N のシフト位置にした
- ●アクセルペダルを踏んだ
- ●パーキングブレーキをかけた
- ●ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）・ブレーキアシスト・TRC・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）の自動復帰について

TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを “ LOCK ” にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRC とダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

⚠ 警告

■4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム［横滑り防止機構］（DSC）が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

⚠ 警告

■TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）を OFF にするときは

TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）を作動停止状態にしないでください。TRC や ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 345）
異なったタイヤを装着すると、4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）・TRC・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、マツダ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

排出ガス浄化装置★

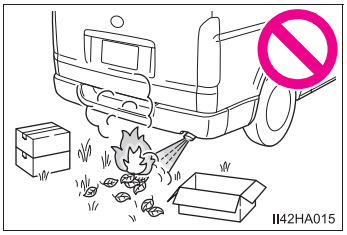
排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

⚠ 警告

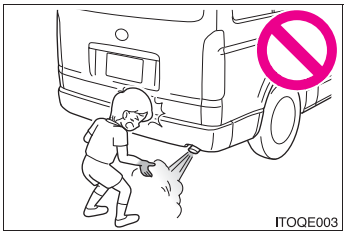
■ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。

●燃えやすい物や乾いた草の近くに車を停車しない



●排気管周辺に人がいないことを確認する



●車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼処理を行わない

●燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■排出ガス浄化装置の故障を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不可 販売店で点検してください」と表示されたまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などがないか定期的に点検する
  異常が発見された場合は、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

◆ 燃焼（再生）処理について

- 一般走行では数百km※走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。自動で燃焼処理が行われているときは、マルチインフォメーションディスプレイに “DPF 再生中” が表示されます。
- ススが規定量以上になったとき、スイッチ操作で燃焼処理を行うことができます。（→ P. 209）

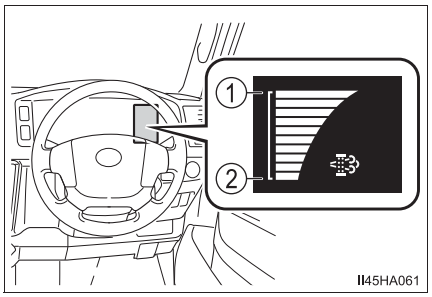
※ 気候や走行状況等により異なります。

◆ 排出ガス浄化装置について

排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

- 燃焼処理中はアイドリング回転数が上がる
- 排気ガスの臭いが従来のディーゼル車とは異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

排出ガス浄化装置堆積モニターについて



マルチインフォメーションディスプレイ内の表示で、ススの堆積量を確認することができます。メーター操作スイッチ（→ P. 65）の〈または、〉を押して を選択し、メーター操作スイッチの∧または、∨を押して排出ガス浄化装置堆積モニターを選択してください。

① 多い

② 少ない

ススの堆積量が規定以上になると、マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」が表示されます。表示を確認したら必ずススの燃焼（再生）処理をしてください。（→ P. 209）

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたときは

● マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」と表示されたときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

1 車を安全な場所に停車する

2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

エンジンは停止しないでください。
また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。（→ P. 206）

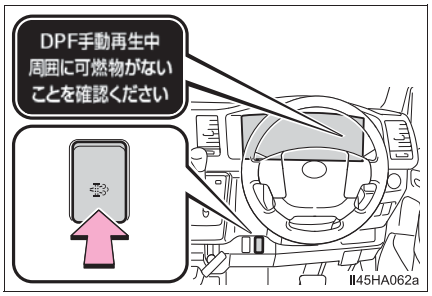
エンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、アクセルペダルを踏み込んでエンジンを暖めてください。※1

3 排出ガス浄化スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、アイドリング回転数が上がります。

燃焼（再生）処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消え、アイドリング回転数がもとにもどります。

燃焼（再生）処理が終了するまでに、約 30 ～ 40 分 ※2 程度の時間が必要です。



※1 状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでアクセルペダルを踏み込む必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

※2 燃焼（再生）に必要な時間は、外気温により異なります。また、排出ガス浄化スイッチを押してから 10 分後のエンジン回転数が約 2000rpm のときは、排気ガスの温度が低い状態です。その場合は、アクセルペダルを踏み込んで、しばらくのあいだ約 3000rpm までエンジン回転数を上げてください。

● マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不可 販売店で点検してください」と表示されたときは、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

■燃焼処理について

●排出ガス浄化スイッチを押したあとは、アクセルペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。

●燃焼（再生）処理が終了した後は、排気管をきれいにするために数回空ぶかしをしてください。

●走行直後など排気管の温度が高いときに行うと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

■エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。（→ P. 341）

■排出ガス浄化装置の警告メッセージについて

走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドリングストップを行った場合などに、通常より早く「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」が表示される場合があります。

注意

■排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたとき

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯します ※。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

※ このときは、排出ガス浄化スイッチが機能しなくなります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
  - ・燃料（ディーゼル車のみ）
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 260）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止めをしてください。（→ P. 312）輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと ※ を確認してください。

※ ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。マツダ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■ディーゼル車の燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以下にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安※
JIS 2 号軽油	− 5 ℃
JIS 3 号軽油	− 12 ℃
JIS 特 3 号軽油	− 19 ℃

※ 環境や使用状況により異なります。

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

⚠ 注意

■ タイヤチェーンの使用について

マツダ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
マツダ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

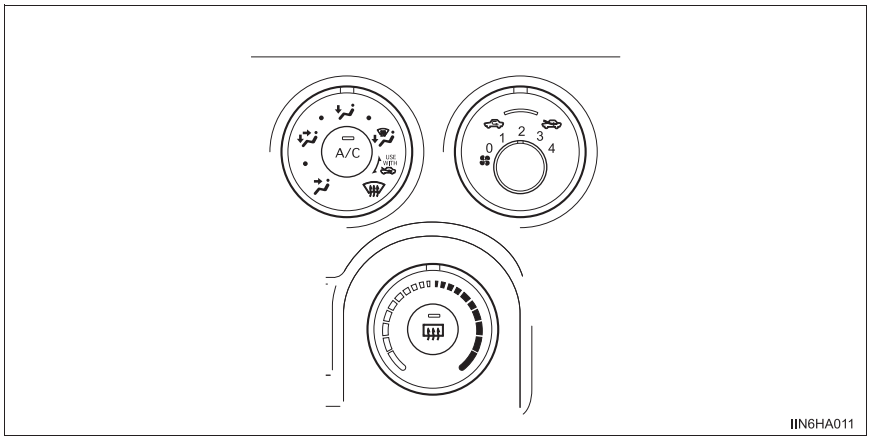
たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能 5

5-1. エアコン・デフォッガーの使い方
マニュアルエアコン.....216
リアクーラー.....221
リアヒーター.....223
パワーヒーター.....224
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧.....226
・フロントルームランプ／リアルームランプ.....227
5-3. 収納装備の使い方
収納装備一覧.....228
・グローブボックス.....229
・マルチユースシートバックコンソール.....230
・カップホルダー／ボトルホルダー.....231
・カードホルダー.....232
・オープントレイ.....233
荷室内装備.....234
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備.....235
・サンバイザー.....235
・灰皿.....236
・アクセサリーソケット.....237

マニュアルエアコン

エアコン操作について



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときはを右に、下げるときは左にまわす

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには A/C スイッチを押します。

A/C スイッチのインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときはを右に、減らすときは左にまわす

送風を止めるときは、ダイヤルを 0 の位置にします。

■ 吹き出し口を切りかえる

をまわす

ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

をまわす

内気循環にするには、ダイヤルの位置を にします。

外気導入にするには、ダイヤルの位置を にします。

■ フロントガラスの曇りを取るには

を の位置に合わせる

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

A/C スイッチを押してエアコン（冷房・除湿機能）を ON にすると、曇りが早く取れます。

■ リアウインドウデフォッガー & ヒーテッドドアミラー★

リアウインドウの曇りを取るときや、アウターミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

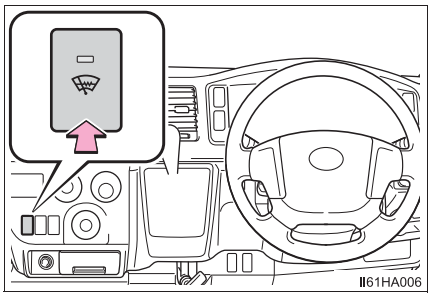
リアウインドウデフォッガーとヒーテッドドアミラーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

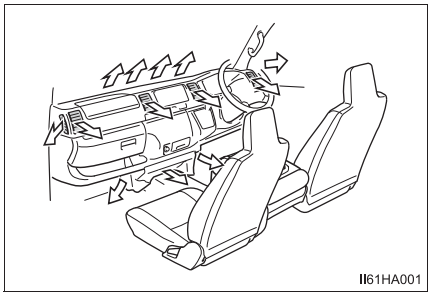


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

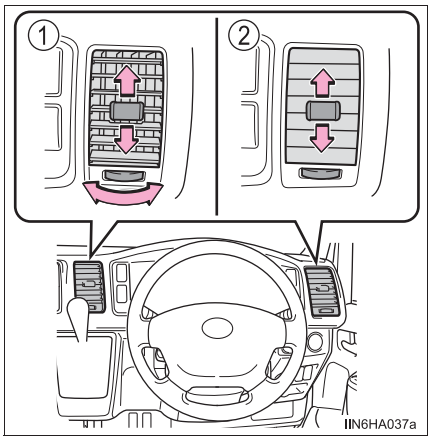
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●A/C スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内気循環／外気導入について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■PTC ヒーター★

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

●ファンが作動しているとき

●最大暖房時

●エンジン冷間時

●外気温が低いとき

■エアコンフィルターについて

→ P. 265

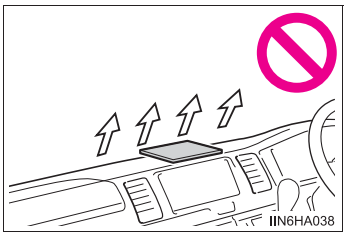
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、をの位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リアウインドウデフォッガー&ヒーテッドドアミラー★作動中の警告

アウターミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

フロントウインドウガラス下部の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

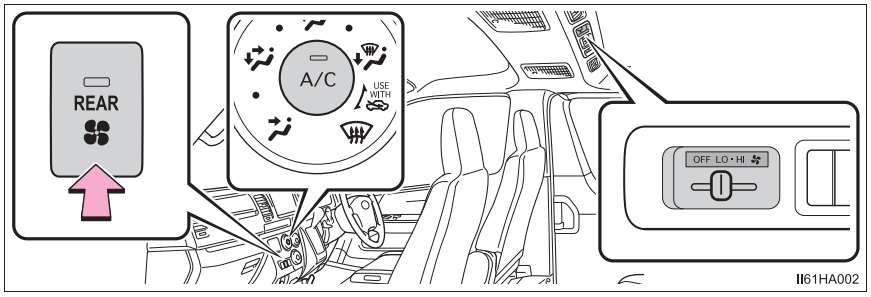
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リアクーラー★

後部座席付近を冷房することができます。



リアクーラーを使用する前に

フロントエアコンの A/C スイッチが ON になっていることを確認し、リアクーラーメインスイッチを ON にしてください。

A/C スイッチが OFF のときは、リアクーラーの冷房・除湿機能が作動せず、送風のみとなります。

リアクーラーを使用するには

ファン調整レバーを右（増）か左（減）に操作する

送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

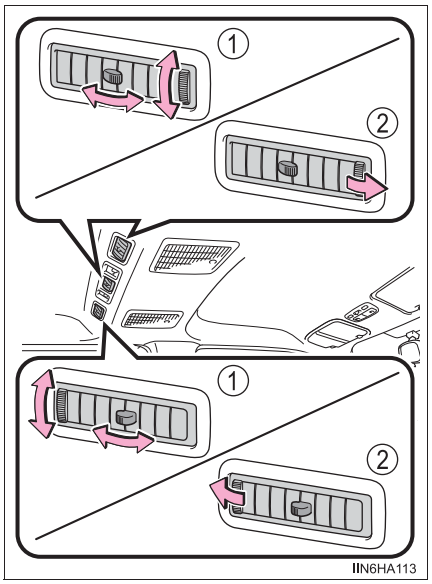
① 風向きの調整

ノブを上下左右に動かして、風向きを調整します。

② 吹き出し口の開閉

センター：閉めるときは、ノブをいっぱいまで右に動かします。

サイド：閉めるときは、ノブをいっぱいまで車両外側に動かします。



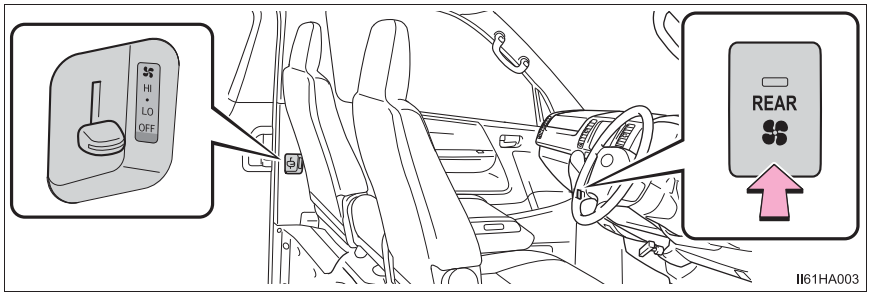
⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリアクーラーを使用しないでください。

リアヒーター★

車内の後方部分を暖房することができます。



リアヒーターを使用する前に

リアヒーターメインスイッチを ON にしてください。

リアヒーターを使用するには

ファン調整レバーを上（増）か下（減）に操作する

送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリアヒーターを使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーヒーター★

車両の暖房機能を補助する装置です。

パワーヒーターの機能について

次の 2 つの機能により、寒冷時の暖房効果を高めます。

- アイドルアップ機能

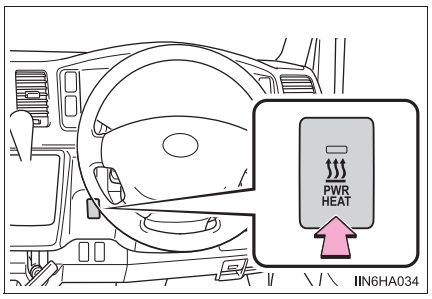
  エンジンが冷えているときにアイドル回転数が上がり、暖房効果を高めます

- ホットガスヒーター機能

  エアコン装置を利用する補助ヒーターです。作動条件が満たされているとき、自動的に働きます。

パワーヒーターを使用するには

パワーヒータースイッチを押す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ホットガスヒーター機能の作動条件

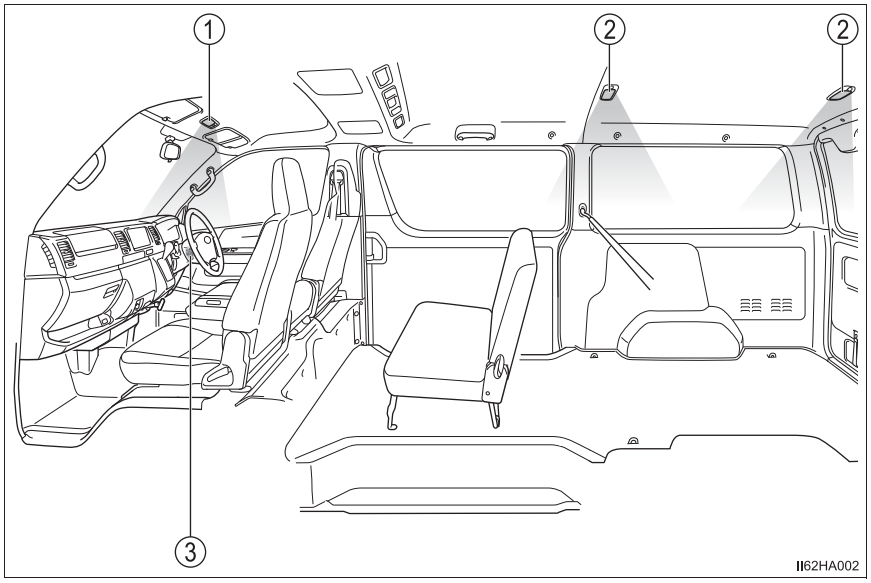
パワーヒータースイッチが ON で、次の条件をすべて満たすと、自動で作動します。

- ファンが作動しているとき
- エンジンが冷えているとき
- 外気温が低いとき（約 3 ～ 5 ℃以下）

■ホットガスヒーター機能の制限事項

- エアコン（冷房・除湿機能）が ON だと、ホットガスヒーター機能が作動しにくくなります。
- − 30 ℃を下まわるような極寒時には作動しません。

室内灯一覧



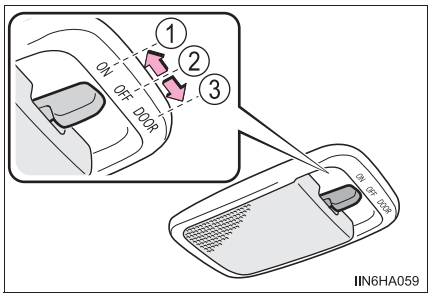
① フロントルームランプ（→ P. 227）
② リアルームランプ（→ P. 227）
③ エンジンスイッチ照明

フロントルームランプ／リアルームランプ

① ランプを点灯する

② ランプを消灯する

③ フロントルームランプ：ドアの開閉作動に連動して、ランプ点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）
リアルームランプ：スライドドアまたはバックドアの開閉作動に連動して、ランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）



知識

●イルミネーテッドエントリーシステム：

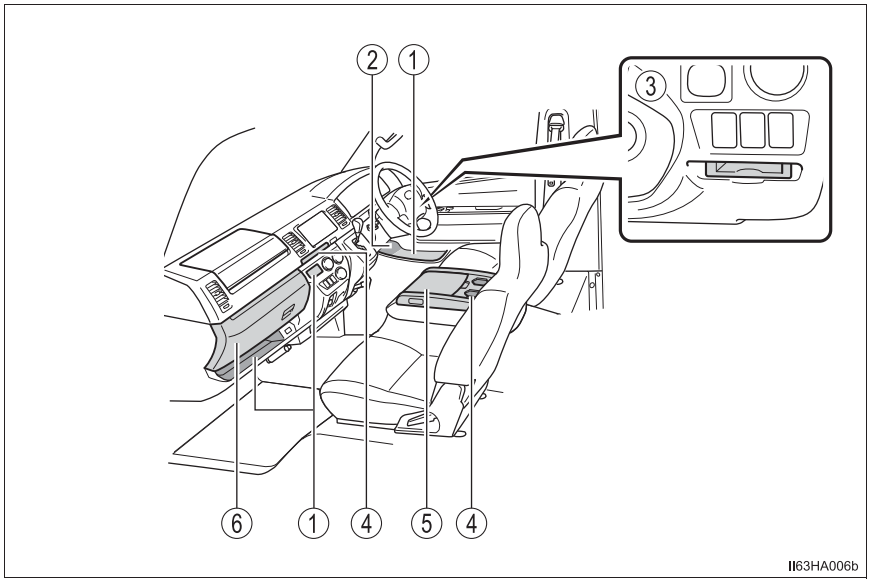
ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

●エンジンスイッチが “ LOCK ” の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① オープントレイ（→P. 233）
② ボトルホルダー（→P. 231）
③ カードホルダー（→P. 232）
④ カップホルダー（→P. 231）
⑤ マルチユースシートバック コンソール（→P. 230）
⑥ グローブボックス（→P. 229）

⚠ 警告

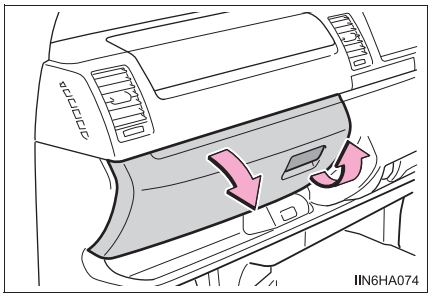
●メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

●収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

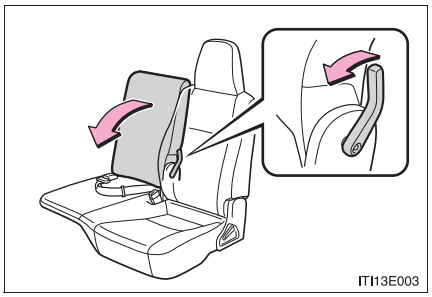
グローブボックス

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる



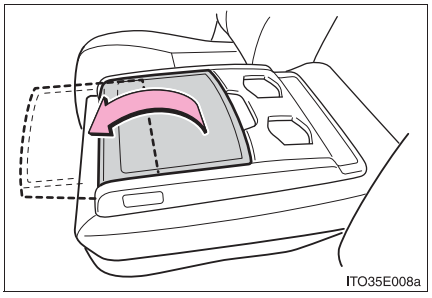
マルチユースシートバックコンソール

1 レバーを引いて中央席を前に倒す（→P. 89）



2 フタを持ち上げて開ける

フタを前方に倒すと、テーブルとして使用することができます。



⚠ 警告

- けがを防ぐために、マルチユースシートバックコンソールのフタを閉じた状態にしてください。
- マルチユースシートバックコンソールのフタを開けたまま走行しないでください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

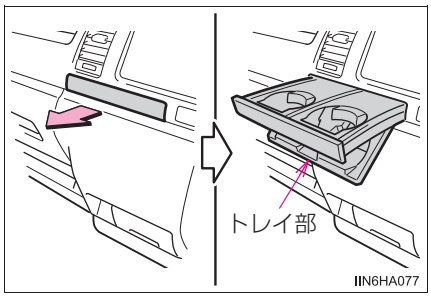
⚠ 注意

マルチユースシートバックコンソールの破損を防ぐために、マルチユースシートバックコンソールのフタをテーブルとして使用するときは、テーブル部に手をついたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

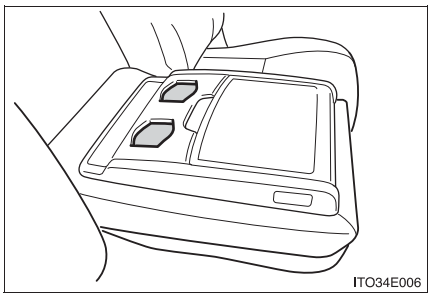
▶ インストルメントパネル



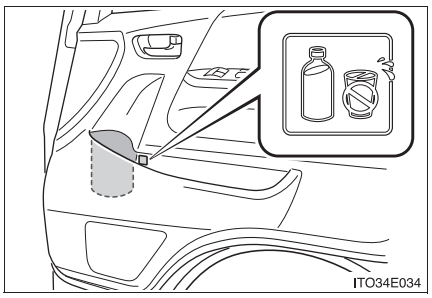
使用するときは、手前にいっぱいまで引き出す

もどすときは、トレイ部を上げてから押し込みます。

▶ マルチユースシートバックコンソール



■ ボトルホルダー



知識

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

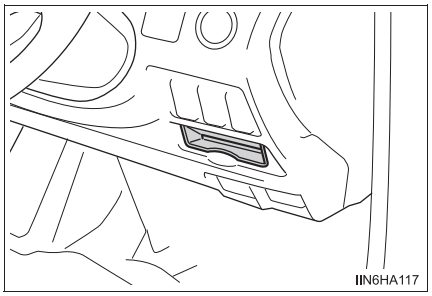
⚠ 警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。
- インストルメントパネルのカップホルダーを使わないときは、必ずもとにもどしておいてください。
  急ブレーキ時などに、カップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

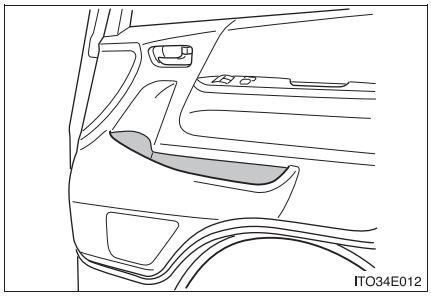
- カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- インストルメントパネルのカップホルダーは、必ずいっぱいまで引き出して使用してください。中間位置で使用すると、走行中にカップホルダーが動いて、飲み物がこぼれるおそれがあります。
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カードホルダー

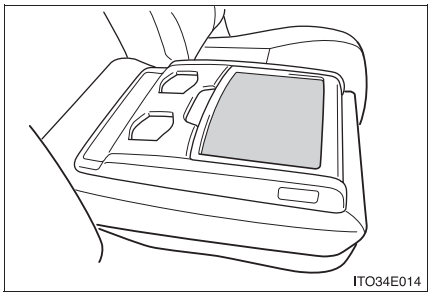


オープントレイ

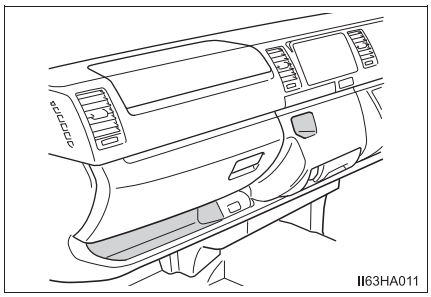
▶ フロントドア



▶ マルチユースシートバックコンソール



▶ インストルメントパネル



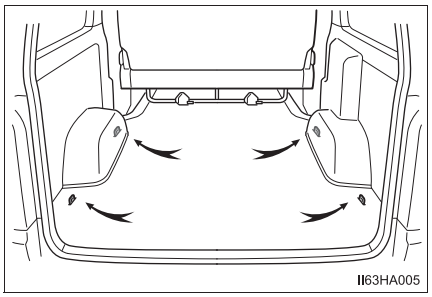
⚠ 警告

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出すなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

荷室内装備

荷物固定用フック

市販のネットやロープなどを使って荷物を固定することができます。



⚠ 警告

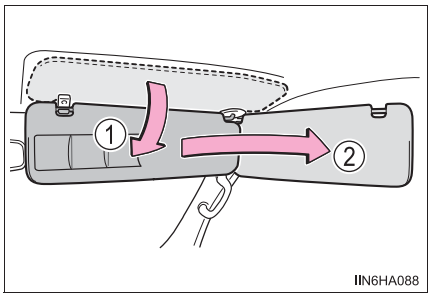
荷物固定用フックを使用しないときは、けがをしないように必ずもとの位置にもどしておいてください。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

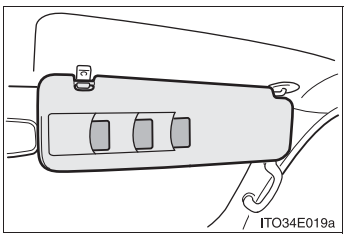
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



知識

■3 連式カードホルダー（運転席側サンバイザー）

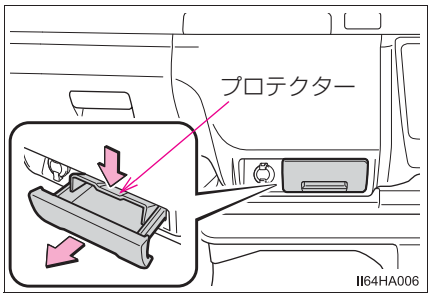
カード類を収納することができます。



灰皿

フタを手前に引いて開ける

取りはずすときは、プロテクターを押さえて手前に引き出します。



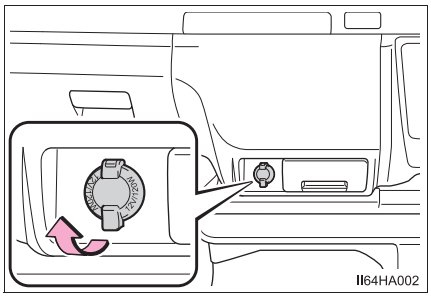
⚠ 警告

- 使用しないときは、灰皿のフタを必ず閉じてください。
  急ブレーキ時などに、開いた灰皿が体にあたったり、灰が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 出火を防ぐために、マッチ・タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、灰皿のフタを確実に閉めてください。
- 出火を防ぐために、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

アクセサリーソケット

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。
DC12V ／ 10A（消費電力 120W）未満の電気製品

フタを開ける



知識

■作動条件

エンジンスイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

■エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる 場合があります。

注意

■ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間使用しないでください。（エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用しないでください）

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....240
内装の手入れ.....244
6-2. 簡単な点検・部品交換
エンジン点検口.....247
ボンネット 250
ガレージジャッキ.....252
AdBlue®（尿素水）の補充 254
ウォッシャー液の補充 259
タイヤについて.....260
タイヤ空気圧について 263
エアコンフィルターの清掃 265
キーの電池交換.....268
ヒューズの点検・交換 271
電球（バルブ）の交換 274

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、マツダケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはマツダ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ●アウターミラー・アンテナを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアウターミラーを復帰状態にもどしてください。
- ●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うときは

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しないください
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。ディーゼル車は特に高温になりますのでご注意ください。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・ 海岸地帯を走行したあと
・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使うときは

車両前面を洗浄するブラシは作動させないでください。
フロントアンダーミラー（→ P. 104）が破損するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

→ P. 105

⚠ 注意

■高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - ・駆動系部品
  - ・ステアリング部品
  - ・サスペンション部品
  - ・ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施ください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠警告

■車の故障や車両火災を防ぐために

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 車内で可燃性のスプレー（洗浄剤・消臭剤・潤滑剤など）を使用する場合は、電気部品などにかからないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。（→ P. 30）電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P. 153)

■リアウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

エンジン点検口

エンジンカバーを持ち上げて、エンジンルームの点検などが行えます。

エンジン点検口を開ける前に

開ける角度によっては、リアシートやルームセパレーターバーが干渉する場合があります。エンジン点検口を開ける前に、確認・調整を行ってください。（→ P. 91, 94）

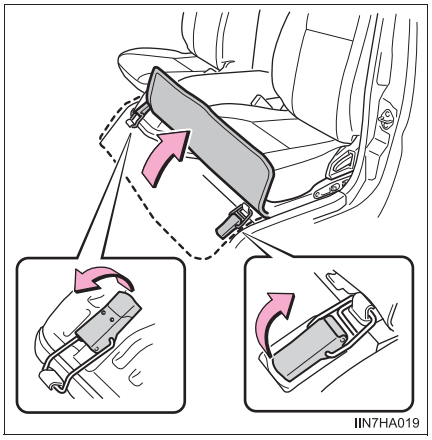
エンジン点検口の開け方

1 エンジンを停止し、シフトレバーをＰにする

2 パーキングブレーキを確実にかける（→ P. 135）

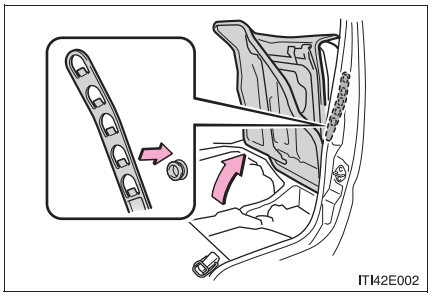
3 助手席・中央席を前倒しする（→ P. 88）

4 カバーをめくってロック（2ヶ所）を解除する



5 エンジンカバーを持ち上げ、バンドをフックにかけて固定する

フックをバンドの穴にしっかりとはめ込んで、確実に固定されたことを確認してください。



6 エンジン点検口を閉めるときは逆の手順で操作する

ルームセパレーターバーを取りはずした場合は、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。

⚠ 警告

■走行前の確認

エンジンカバーがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にシートが突然動いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンカバーを開けるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

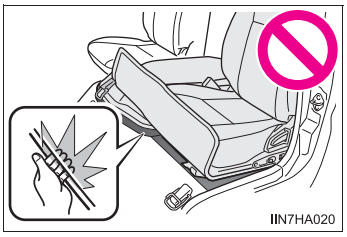
- 走行中にエンジンカバーを開けない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする
- お子さまに操作させない

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■エンジンカバーを閉めるときは

エンジンカバーを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■エンジンカバーを開ける前の注意

エンジンカバーを開けると、マルチユースシートバックコンソールも同時に持ち上がります。荷物の破損などを防ぐため、次のことをお守りください。

- マルチユースシートバックコンソール上に荷物がある場合は降ろしておく
- カップホルダーに飲み物が置かれていないことを確認する

■エンジンカバーを閉めるときは

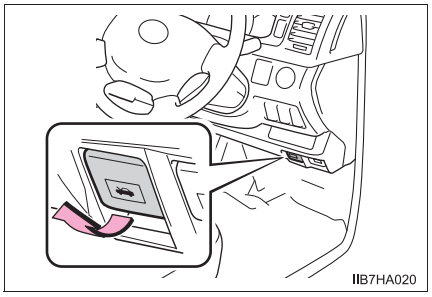
シートベルトを挟み込まないように注意してください。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

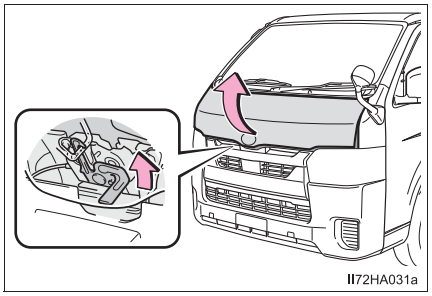
1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

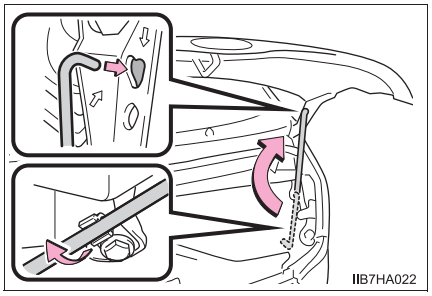


2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

開けるときにボンネットが補助ミラーにあたる場合は、補助ミラーを調整してください。



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



⚠ 警告

■走行前の確認

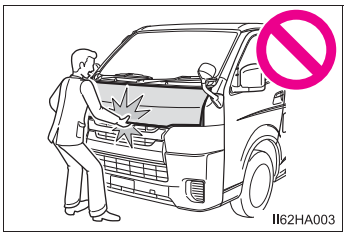
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネット内を点検したあとは

ボンネット内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをボンネット内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、ボンネット内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

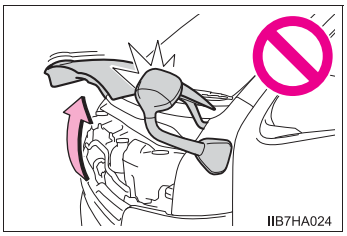


⚠ 注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- 補助ミラーの位置によっては、ボンネットがあたり、ボンネットとミラーが損傷するおそれがあります。

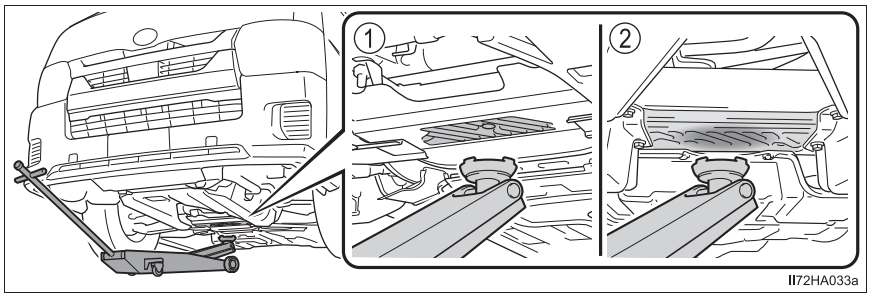
ボンネットを開けるときに補助ミラーにあたる場合は、補助ミラーの位置を調整してください。



ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ちあげるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

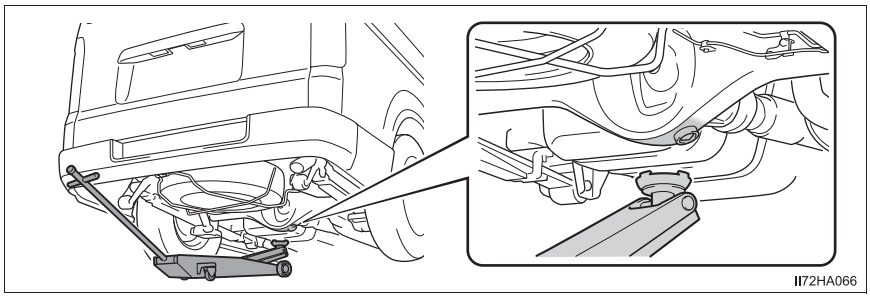
◆ フロント側



① FR 車

② 4WD 車

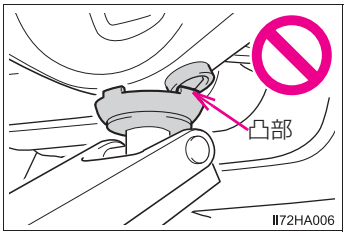
◆ リア側



⚠ 注意

■ ガレージジャッキでリア側を持ちあげるとき

ガレージジャッキの受け皿の凸部がボルトにあたらないようにしてください。ボルトがゆるんでオイルがもれるおそれがあります。



AdBlue®（尿素水）の補充★

この車は排気ガス中の窒素酸化物を低減するために AdBlue® を使用しています。AdBlue® について、次のことにご留意ください。

- AdBlue® は走行に従って消費されます。
- AdBlue®の残量がなくなると、エンジンを再始動できなくなります。

走行可能距離について

AdBlue® の消費量は運転状況や走行環境などにより異なります。
AdBlue® の消費量が多くなると、AdBlue® の補給が必要になるまでの走行可能距離が短くなります。

走行可能距離		
短※1 ⟷ 長		
[高負荷走行] ・アクセルを深く踏み込んでいるとき ・長い上り坂を走行しているとき ・排出ガス浄化装置が働いているとき	[通常走行]※2	[低負荷走行] ・短距離を走行するとき ・渋滞のとき

※1 高地（標高が高いとき）や気温が低い時も、AdBlue® の消費量が増加します。

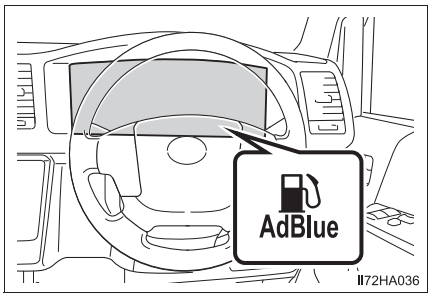
※2 通常の走行では、約 1000km 走行すると、1L の AdBlue® を消費します。また、最大まで補充した状態から約10400km走行すると、残量がなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AdBlue® の警告灯・警告メッセージ

AdBlue® の残量が少なくなると警告メッセージと警告灯でお知らせします。

走行可能距離が約 2000km 以下になると警告灯が点灯し、警告メッセージが表示されます。



■マルチインフォメーションディスプレイに AdBlue® に関する警告メッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

警告メッセージ	対処方法
「AdBlue が低下 2000km 以内に 補充必要 取扱書を確認」※1, 2	AdBlue® をいっぱいまで補充してください。
「あと 800 km で 再始動不可 AdBlue 補充必要 取扱書を確認」※1, 2	表示されている距離をこえて走行すると、エンジンを再始動できなくなります。ただちに AdBlue® をいっぱいまで補充してください。
「エンジン再始動不可 AdBlue 補充必要 取扱書を確認」※2	ただちに AdBlue® をいっぱいまで補充してください。 エンジンを停止させると、再始動できません。エンジンを停止せず、ただちにマツダ販売店にご連絡ください。

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離は、目安としてご利用ください。補充方法・運転状況・走行環境などにより、表示された走行可能距離と実際の走行距離とが異なる場合があります。（→ P. 254）

※2 警告メッセージに合わせてマスターウォーニングが点灯し、ブザーが鳴ります。

知識

■ **AdBlue® 残量表示**

マルチインフォメーションディスプレイ内の表示で AdBlue® の残量を確認することができます。（→ P. 64）

注意

■ **AdBlue® の残量が少なくなったとき**

AdBlue® の残量がなくなると、エンジンを始動できなくなります。
残量がなくなる前に AdBlue® をいっぱいまで補充してください。

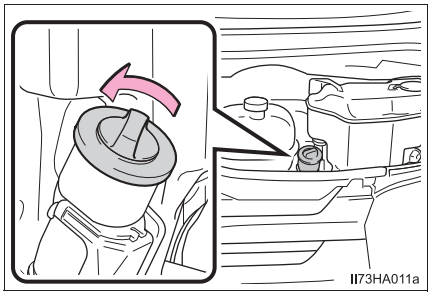
AdBlue® を補充するときは

AdBlue® は AdBlue® 取り扱い給油所の補充装置で補充することができます。※ 次の手順で AdBlue® を補充してください。

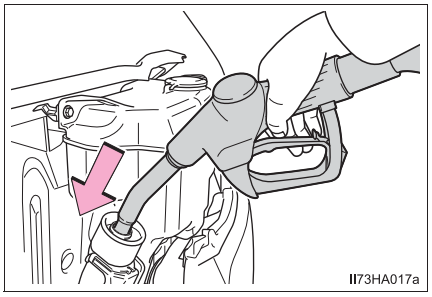
※ マツダ販売店でも補充することができます。

1 平坦な場所に駐車してエンジンスイッチを “LOCK” にし、ボンネットを開ける（→ P. 250）

2 補給口のキャップを開ける

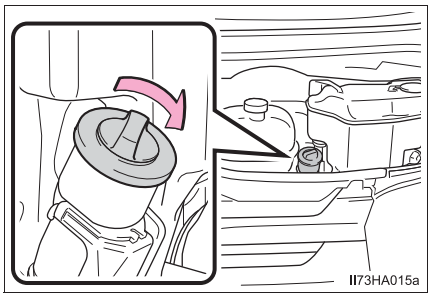


3 ノズルを挿入し AdBlue® をいっぱいまで補充する



4 補給口のキャップを閉める

キャップが「カチッ」と鳴るまで閉めてください。



5 エンジンが始動することを確認する

警告灯・警告メッセージが消えたことを確認してください。

知識

■ **AdBlue® の補充について**

AdBlue®（ISO 22241-1 に準拠したもの）を使用してください。

AdBlue®（アドブルー）はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

■ **AdBlue® を補充するとき**

AdBlue® の補充後は、エンジンが始動するまでの時間が通常よりも数秒、長くなることがあります。

■ **AdBlue® タンクについて**

タンク容量は 10.4 L です。

注意

■ **AdBlue® を補充するとき**

AdBlue® を補充するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

- AdBlue® 以外の尿素水を補充しない
- AdBlue® が車両の塗装部分に付着してしまった場合は、すぐに水で洗い流す
- AdBlue® をエンジンルームにこぼしてしまった場合は、水を含ませた布ですぐにふき取る

■ **補充装置で AdBlue® を補充するとき**

AdBlue® タンクから AdBlue® があふれるのを防ぐため、次のことをお守りください。

- 継ぎ足し補充をしないでください。
- 補給口にノズルを確実に挿入してください。

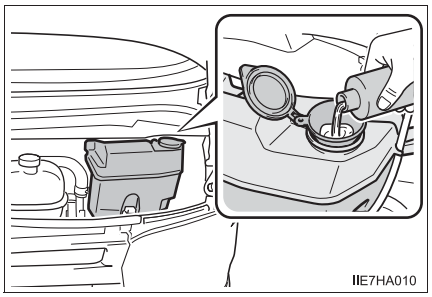
■ **AdBlue® の保管について**

AdBlue® を保管するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装の損傷、また、AdBlue® の成分が変質し異臭の発生につながるおそれがあります。

- AdBlue® を車内に放置しない
- AdBlue® の容器を密閉し、直射日光の当たらない、換気の良い冷暗所に保管する

ウォッシャー液の補充

タンク側面から液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ラジエーターなどの高温部にかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を FR 車は 10,000km ごとに、4WD 車は 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

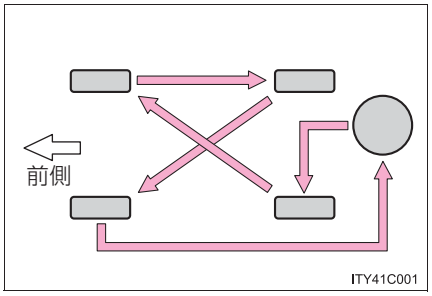
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

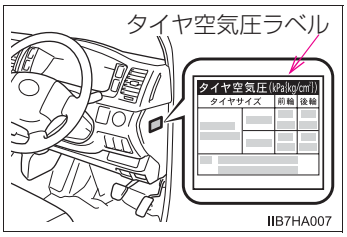
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、マツダは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、インストルメントパネル横（運転席側）のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。（→ P. 321）
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。（→ P. 345）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、マツダ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの清掃

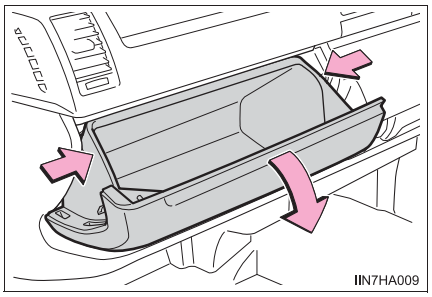
エアコン・リアクーラー★を快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

清掃のしかた

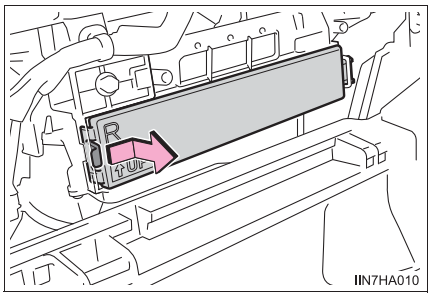
▶ フロントエアコン

1 エンジンスイッチを “ LOCK ” にする

2 グローブボックスを開き、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

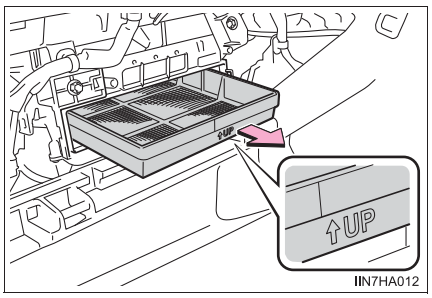


3 フィルターカバーを取りはずす



4 エアコンフィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

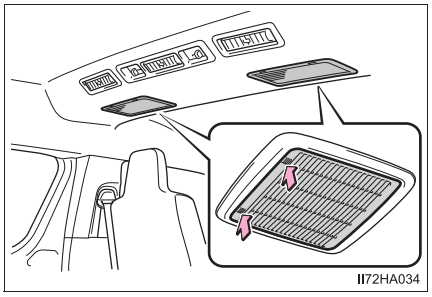
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ リアクーラー★

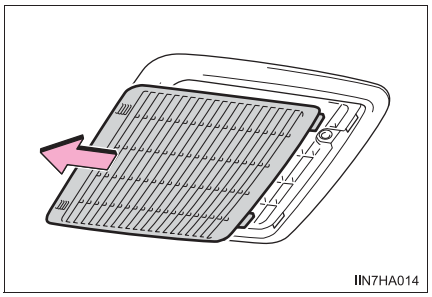
1 エンジンスイッチを “ LOCK ” にする

2 図に示す位置（2ヶ所）を押して、ロックをはずす



3 エアコンフィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

エアコンフィルターのツメを挿し込んでから、反対側を押さえてロックします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■フィルターの清掃について

エアコン・リアクーラー★を快適にお使いいただくために、フィルターを定期的に清掃してください。

■エアコン・リアクーラー★の風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃してください。

注意

■エアコン・リアクーラー★を使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコン・リアクーラー★を使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは水洗いするか、エアブローを使って清掃してください。ブラシなどでこすると、フィルターが損傷するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

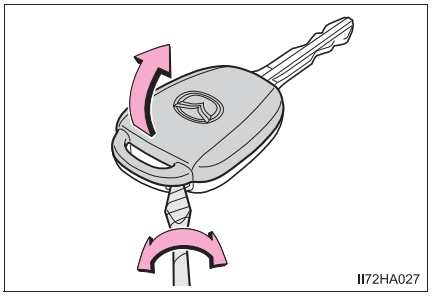
用意するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2016

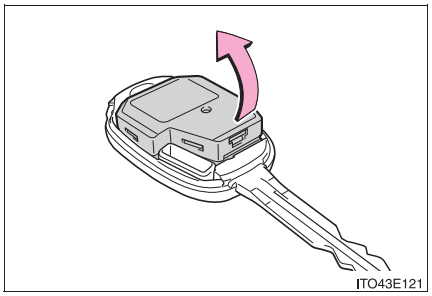
電池交換のしかた

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

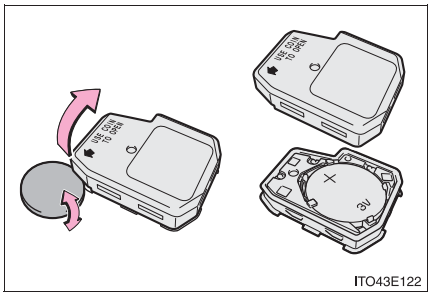


2 モジュールを取り出す



3 コインなどを使用してモジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2016 の入手

電池はマツダ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

- リモコン機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

警告

■キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、マツダ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを “ LOCK ” にする

2 ヒューズボックスを開ける

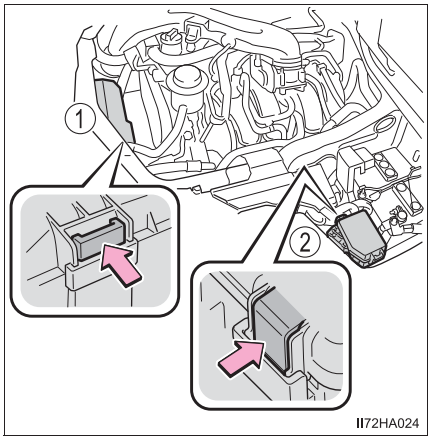
▶ エンジンルーム内

エンジン点検口（→ P. 247）を開けて、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

① 中央ヒューズボックス

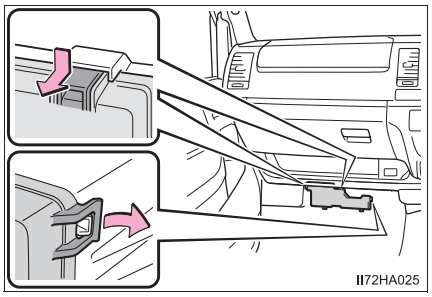
② バッテリー横ヒューズボックス

イラストはガソリン車で代表しています。



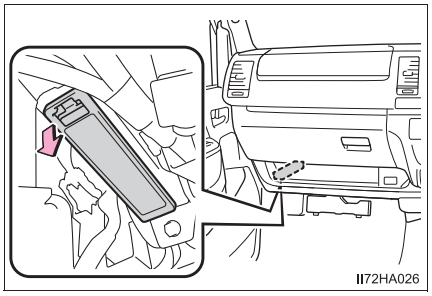
▶ 助手席足元

ツメを押しながら、カバーを手前に引く



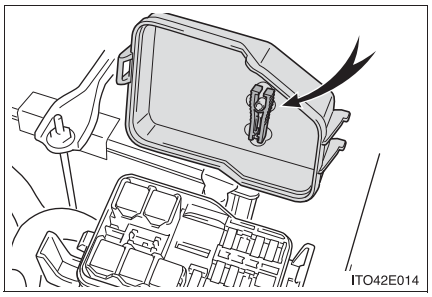
▶ グローブボックス下

ヒューズボックスカバーを取りはずす



3 ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしは、エンジンルーム内にある、バッテリー横ヒューズボックスのカバーに付いています。

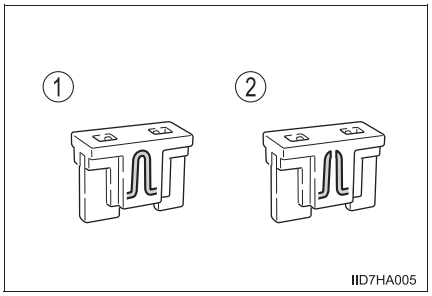


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 274）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は

パワーウインドウの初期化が必要です。（→P. 107）

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずマツダ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、マツダ販売店で交換することをおすすめします。

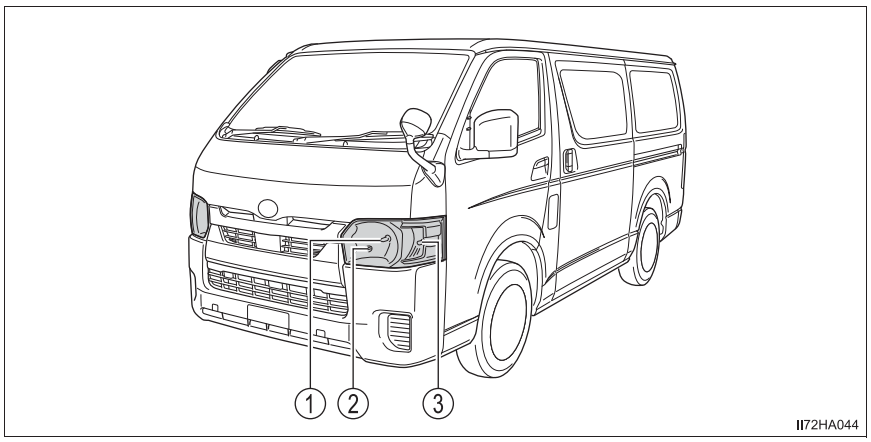
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 346）

バルブ位置

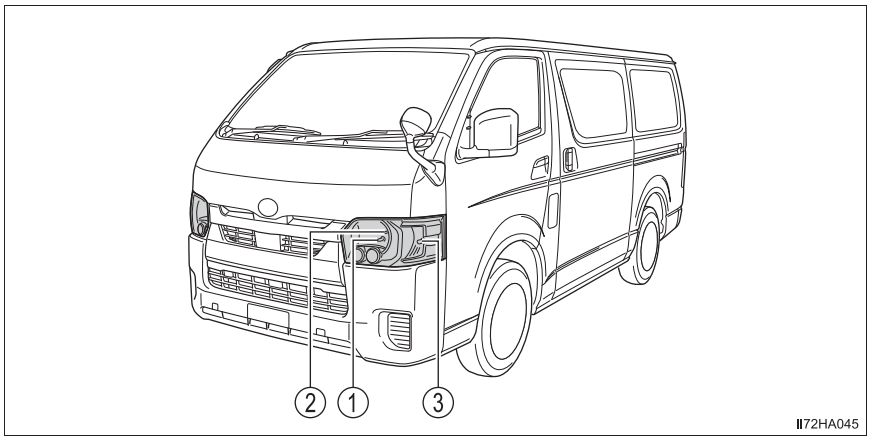
■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



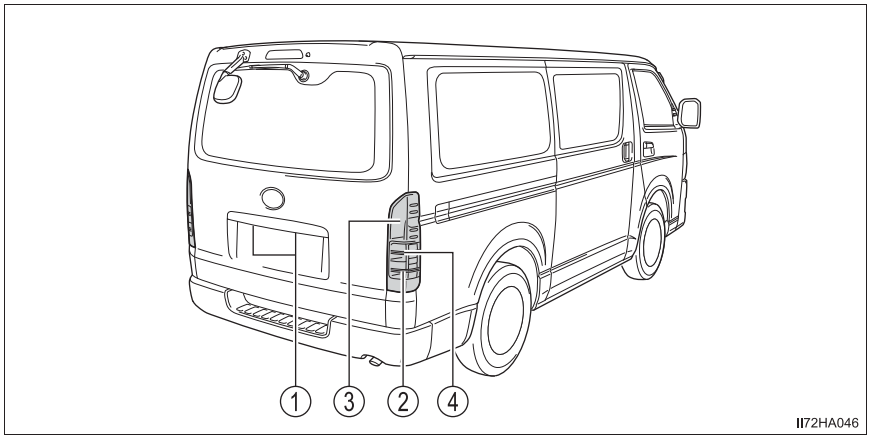
① ヘッドランプ
② 車幅灯
③ フロント＆サイド
方向指示灯／非常点滅灯

▶ LED ヘッドランプ装着車



① ヘッドランプ（ハイビーム）
② 車幅灯
③ フロント＆サイド
方向指示灯／非常点滅灯

■ リア



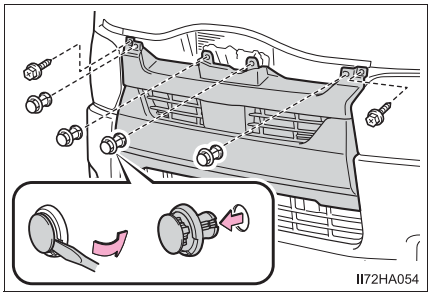
① 番号灯
② 後退灯
③ 制動灯／尾灯
④ リア方向指示灯／非常点滅灯

電球交換のしかた

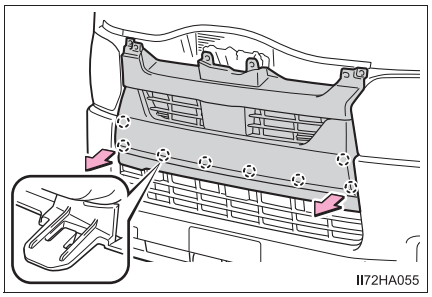
■ ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）

電球交換するときは、必ずエンジンスイッチを OFF にしてください。

1 クリップ（4 個）とネジ（2 本）をはずす

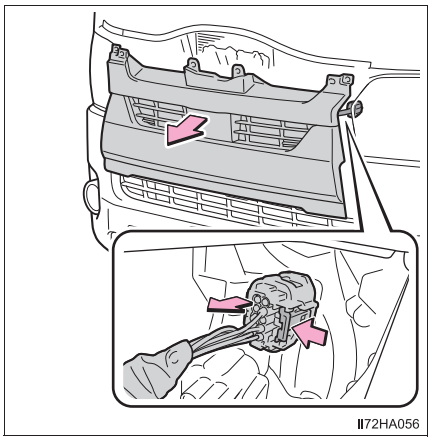


2 ラジエータグリルのツメを取りはずす



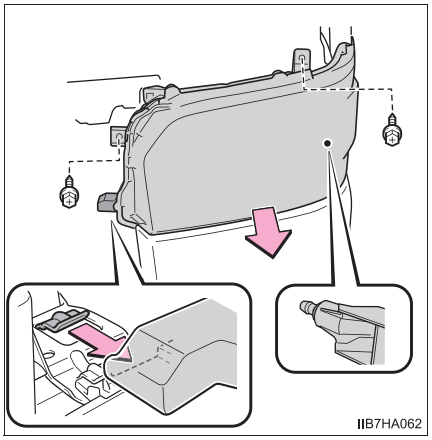
3 ラジエーターグリルを取りはずす

レーダーにつながっているコネクターを取りはずしてください。

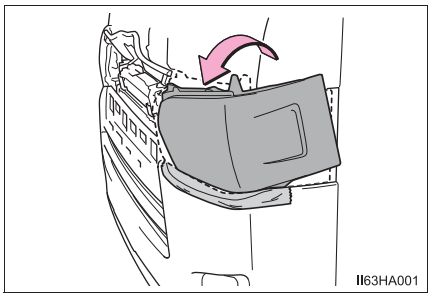


4 電球を交換する側のドア（運転席または助手席）を開けて作業スペースを広げ、バンパーのヘッドランプ前側部分に保護テープを貼る

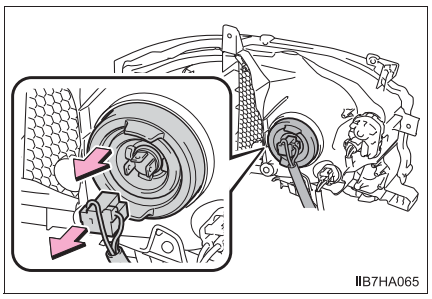
5 ネジ（2 本）をはずし、ヘッドランプ本体を手前に引いて各部の固定をはずす



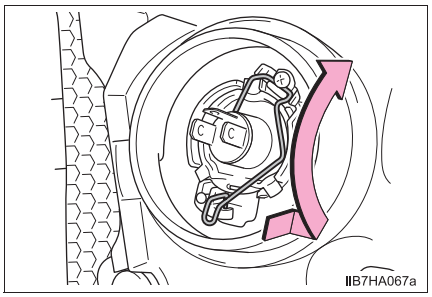
6 ヘッドランプ本体を回転させながら取りはずす



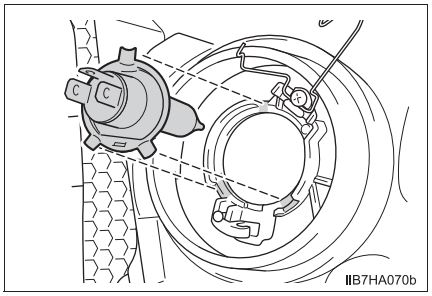
7 コネクターとゴムカバーを取りはずす



8 止め金をはずす



9 電球を取りはずす

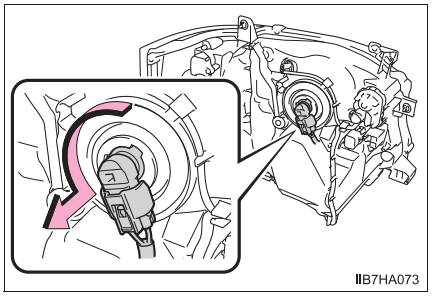


10 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

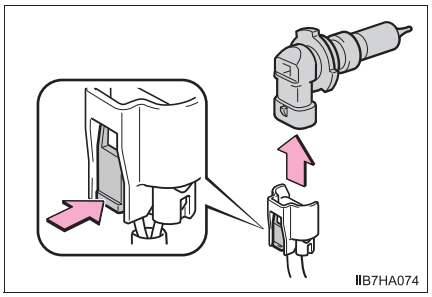
■ ヘッドランプ　ハイビーム（LED ヘッドランプ装着車）

1 ヘッドランプ本体を取りはずす（→ P. 276）

2 ソケットを取りはずす

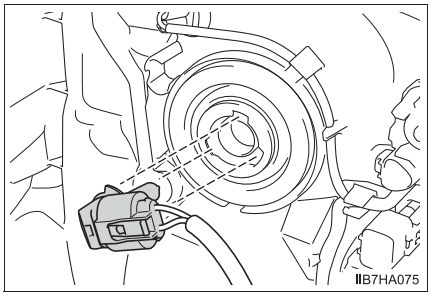


3 電球を取りはずす



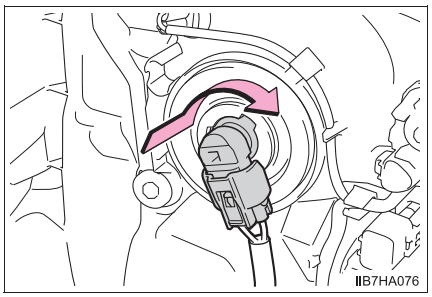
4 電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。



5 ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



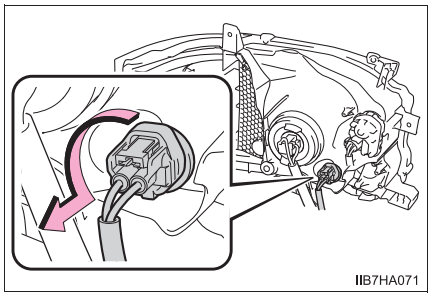
6 ヘッドランプ本体を取り付ける

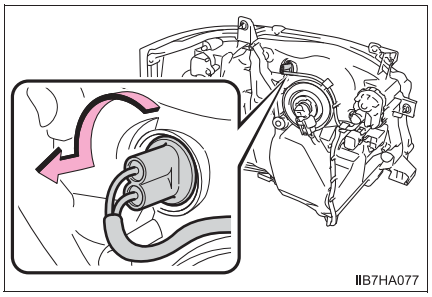
■ 車幅灯

1 ヘッドランプ本体を取りはずす（→ P. 276）

2 ソケットを取りはずす

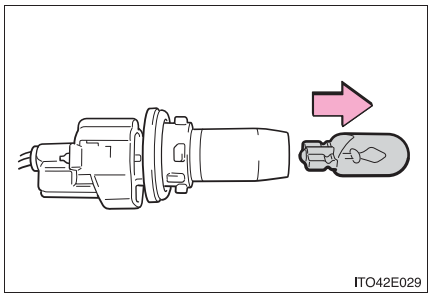
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車　▶ LED ヘッドランプ装着車

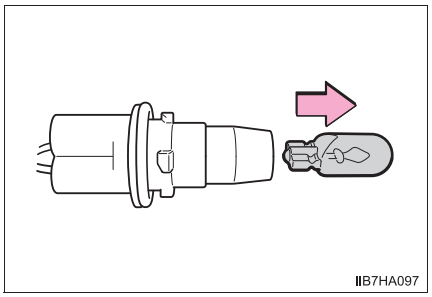




3 電球を取りはずす

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車　▶ LED ヘッドランプ装着車





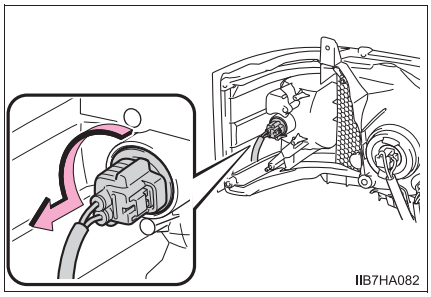
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ **フロント＆サイド方向指示灯／非常点滅灯**

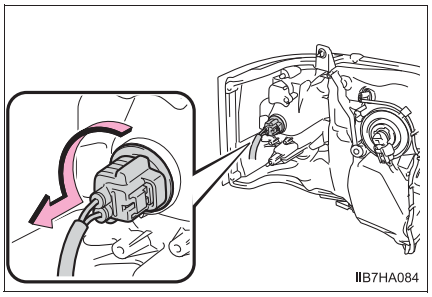
1 ヘッドランプ本体を取りはずす（→ P. 276）

2 ソケットを取りはずす

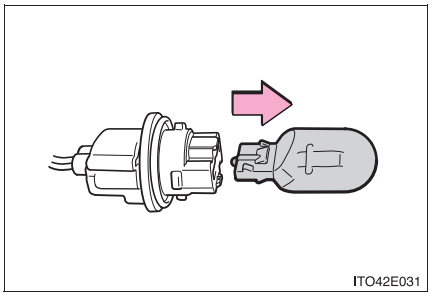
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



▶ LED ヘッドランプ装着車



3 電球を取りはずす



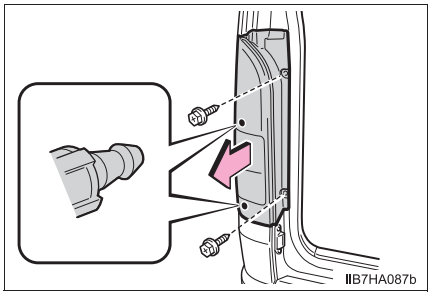
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ **制動灯／尾灯・リア方向指示灯／非常点滅灯・後退灯**

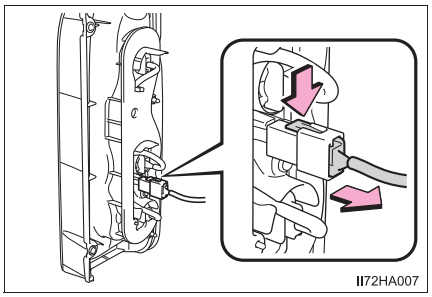
交換には、マツダ販売店で部品（ガスケット）の購入が必要となります。交換作業が難しいと感じられる場合は、マツダ販売店にご相談ください。

1 ネジ（2 本）をはずし、ランプ本体を手前に引き出す

コネクターケーブルを損傷しないよう、慎重に作業してください。

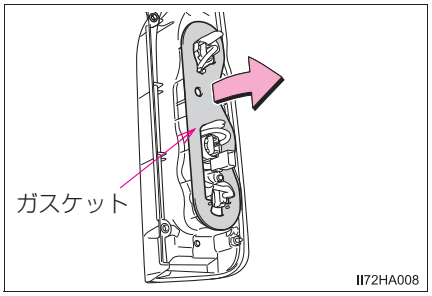


2 コネクターを取りはずす



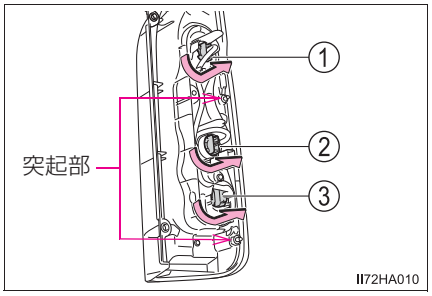
3 ガスケットをはがす

確実にもとの状態にもどせるようにガスケットをはがす前には、ガスケットの貼り付け位置をよく確認しておいてください。
また、ボデー側に残ったガスケットはすべてはがしてください。



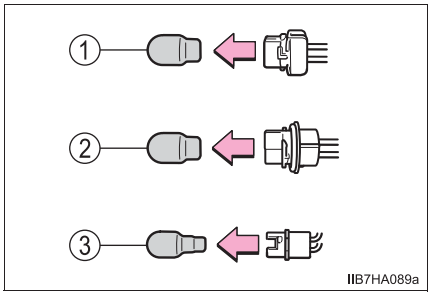
4 ソケットを取りはずす

① 制動灯／尾灯
② リア方向指示灯／非常点滅灯
③ 後退灯



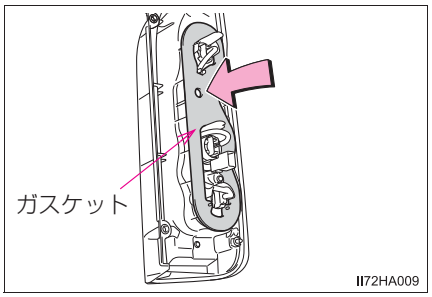
5 電球を取りはずし、新しい電球を取り付ける

① 制動灯／尾灯
② リア方向指示灯／非常点滅灯
③ 後退灯

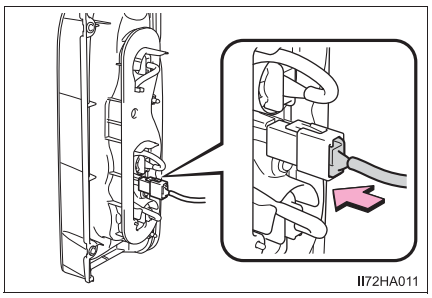


6 新品のガスケットを貼り付ける

手順3で確認した貼り付け位置に確実に取り付けてください。



7 コネクターを取り付ける

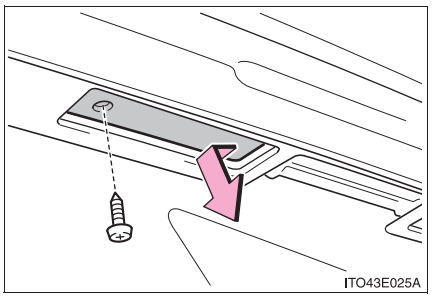


8 ランプ本体を取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

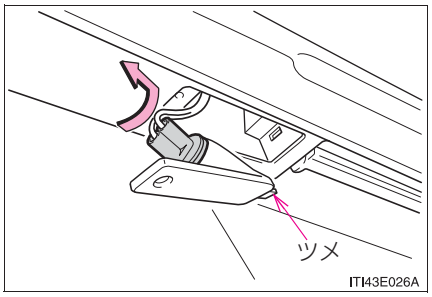
ボデーとのあいだに配線が挟まっていないことを確認の上、突起部をしっかりとはめ込んでください。

■ **番号灯**

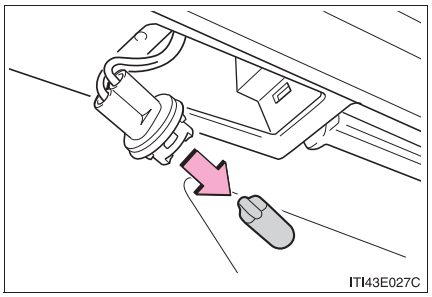
1 交換する側のネジ（1 本）をはずし、ランプ本体を引き出す



2 ソケットを取りはずす



3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

ランプ本体のツメが確実にかかっていることを確認してください。

■ **次の電球を交換するには**

次のランプが切れたときは、マツダ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ　ロービーム（LED ヘッドランプ装着車）
- ハイマウントストップランプ

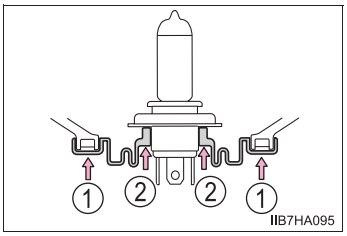
知識

■ハロゲンヘッドランプ★のゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください。

① ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

② ゴムカバー内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む



■LED ランプについて

LED ヘッドランプ★とハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、マツダ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、マツダ販売店にご相談ください。

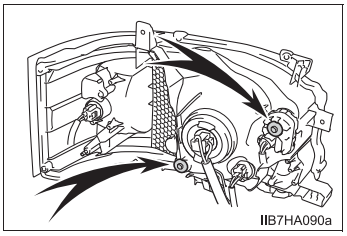
- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

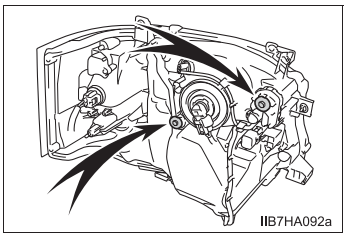
■ヘッドランプ本体の固定をはずすときは

●ヘッドランプの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用のネジにふれないでください。

▶ハロゲンヘッドランプ装着車



▶LED ヘッドランプ装着車



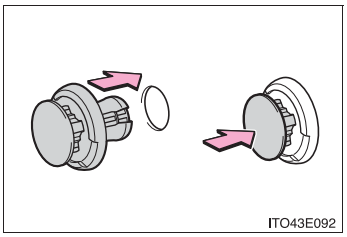
●電球を交換したあとは、マツダ販売店でヘッドランプの光軸の点検を受けてください。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、マツダ販売店にご相談ください。

■ラジエーターグリルのクリップの取り付け

クリップを穴に挿し込み、中央部を押し込む



■ラジエーターグリルの取り扱いについて

ラジエーターグリルにはレーダーが取り付けられています。(→P. 154)

⚠ 警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
  取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

⚠ 注意

■制動灯／尾灯・リア方向指示灯／非常点滅灯・後退灯の交換について

制動灯／尾灯・リア方向指示灯／非常点滅灯・後退灯の交換には、新品のガスケットが必要となります。ガスケットをはがすときは、次のことをお守りください。ランプ内へ水が浸入するおそれがあります。

- 一度でも使用したガスケットは絶対に再使用しないでください。
- ガスケットを貼り付けるときは、制動灯／尾灯・リア方向指示灯／非常点滅灯・後退灯の交換手順3で確認した貼り付け位置に確実に貼り付けてください。

万一の場合には 7

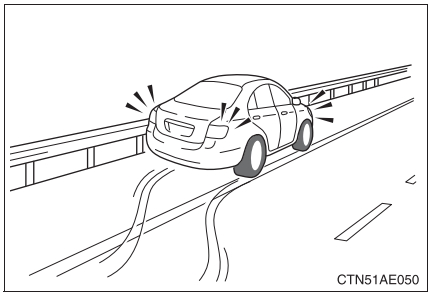
7-1. まず初めに
故障したときは.....288
非常点滅灯（ハザードランプ）.....289
発炎筒.....290
車両を緊急停止するには.....292
水没・冠水したときは.....293
7-2. 緊急時の対処法
けん引について.....294
フューエルポンプシャットオフシステム（ガソリン車）.....300
警告灯がついたときは.....301
警告メッセージが表示されたときは.....306
パンクしたときは.....311
エンジンがかからないときは.....326
バッテリーがあがったときは.....327
オーバーヒートしたときは...331
スタックしたときは.....334

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

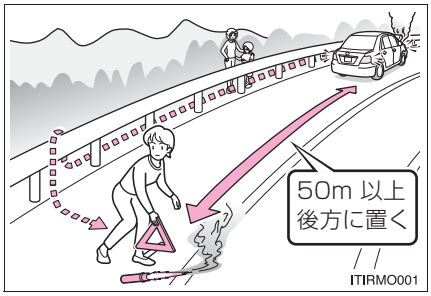
非常点滅灯（→ P. 289）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

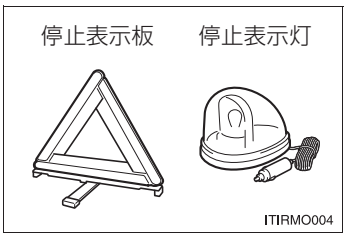
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 290）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



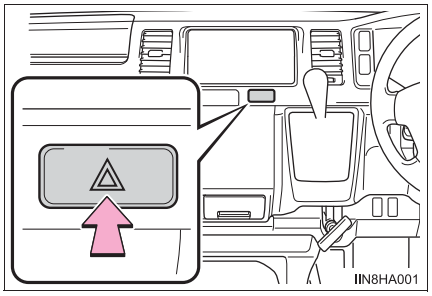
●停止表示板のご購入については、マツダ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

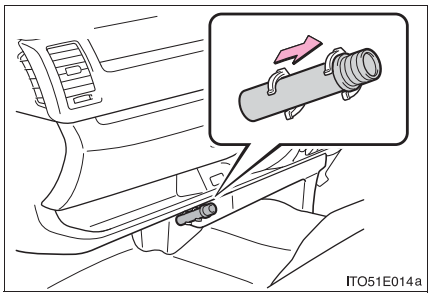
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

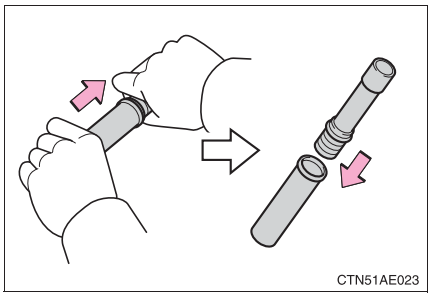
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

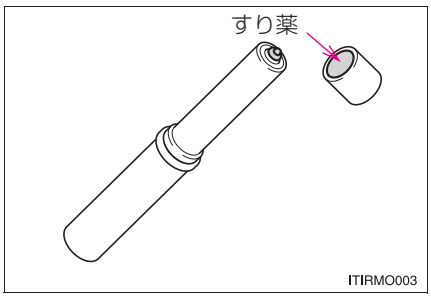


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、マツダ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

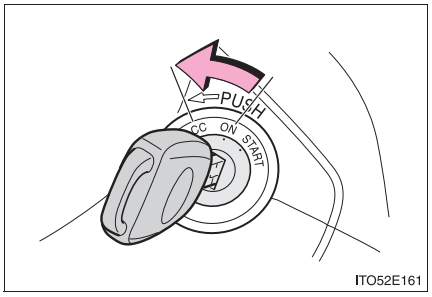
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを　“ ACC ” にして、エンジンを停止する



ITO52E161

5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはマツダ販売店にお問い合わせください。

⚠警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけマツダ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

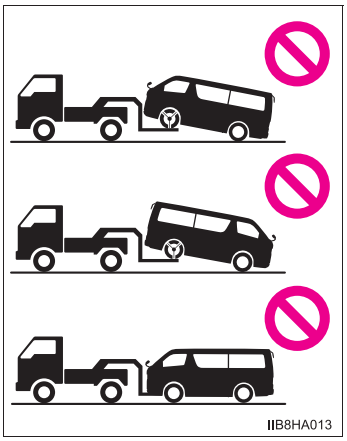
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

▶FR 車

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。



▶4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを “ LOCK ” にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

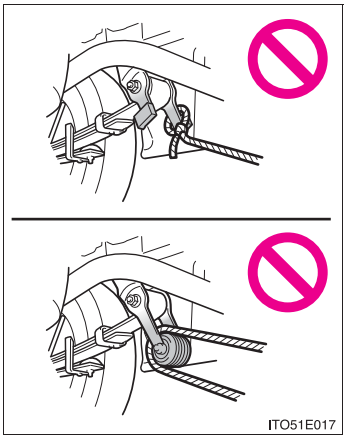
⚠ 警告

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

■やむを得ず他車をけん引するときは

図のようなリーフスプリング付きの車両は、図に示す部分でのけん引は絶対にしないでください。



⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リーフスプリングについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

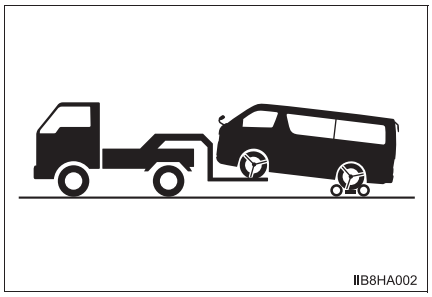
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、マツダ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

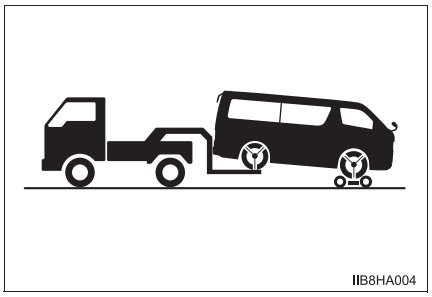
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

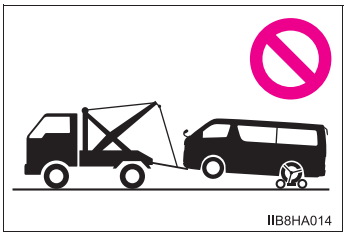


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

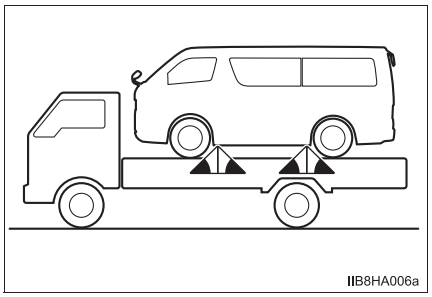
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



車両運搬車を使用するとき

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



⚠ 注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

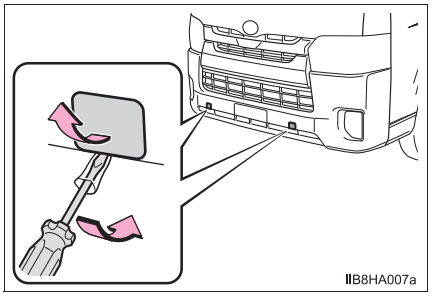
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

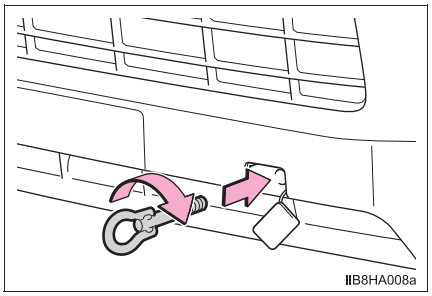
1 工具袋からホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す
(→P. 312, 314)

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

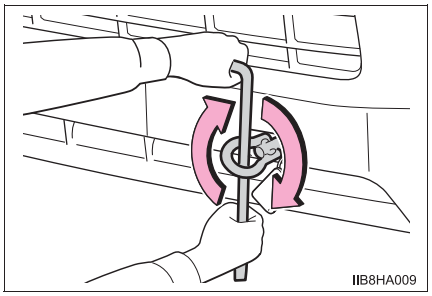
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

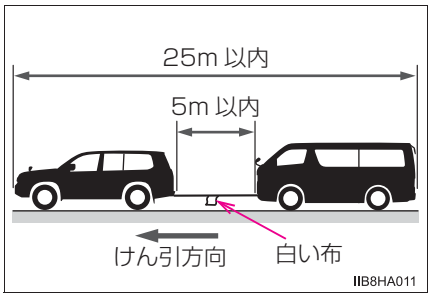


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを “ ON ” にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 131

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

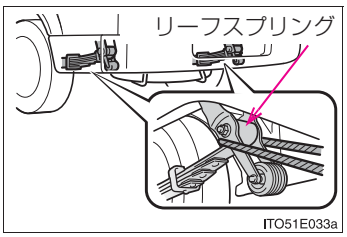
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

工具袋に収納されています。（→ P. 311）

■リーフスプリングについて

リーフスプリングは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。ロープは図に示す箇所にかけてください。



フューエルポンプシャットオフシステム（ガソリン車）

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチを “ ACC ” または “ LOCK ” にする

2 エンジンを再始動する

⚠ 注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	**充電警告灯※3** 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。**
	**油圧警告灯※3（警告ブザー※4）** エンジンオイルの圧力が異常に低い **→ ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。**
	**高水温警告灯※3** エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車して点検する（→ P. 331）**
	**エンジン警告灯** ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 ・排出ガス浄化装置の異常★ **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
	**SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯** ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステム★の異常 **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	**4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）警告灯** ・4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
	**燃料残量警告灯** 燃料の残量が約 10.5 L 以下になった **→ 燃料を補給する**
 （点滅または点灯）	**プリクラッシュセーフティシステム 警告灯** 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティシステムの異常 **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティシステムが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 157, 306）** プリクラッシュセーフティシステムが OFF、またはダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]（DSC）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 167**
 （黄色）	**レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯（警告ブザー）** ※3 レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）システムの異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 175）**
	**運転席&助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー** ※2**）** 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（点滅）	**クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）** ・センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない ・クリアランスソナーの異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 183）** **警告メッセージが表示されたままの場合はただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
（点滅）	**PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 194, 306）**
	**ペダル誤操作警告灯 ※3（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロールの異常 ・ドライブスタートコントロール作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**
	PKSB 警告灯 ※3 PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した（→ P. 190） **→ 表示された画面の指示に従ってください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	**スリップ表示灯** ・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム［横滑り防止機構］（DSC）の異常 ・TRC の異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム［横滑り防止機構］（DSC）・TRC システムの作動時は点滅します。 **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
	**AdBlue® 残量警告灯（ディーゼル車のみ）** AdBlue® の残量不足により再始動できなくなるおそれがある **→ AdBlue® を補充してください。（→ P. 257）**

※1 **ブレーキ警告ブザー：**
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

※2 **運転席 & 助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席／助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間継続的に鳴ります。

※3 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※4 **油圧警告ブザー：**
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

⚠警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。
4 輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ブレーキ警告灯について（ディーゼル車のみ）

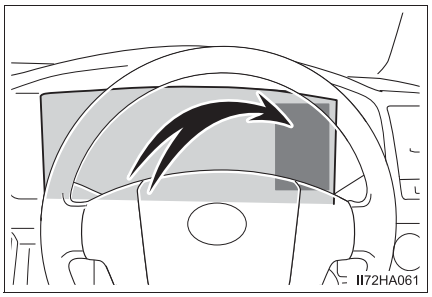
ポンピングブレーキ※を行うと、一時的に点灯することがあります。この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。なお、その後消灯すれば異常ではありません。

※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、マツダ販売店へご連絡ください。



メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
ー	あり	・走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 ・車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
ー	なし	・電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 ・車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

・プリクラッシュセーフティシステムなどの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

・ドライブスタートコントロール・PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→ P. 113, 190）。
画面の指示に従って対処してください。

●エンジンスイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、エンジンスイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

●シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたとき

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。

・「エンジン冷却水高温」（→ P. 331）
・「AdBlue が低下　2000km 以内に補充必要」（→ P. 254）
・「あと 800 km で再始動不可　AdBlue 補充必要」（→ P. 254）
・「エンジン再始動不可　AdBlue 補充必要」（→ P. 254）
・「DPF 再生不十分」（→ P. 209）

●次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・「エンジン油圧不足」

●「燃料フィルタに水がたまっています」のメッセージが表示されたときは、燃料フィルタ内に規定レベル以上の水がたまっています。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。

■「排ガス異常　エンジン再始動不可　販売店で点検を受けてください」が表示されたとき

エンジンを停止させると、再始動できません。エンジンを停止せず、ただちに、マツダ販売店へ連絡してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーが P 以外でエンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時は P にしてください。

■「バッテリ保護のため自動で電源を OFF しました」が表示されたとき

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。

この場合、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■「エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください」が表示されたとき

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要です。（→ P. 209）

■「DPF 再生中」が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が自動で行われています。（→ P. 207）

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→ P. 157, 306）

- プリクラッシュセーフティシステム
- レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）
- オートマチックハイビーム

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→ P. 157, 306）

- プリクラッシュセーフティシステム
- レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）

⚠ 警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■エンジンオイル量に関する警告が表示されたとき

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

■「燃料フィルタに水がたまっています 取扱書を確認してください」が表示されたとき

警告メッセージが表示されたまま走行しないでください。燃料フィルタ内に水がたまった状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプの損傷につながります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。(タイヤについての詳しい説明は、P. 260 を参照してください)

⚠ 警告

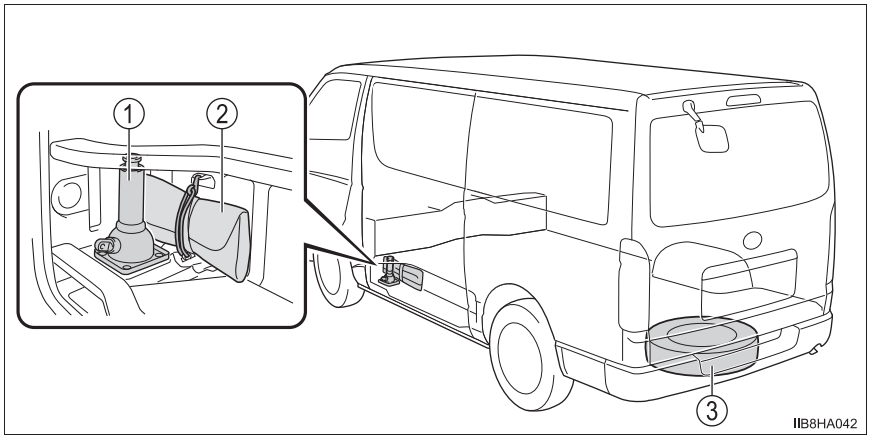
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 289）

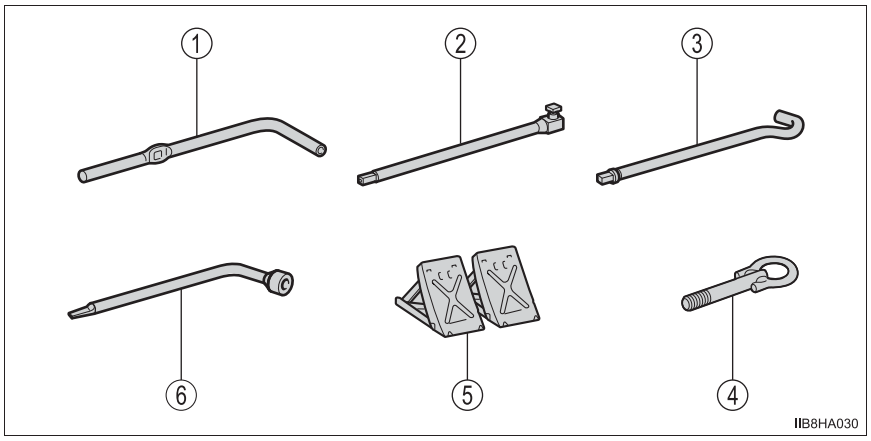
スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置



① ジャッキ
② 工具袋
③ スペアタイヤ

工具

工具袋の中に収納されています。（工具袋の取り出し方：→ P. 314）



① ジャッキハンドル
② ジャッキハンドル延長用バー
③ ジャッキハンドルバー
④ けん引フック
⑤ 輪止め
⑥ ホイールナットレンチ

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ジャッキハンドルを使用するときは

使用中、不意に分解しないように、ジャッキハンドル各部を確実に組み付け、接続用ボルトをしっかりと締め付けてください。（→ P. 317）

ジャッキの取り出し方

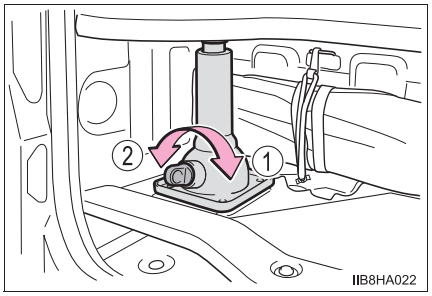
ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

使用後はもとの位置にもどします。

ジャッキハンドルバー挿し込み部（回転部）が車両外側を向くように置き、確実に固定してください。

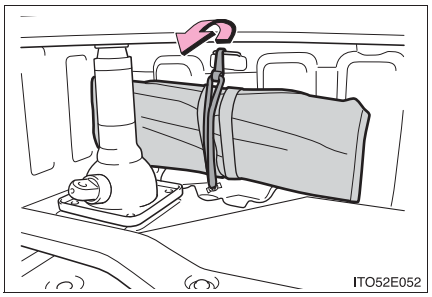


工具袋の取り出し方

固定バンドをはずす

使用後はもとの位置にもどします。

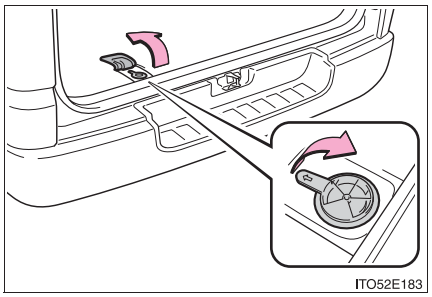
固定バンドで確実に固定してください。



スペアタイヤの取り出し方

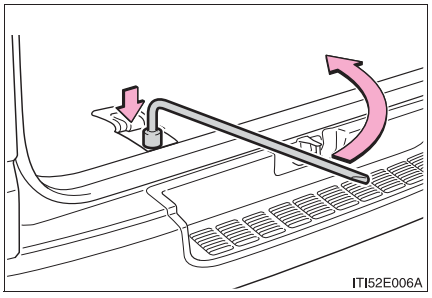
1 キャップをはずす

マットの切り欠き部分をめくり、キャップをはずす



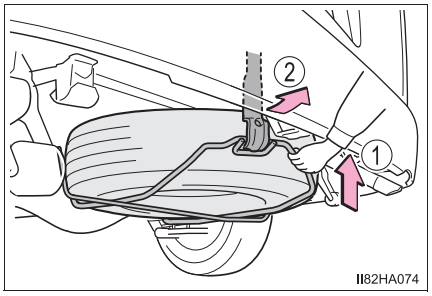
2 ホイールナットレンチを使って、スペアタイヤ格納具がフックからはずせる程度にボルトをゆるめる

ボルトをゆるめすぎると、格納具が落下するおそれがあるため注意してください。

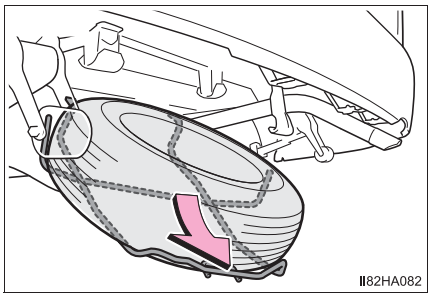


3 スペアタイヤ格納具を少し持ち上げ（①）、フックを手前に引いてはずす（②）

格納具が落下しないように、手でしっかり支えてください。



4 スペアタイヤ格納具を地面に降ろして、スペアタイヤを取り出す



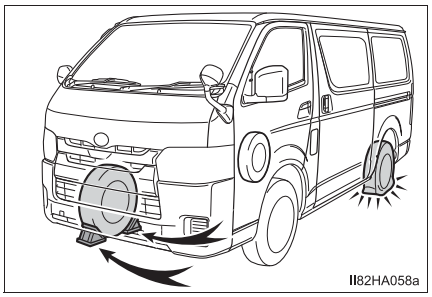
5 スペアタイヤ格納具をいったんもとにもどす

格納具をフックにかけ、ボルトを締め付けてもとにもどします。

スペアタイヤを格納するとき：→P. 323

パンクしたタイヤの交換

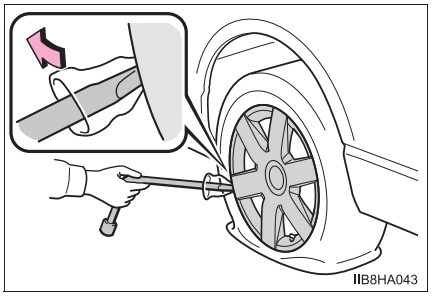
1 輪止めをする



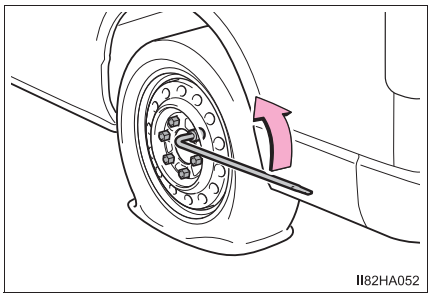
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪の前後
	右側	左側後輪の前後
後輪	左側	右側前輪の前後
	右側	左側前輪の前後

2 ホイールキャップをはずす

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

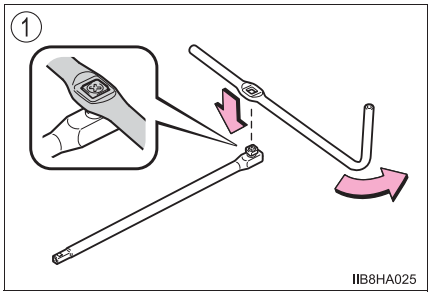


3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

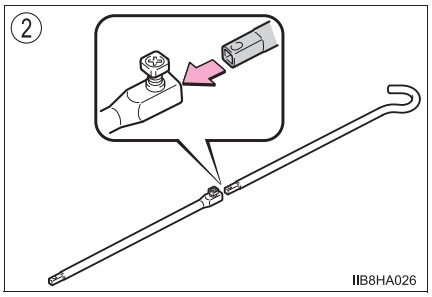


4 ジャッキハンドルを組み付ける

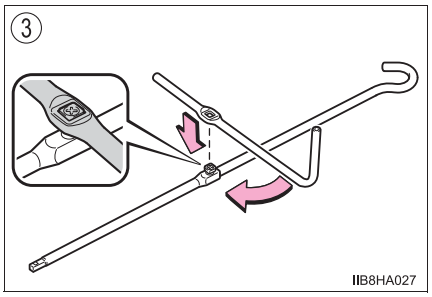
① ジャッキハンドルの穴部を使い、ジャッキハンドル延長用バーの接続用ボルトをゆるめる



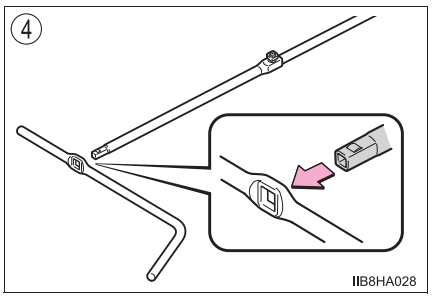
② ジャッキハンドルバーとジャッキハンドル延長用バーとを接続する



③ ジャッキハンドルの穴部を使い、接続用ボルトを締め付ける

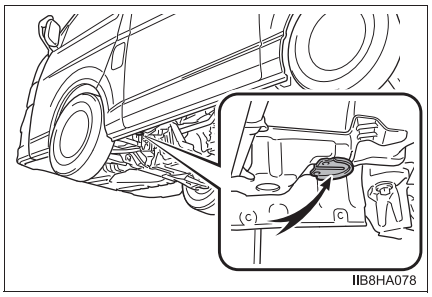


④ ジャッキハンドル延長用バーをジャッキハンドルの穴部に確実に挿し込む



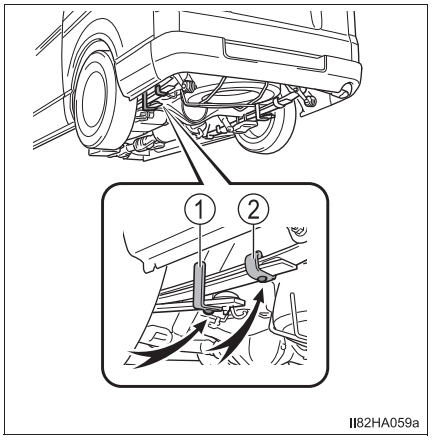
5 組み付けたジャッキハンドルをジャッキの穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

▶ フロント側ジャッキセット位置

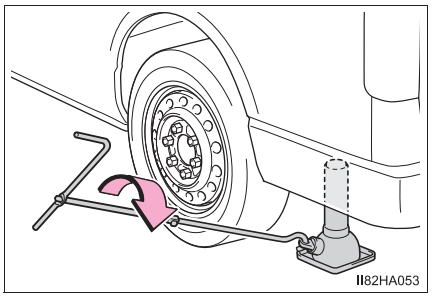


▶ リア側ジャッキセット位置（→ P. 324）

路面状況などにより、①の位置にジャッキをセットできないときは、②の位置でジャッキアップしてください。

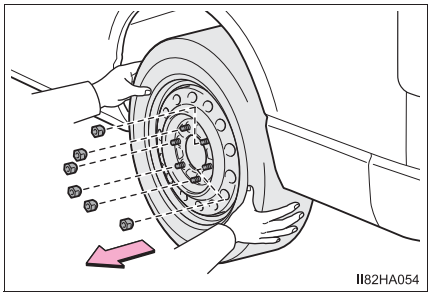


6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



⚠ 警告

■タイヤ交換について

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
・スペアタイヤ格納具を操作するときは、可動部分やスペアタイヤのあいだに手や足などを挟まないように注意する
・スペアタイヤ格納具を降ろす、または持ち上げるときは、足の上などに落とさないよう、手でしっかり支える
・スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
・ホイールキャップは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

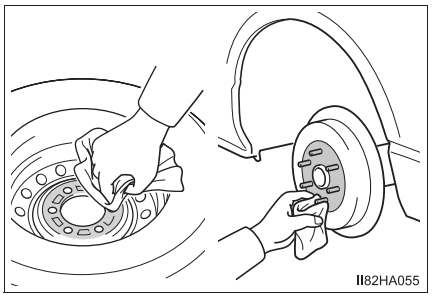
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 100 N・m（1020 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、マツダ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

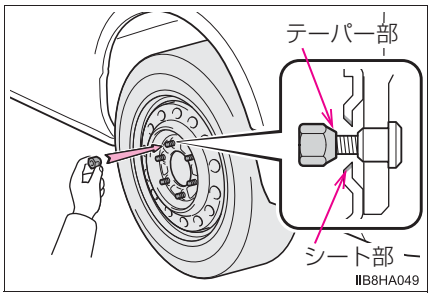
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

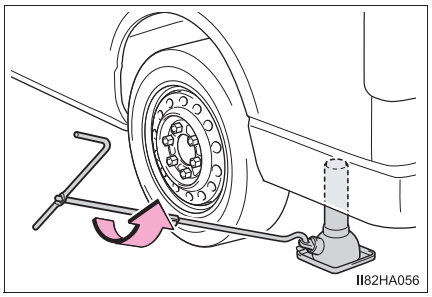


2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします

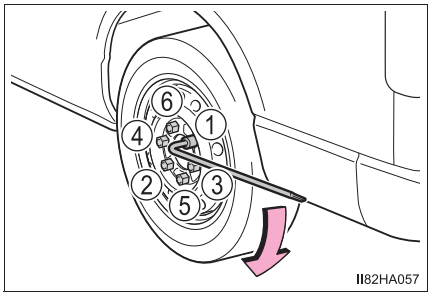


3 車体を下げる



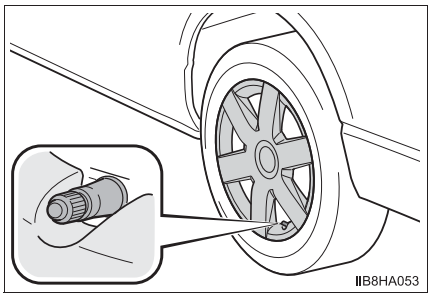
4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
100 N・m（1020 kgf・cm）



5 ホイールキャップを取り付ける

タイヤのバルブ（ 空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。



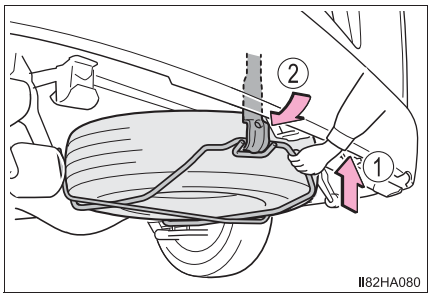
6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを格納する

スペアタイヤの格納

1 スペアタイヤ格納具にタイヤを載せて持ち上げ（①）、フックをかけてボルトを締め付ける（②）

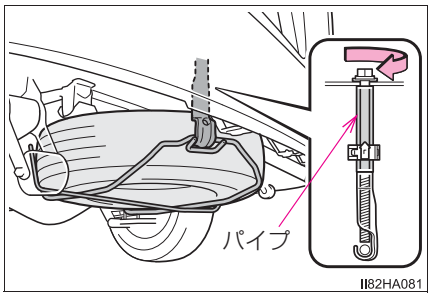
フックを格納具にかけるときは、はずした場所と同じ位置にかけてください。

格納具にタイヤが確実に固定されていることを確認します。



2 パイプががたつかなくなるまでボルトを締め付けたあと、さらに1/3 回転以上締め付ける

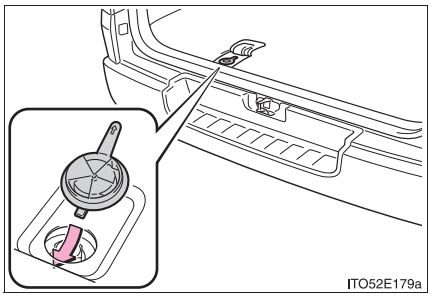
締め付けトルク：
24.0 N・m （245 kgf・cm）以上



3 キャップを取り付ける

キャップのツメをフロア下に挿し込んで、ボルトの頭にキャップ下部を合わせて、キャップ上部をフロアにはめてください。

キャップ上部が確実にはまっていることを確認してください。



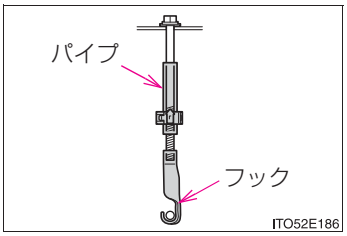
知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。（→P. 345）

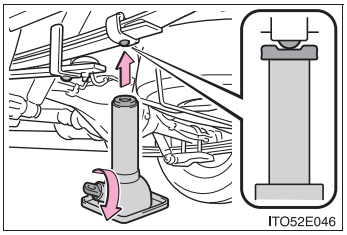
■スペアタイヤ格納具のフックについて

スペアタイヤ格納具を降ろす際に、ボルトをゆるめすぎてフックが脱落した場合は、図のようにパイプが入っているのを確認してからフックを取り付けてください。



■リア側ジャッキセット位置について

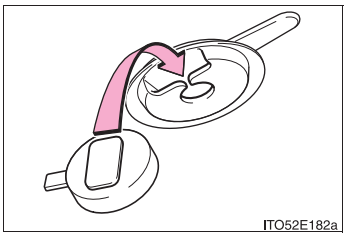
ジャッキ上部の溝を、図のように合わせてください。



■キャップについて

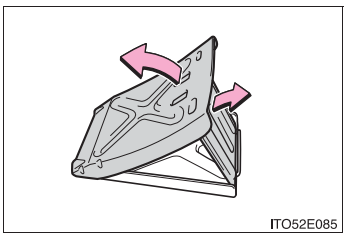
キャップ上部と下部がはずれたときは、図のようにはめ込んでから、フロアに取り付けてください。

キャップ下部のツメの位置が、キャップ上部の取っ手と反対側になるようにはめ込んでください。



■輪止めの使い方

図のように展開して使用します。



⚠ 警告

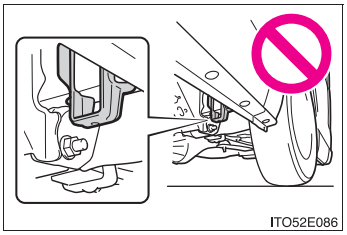
■工具・ジャッキを使用したあとは

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■車載ジャッキでジャッキアップするときは

図のマウントハンガーにジャッキをかけないでください。マウントハンガーが破損するおそれがあります。



■スペアタイヤを格納するときは

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 126）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 126）に従って、エンジンをかけてください。
- イモビライザーに異常がある可能性があります。（→ P. 50）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 327）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 327）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、マツダ販売店にご連絡ください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 エンジン点検口を開ける（→ P. 247）

2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

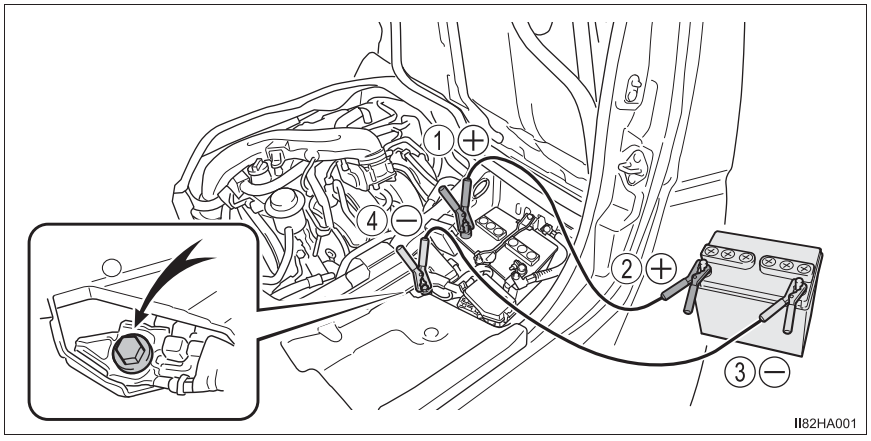
② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

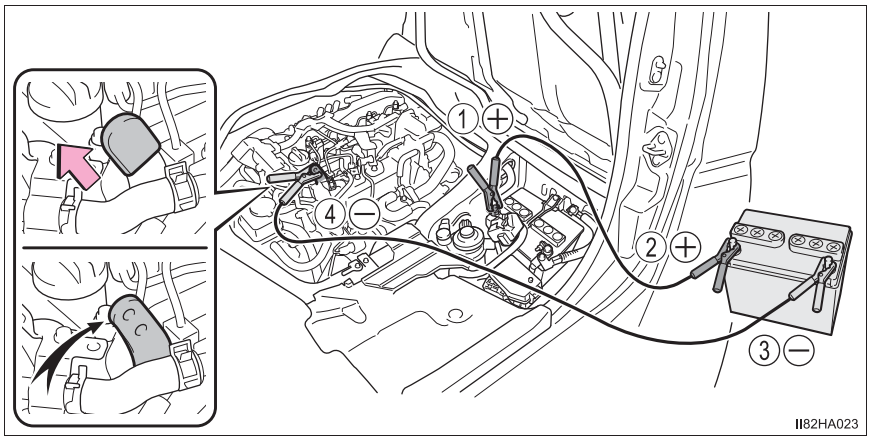
④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

ディーゼル車はブースターケーブルをつなぐ前にカバーを取りはずす

▶ ガソリン車



▶ ディーゼル車



3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける

5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ディーゼル車はカバーを取り付ける

エンジンがかかっても、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

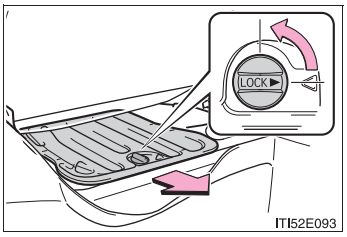
■バッテリーがあがったときは

パワーウインドウの初期設定が必要です。（→P. 107）

■バッテリー 2 個搭載車について

エンジンルーム内と運転席うしろに、計 2 個のバッテリーが搭載されています。

●運転席うしろのバッテリーを点検するときは、カバーをめくり、ダイヤルをまわしてフタを取りはずします。



●バッテリーが 2 個ありますが、24V ではありません。

●ブースターケーブルを接続する場合は、必ずエンジンルーム内のバッテリーで行ってください。

●バッテリーの交換は必ず 2 個同時に、同メーカー・同一型式のバッテリーを使用してください。

●長期駐車などで－端子をはずす場合は、必ず両方のバッテリーの－端子をはずしてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

⚠ 警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

⚠ 注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 60）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

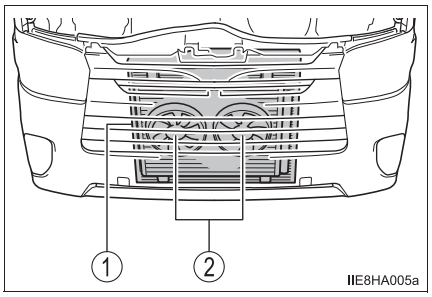
2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットとエンジン点検口を開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットとエンジン点検口を開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

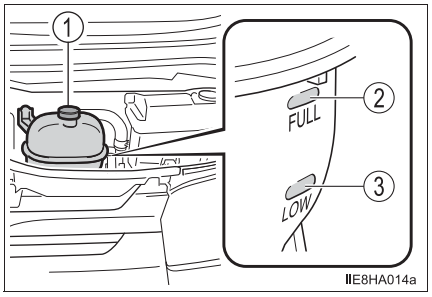
① ラジエーター
② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにマツダ販売店に連絡してください。



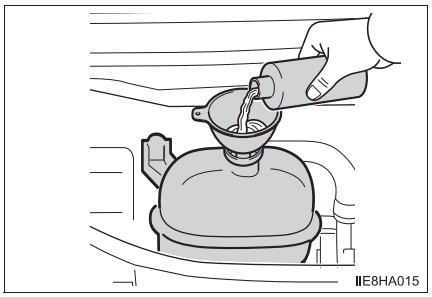
4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク
② “FULL”（上限）
③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、マツダ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのマツダ販売店で点検を受ける

知識

■冷却水の補給について

冷却水の量が LOW（下限）以下になった場合は、冷却水の補給後にエア抜きが必要となるため、マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■エンジンルームを点検するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ボンネット周辺から蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットやエンジン点検口を開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→P. 250）・エンジン点検口（→P. 247）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

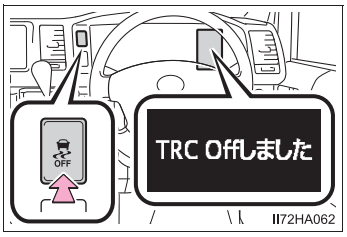
1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
3 タイヤの下に木や石などをあてがう
4 エンジンを再始動する
5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき



を押して TRC を OFF にしてください。（→ P. 201）



⚠ 警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....338
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....347
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....350

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。マツダ車には、最も適したマツダ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

▶ ガソリン車

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	70

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

▶ ディーゼル車

指定燃料	容量 [L]（参考値）
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	70

エンジンオイル

▶ ガソリン車

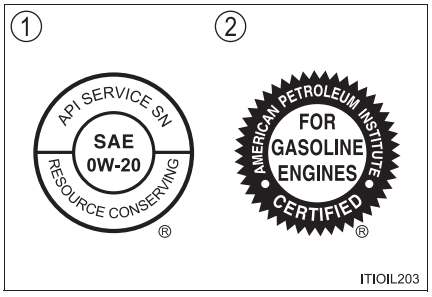
指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： マツダ純正モーターオイルゴールデン ECO7 0W-20 （SAE 0W-20） 適合： マツダ純正モーターオイルゴールデン SN 5W-30 （API SN, SAE 5W-30）	4.9	5.3

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

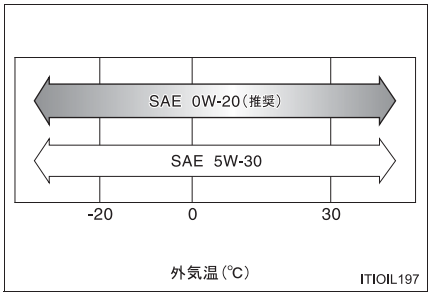
API 規格 SN、SM か、ILSAC 規格に合致したオイルを ご使用ください。
0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。
0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ **エンジンオイル推奨粘度**

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

▶ ディーゼル車

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル C5 0W-20 （ACEA C5, SAE 0W-20） 適合： トヨタ純正モーターオイル DL-1 0W-30 （JASO DL-1, SAE 0W-30） マツダ純正ディーゼルエクストラ DL-1 5W-30 （JASO DL-1, SAE 5W-30）	5.5	6.1

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

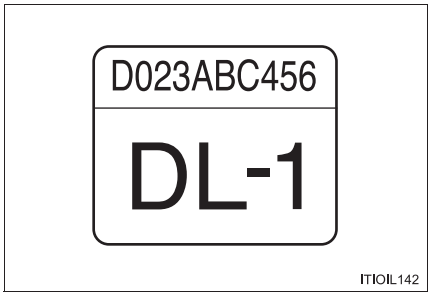
■ 指定エンジンオイル

ACEA 規格 C5 に合致したオイルをご使用ください。

0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

0W-20 が入手困難な場合は、JASO DL-1 0W-30、5W-30 もご使用いただけます。

なお、JASO 規格合格油の缶には JASO DL-1 マークが付いています。



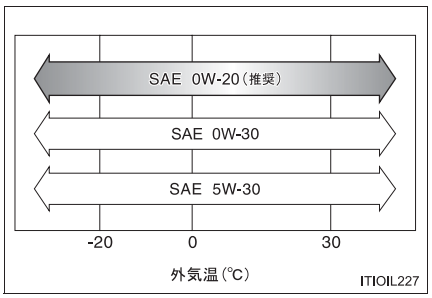
⚠ 注意

■ディーゼル車のエンジンオイルの交換について

- エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。
- エンジンオイルは必ず約 20,000km ごと（ただし 12ヶ月をこえないこと）、オイルフィルターは必ず約 20,000km ごとに交換してください。
  定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	リアヒーターの有無	容量 [L]（参考値）
マツダ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	ガソリン	なし	11.2
		あり	13.2
	ディーゼル	なし	13.9
		あり	15.9

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	エンジン		容量 [L]（参考値 ※）
トヨタ純正オートフルード WS	ガソリン		7.9
	ディーゼル	FR	8.9
		4WD	9.0

※ 交換が必要な際はマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

フロントディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX （API GL-5 SAE 85W-90）	1.30

リアディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	駆動方式	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル　LT （API GL-5 SAE 75W-85）	FR	3.05
	4WD	3.30

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ (API GL-3 SAE 75W-90)	1.3

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	0.9

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
マツダ純正ブレーキフルード BF-3 SKYACTIV-HYBRID

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	120

※ エンジン停止時に 500 N（51 kgf）の踏力をかけたときの床板（フロアパネル上面）とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 200 N （20 kgf）のときのノッチ ※ 数	10 ～ 16

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
3.2

タイヤ

車種	タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧　kPa（kg/cm^2）		
		積載量 ※	前輪	後輪
FR	195/80R15 107/105N LT	軽積時	325 (3.25)	425 (4.25)
		定積時	350 (3.50)	425 (4.25)
4WD		軽積時	350 (3.50)	350 (3.50)
		定積時	375 (3.75)	425 (4.25)

※ 軽積時は積載量 500kg 未満、定積時は積載量 500kg 以上

ホイール

■ サイズ

ホイールサイズ
15×6J

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m（kgf・cm）]
100（1020）

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ・ ハロゲンヘッドランプ装着車 （バルブタイプ：H4） ・ LED ヘッドランプ装着車 ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	60 ／ 55 60
	車幅灯	5
	フロント＆サイド方向指示灯／非常点滅灯	21
	リア方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21 ／ 5
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	フロントルームランプ	8
	リアルームランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TRH200M	1TR-FE（2.0L ガソリン）	FR（後輪駆動）
GDH201M	1GD-FTV（2.8L ディーゼル）	FR（後輪駆動）
GDH206M		4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な装備が付いています。
設定変更は、マルチインフォメーションディスプレイのメーターカスタマイズ機能、またはマツダ販売店で行うことが可能です。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくは、マツダ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1  画面を表示する（→ P. 64）

2 メーター操作スイッチの ∧ スイッチまたは、∨ を押して、設定変更したい項目を選択する

3 メーター操作スイッチの「OK」を押す

押すごとに ON ／ OFF などが切りかわります。

車両カスタマイズ設定一覧

① メーターカスタマイズ機能による設定

② マツダ販売店で設定可能

■ イルミネーション（→ P. 226）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
エンジンスイッチOFF後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	―	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	―	○
室内照明の点灯制御	する	しない	―	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 136）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	レベル− 2	レベル − 2 ～ +2	―	○
ランプの自動消灯	運転席ドアを開けたとき消灯	エンジンスイッチを OFF したとき消灯	―	○

■ リモコン機能（→ P. 74）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
リモコン機能	あり	なし	―	○
ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅 （施錠・解錠時非常点滅灯応答）	あり	なし	―	○

■ メーター（→ P. 56, 60）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	− 2 ～ +2	―	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	− 2 ～ +2	―	○

■ マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 64）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
言語	日本語	英語	○	―
エコドライブインジケーターの作動	ON	OFF	○	―
カラー	カラー 1	カラー 2 ～ カラー 4	○	―

■ レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）（→ P. 168）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
警報ブザーが吹鳴する感度（警報感度）	高い／普通	○	―
ふらつき検知機能	有／無	○	―
ふらつき検知機能の感度調節	高い／普通／低い	○	―

■ クリアランスソナー（→ P. 176）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
クリアランスソナー機能	あり	なし	○	―
センサーの検知距離	遠い	近い	―	○
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	○	―
		レベル 3		

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→ P. 186）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	○	―

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーウインドウ	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・正常に働かないとき	P. 107
PKSB（パーキングブレーキサポートブレーキ）	・バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 195
クリアランスソナー		P. 184

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....352
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....356
アルファベット順さくいん.....358
五十音順さくいん.....360

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、マツダ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーをなくした場合、マツダ販売店でマツダ純正の新しいキーを作ることができます。（→ P. 72）
- キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにマツダ販売店にご相談ください。（→ P. 73）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 268）
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 77）

スライドドアが開かない

- チャイルドプルーフがかかっていませんか？
  チャイルドプルーフがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプルーフを解除してください。（→ P. 79）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 126）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 127）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 327）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチの位置が “ ON ” になっていますか？
  エンジンスイッチの位置が “ ON ” でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 131）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。（→ P. 126）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- パワーウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  パワーウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 106）

警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 356）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 301、306 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 311）



立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 334）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	エンジンスイッチにキーが挿してある	P. 127

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 76
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 135
	運転席･助手席のシートベルトを着用していない※	P. 304
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 119

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

4WD
（フォーホイールドライブ）. 346
4W-ABS
（4 輪アンチロック・ブレーキ・システム）. 200, 302
A/C
（エアコン）. 216
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）. 132
DSC
（ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム）. . . . 200, 304
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
FR
（フロントエンジンリアドライブ）. 346
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 339
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）. 186
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 30, 301
TRC
（トラクションコントロール）. 200, 304

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）....327
アウターミラー（ドアミラー）...101
　操作....101
　格納のしかた....102
　ヒーテッドドアミラー....217
アクセサリーソケット....237
アクセサリーモード....126
AdBlue®....254
　AdBlue® 残量警告灯....304
　AdBlue® 残量表示....64
　補充....257
　容量....257
アンダーミラー....104
アンテナ
　ラジオ....105

い

イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）....126
　位置の切りかえ....126
　エンジンのかけ方....126
位置交換（タイヤローテーション）....260
イベントデータレコーダー（EDR）....8
イモビライザーシステム....50
イモビライザー（盗難防止システム）....50
イルミネーテッドエントリーシステム....227
インジケーター（表示灯）....58
インナーミラー....99

う

ウインカー（方向指示灯）....134
　電球（バルブ）の交換....281
　方向指示レバー....134
　ワット数....346
ウインドウ....106
　ウインドシールドデアイサー....217
　ウォッシャー....144, 146
　パワーウインドウ....106
　リアウインドウデフォッガー....217
ウインドシールドデアイサー....217
ウォーニングランプ（警告灯）....57, 301
ウォッシャー....144, 146
　液の補充....259
　スイッチ....144, 146
　タンク容量....344
　冬の前の準備・点検....211
動けなくなったときは（スタック）....334
運転....112
　雨の日の運転....114
　運転を補助する装置....200
　環境に配慮した運転....68
　寒冷時の運転....211
　正しい運転姿勢....24
　手順....112
運転席シートベルト非着用警告灯....302

え

エアコン 216
　曇り取り（フロントガラス）..... 217
　フィルターの清掃 265
　マニュアルエアコン 216
　リアクーラー 221
　リアヒーター 223
エアバッグ 30
　SRS エアバッグ警告灯 301
　お子さまのための注意 31
　改造・廃棄 33
　作動条件 34
　正しい姿勢 24
　配置 30
エコドライブインジケーター 68
エンジン
　イモビライザー 50
　エンジン回転計（タコメーター）..... 60
　エンジンがかからない（エンジンが始動できない）..... 326
　エンジン警告灯 301
　エンジンスイッチ 126
　エンジンの始動方法 126
　エンジンを停止する前に（ディーゼル車）..... 114
　オーバーヒート 331
　緊急時の停止方法 292
　点検口 247
　フューエルポンプシャットオフシステム 300
　ボンネット 250
エンジンオイル 339
　冬の前の準備・点検 211
　メンテナンスデータ 339
　容量 339
エンジンスイッチ 126
　位置の切りかえ 126
　エンジンのかけ方 126
エンジンフード（ボンネット）..... 250
　開け方 250

お

オイル（エンジンオイル）..... 339
オートマチックトランスミッション 129
　シフトレバーがシフトできない 131
　スノーモード 130
オートマチックハイビーム 140
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）
　作動について 139
オーバーヒート 331
オープナー
　給油扉 150
　ボンネット 250
オープントレイ 233
応急用タイヤ 311
　空気圧 345
　交換方法 311

お子さまを乗せるとき 37
エアバッグ 31
エンジンカバー 248
お子さまの安全のために 37
キーの電池 269
子供専用シート 38
シートの取り扱いに関する警告 93
シートベルトの着用 28
スライド式リアサイドガラスに関する警告 109
スライドドアに関する警告 80
チャイルドシートの取り付け 48
チャイルドプルーフ 79
発炎筒の取り扱いに関する警告 291
バックドアに関する警告 85
バッテリーに関する警告 330
パワーウインドウに関する警告 108
パワーウインドウロックスイッチ 106
オドメーター
機能 60
表示の切りかえ・リセット 61

か

カードホルダー 232, 235
カーペット
洗浄 245
フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示 61
外装の電球（バルブ）
交換要領 274
ワット数 346
カスタマイズ機能 347
ガソリンスタンドでの情報 376
型式 346
カップホルダー 231
ガラスの曇り取り（リアウインドウデフォッガー） 217
ガレージジャッキ 252
冠水路走行 123
寒冷時の運転 211

き

キー 72
エンジンがかからない
ときは 326
キーナンバープレート 72
キーの構成 72
キーレスエントリー 72
キーをなくした 72
電池が切れた 268
リモコンキー 72
キーレスエントリー
リモコンドアロック 72
きしみやひっかき音が聞こえる
（ブレーキパッドウェア
インジケーター） 119
給油 148
給油のしかた 148
メンテナンスデータ 338
緊急時シートベルト固定機構 28
緊急時の対処
エンジンが始動できない 326
オーバーヒートした 331
キーの電池が切れた 268
キーをなくした 72
警告灯がついた 301
警告メッセージが
表示された 306
けん引 294
故障したときは 288
車両を緊急停止する 292
水没・冠水したときは 293
スタックした 334
発炎筒 290
バッテリーがあがった 327
パンクした 311

く

空気圧（タイヤ） 345
クーラー
マニュアルエアコン 216
リアクーラー 221
区間距離計（トリップメーター）
機能 60
表示の切りかえ・リセット 61
曇り取り
フロントガラス 217
リアウインドウ
デフォッガー 217
クラクション（ホーン） 97
クリアランスソナー 176
警告メッセージ 183
操作 177
クリアランスランプ（車幅灯） 136
スイッチ 136
電球（バルブ）の交換 280
ワット数 346
クリップ
フロアマット 22
グローブボックス 229

け

警音器（ホーン）.....97
計器類（メーター）.....60
警告灯／表示灯.....56
照度調整.....61
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....64
メーター.....60
警告灯.....57, 301
AdBlue® 残量.....304
SRS エアバッグ.....301
エンジン.....301
クリアランスソナー
OFF 表示灯.....303
高水温.....301
シートベルト非着用.....302
充電.....301
燃料残量.....302
PKSB OFF 表示灯.....303
プリクラッシュセーフティ
システム.....302
プリテンショナー.....301
ブレーキ.....301
ペダル誤操作.....303
油圧.....301
4 輪アンチロック・ブレーキ・
システム（4W-ABS）.....302
レーンディパーチャー
アラート
（車線逸脱警報）.....302
警告ブザー
クリアランスソナー.....176
シートベルト非着用.....302
車線逸脱警報機能.....168
衝突警報.....158
パーキングブレーキ
未解除走行時.....304
ふらつき検知機能.....169
ブレーキ.....301
油圧.....301
リバース.....131
けん引.....294
けん引のしかた.....294
フック.....298, 312

こ

交換
キーの電池.....268
タイヤ.....311
電球（バルブ）.....274
ヒューズ.....271
工具（ツール）.....312
航続可能距離.....65
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換.....281
ワット数.....346
子供専用シート.....38
選択方法.....43
取り付け方.....48
コンセント.....237

さ

サイド方向指示灯 134
電球（バルブ）の交換 281
方向指示レバー 134
ワット数 346
サイドミラー（ドアミラー） 101
操作 101
サンバイザー 235

し

シート 88, 91
子供専用シート 38
正しい運転姿勢 24
調整 88, 91
手入れ 244
シートベルト 26
お子さまの着用 28
緊急時シートベルト
固定機構 28
シートベルト非着用警告灯 302
正しく着用するには 26
着け方・はずし方 27
手入れ 245
長さ調節 27
妊娠中の方の着用 29
シートベルト非着用警告灯 302
シートベルト　フロントシート
プリテンショナー 27
機能 27
プリテンショナー警告灯 301
室内灯（ルームランプ） 226
始動のしかた 126
シフトポジション 129
シフトレバー 129
シフトロックシステム
（解除ボタン） 131
操作 129
リバース警告ブザー 131
シフトレバーがシフト
できないときは 131
シフトロックシステム 131
締め付けトルク
（ホイール） 321, 345
車線逸脱警報機能 168
ジャッキ
ガレージジャッキ 252
車載ジャッキ 311
ジャッキハンドル 312
車幅灯 136
電球（バルブ）の交換 280
ランプスイッチ 136
ワット数 346
車両型式 346
車両仕様（スペック） 338
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 292
手動光軸調整ダイヤル 138
ジュニアシート 38
衝突回避支援パッケージ 152
オートマチックハイビーム 140
プリクラッシュセーフティ
システム 158
レーンディパーチャー
アラート
（車線逸脱警報） 168
仕様（車両仕様） 346
助手席シートベルト
非着用警告灯 302

す

水温計 61
スイッチ
イグニッション 126
ウインドシールド
デアイサー 217
ウォッシャー 144, 146
エンジンスイッチ 126
スノーモード 130
ドアミラー 101
ドアロック 76
排出ガス浄化 208
ハザードランプ 289
パワーウインドウ 106
パワーウインドウロック 106
パワーヒーター 224
非常点滅灯
（ハザードランプ） 289
プリクラッシュセーフティ
システム 161
ダイナミック・スタビリティ・
コントロールシステム
［横滑り防止機構］（DSC）
OFF 201
方向指示レバー 134
ホーン（警音器） 97
メーター表示切りかえ 61
ランプ 136
リアウインドウ
デフォッガー 217
リアクーラー 221
リアヒーター 223
ルームランプ 226
レーンディパーチャー
アラート（車線逸脱警報） 171
ワイパー 144, 146
スターター
エンジンの始動 126
スターターがまわらない 326
スタック 334
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整 97
ステアリングロック
解除できないとき 127
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換 281
ワット数 346
スノータイヤ（冬用タイヤ） 211
スピードメーター 60
スペアタイヤ 311
スペック（車両仕様） 338
スモールランプ（車幅灯） 136
電球（バルブ）の交換 280
ランプスイッチ 136
ワット数 346
スライド式リアサイドガラス 109
スライドドア
操作 79

せ

清掃 240, 244
　外装 240
　シートベルト 245
　内装 244
制動灯
　電球（バルブ）の交換 281
　ワット数 346
積算距離計（オドメーター）
　機能 60
　表示の切りかえ・リセット 61
セキュリティ
　インジケーター 50, 51
センサー
　オートマチックハイビーム 153
　プリクラッシュセーフティ
　　システム 153
　レーンディパーチャー
　　アラート
　　（車線逸脱警報） 153
洗車 240
前照灯（ヘッドランプ） 136
　オートマチックハイビーム 140
　手動光軸調整ダイヤル 138
　電球（バルブ）の
　　交換 276, 279, 284
　ランプ消し忘れ防止機能 139
　ランプスイッチ 136

そ

速度計
　（スピードメーター） 60

た

ダイナミック・スタビリティ・
　コントロールシステム
　［横滑り防止機構］（DSC） 200
ターンシグナルランプ
　（方向指示灯） 134
　電球（バルブ）の交換 281
　方向指示レバー 134
　ワット数 346
タイヤ 260
　空気圧 263, 345
　交換 311
　締め付けトルク 321, 345
　チェーン 211
　点検 260
　パンクしたときは 311
　冬用タイヤ 211
　ホイールサイズ 345
　ローテーション
　　（位置交換） 260
タイヤが空まわりする
　（スタックした） 334
タイヤチェーン 211
タコメーター
　（エンジン回転計） 60

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....211
チャイルドシート.....38
シートベルトでの固定.....48
選択方法.....43
チャイルドプルーフ.....79
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）.....135
操作.....135
未解除走行時警告ブザー.....135
メンテナンスデータ.....344

つ

ツール（工具）.....312

て

ディファレンシャル.....343
手入れ.....240, 244
外装.....240
シートベルト.....245
テールランプ（尾灯）.....136
電球（バルブ）の交換.....281
ランプスイッチ.....136
ワット数.....346
デッキフック（荷物固定用
フック）.....234
デフォッガー
（リアウインドウ
デフォッガー）.....217
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....274
ワット数.....346
点検基準値
（メンテナンスデータ）.....338
電池交換（キー）.....268

と

ドア.....74
スライドドア.....78
チャイルドプルーフ.....79
ドアガラス.....106
ドアロックスイッチ.....76
バックドア.....83
フロントドア.....74
ロックレバー.....76, 78, 83
リモコンキー.....72
ドアポケット.....233
ドアミラー
格納のしかた.....102
操作.....101
ヒーテッドドアミラー.....217
盗難防止装置
イモビライザー.....50
時計
時刻を設定する.....66
表示.....60
ドライブインフォメーション.....65
ドライブスタートコントロール
急発進の抑制制御.....113
トラクションコントロール
（TRC）.....200
トランスミッション
オートマチック
トランスミッション.....129
スノーモード.....130
メンテナンスデータ.....343
トリップメーター
機能.....60
表示の切りかえ・リセット.....61

な

内装
収納装備 228
手入れ 244

に

荷物
積むときの注意 124
荷物固定用フック 234

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック） 334

ね

燃料 338
ガソリンスタンドでの情報 376
給油 148
種類 338
燃料残量警告灯 302
フューエルポンプシャットオフシステム 300
容量 338
燃料計 61

は

パーキングブレーキ 135
操作 135
冬季の注意 212
パーキングブレーキ表示灯 58
未解除走行時警告ブザー 135
メンテナンスデータ 344
排気ガス 36
灰皿 236
排出ガス浄化装置 206
排出ガス浄化装置堆積モニター 208
ハイビーム（ヘッドランプ） 136
電球（バルブ）の交換 276, 279
ランプスイッチ 136
ワット数 346
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 284
ハザードランプ（非常点滅灯） 289
スイッチ 289
電球（バルブ）の交換 281
ワット数 346
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 107
発炎筒 290
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 281
ワット数 346

バックドア 83
バックドアストラップ..... 84
バックドアハンドル 84
バッテリー
搭載位置..... 247
バッテリーがあがった..... 327
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 274
ワット数..... 346
パワーウインドウ..... 106
パワーウインドウロック
スイッチ..... 106
初期化..... 107
操作 106
挟み込み防止機能 107
パワーステアリング
パワーステアリング
フルード..... 344
パンクした 311
番号灯（ライセンスプレート
ランプ）..... 136
電球（バルブ）の交換..... 283
ランプスイッチ 136
ワット数..... 346
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 97
位置調整..... 97

ひ

PKSB 186
静止物 196
ヒーター
パワーヒーター..... 224
マニュアルエアコン..... 216
ヒーテッドドアミラー..... 217
リアヒーター 223
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 289
スイッチ 289
電球（バルブ）の交換..... 281
ワット数 346
尾灯（テールランプ）..... 136
電球（バルブ）の交換..... 281
ランプスイッチ..... 136
ワット数 346
ヒューズ..... 271
表示灯..... 58
ヒルスタートアシスト
コントロール 200

ふ

ブースターケーブルの
つなぎ方..... 327

ブザー
シートベルト非着用警告 302
車線逸脱警報機能 168
衝突警報 158
パーキングブレーキ
未解除走行時警告 135
半ドア警告 76
ふらつき検知機能 169
ブレーキ警告 301
リバース警告 131
フック
荷物固定用フック 234
フロアマット固定フック 22
フューエルポンプシャットオフ
システム 300
フューエルメーター（燃料計） 61
フューエルリッド（給油口） 148
給油のしかた 148
冬の前の準備（寒冷時の運転） 211
冬用タイヤ 211
プリクラッシュセーフティ
システム 158
ブレーキ
パーキングブレーキ 135
ブレーキ警告灯 301
メンテナンスデータ 344
ブレーキアシスト 200
ブレーキ付近から
キーキー音が聞こえる 119
ブレーキフルード 344
フロアマット 22
フロントアンダーミラー 104
フロントルームランプ 227
フロントシート 88
正しい運転姿勢 24
調整 88
手入れ 244
フロント方向指示灯 134
電球（バルブ）の交換 281
方向指示レバー 134
ワット数 346

へ

平均燃費 65
ヘッドランプ 136
手動光軸調整ダイヤル 138
電球（バルブ）の
交換 276, 279, 284
ランプ消し忘れ防止機能 139
ランプスイッチ 136
ヘッドランプオートレベリング
システム 139

ほ

ホイール
交換（タイヤ）....311
メンテナンスデータ....345
ホイールナットレンチ....312
方向指示灯....134
電球（バルブ）の交換....281
方向指示レバー....134
ワット数....346
ホーン（警音器）....97
保証....9
補助ミラー....104
ボトルホルダー....231
ボンネット....250

ま

マニュアルエアコン....216
マルチインフォメーション
ディスプレイ....64
警告メッセージ....306
衝突警報....158
ドライブインフォメーション....65
レーンディパーチャー
アラート
（車線逸脱警報）....172
マルチユースシートバック
コンソール....230

み

ミラー
アウターミラー....101
インナーミラー....99
ドアミラー....101
補助ミラー....104
ヒーテッドドアミラー....217

め

メーター（計器類）....60
警告灯....57, 301
照度調整....61
表示切りかえボタン....60
表示灯....58
マルチインフォメーション
ディスプレイ....64
メーター....60
メーター照度調整....61
メンテナンスデータ....338

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能....347
雪道ですべって動けない
（スタックした）....334
油脂類....338

よ

4 輪アンチロック・ブレーキ・
システム（4W-ABS）....200

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換……283
ランプスイッチ……136
ワット数……346
ラジエーター
オーバーヒート……331
メンテナンスデータ……343
ランプ
オートマチックハイビーム……140
室内灯……226
電球（バルブ）の交換……274
非常点滅灯
（ハザードランプ）……289
ヘッドランプ（前照灯）……136
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）……134
ランプ消し忘れ防止機能……139
ルームランプ……227
ワット数……346
ランプ消し忘れ防止機能……139

り

リアアンダーミラー……104
リアウインドウ
デフォッガースイッチ……217
リアクーラー……221
リアシート……91
リアヒーター……223
リア方向指示灯……134
電球（バルブ）の交換……281
方向指示レバー……134
ワット数……346
リモコンキー……72
作動の合図……75
操作……72
電池の交換……268

る

ルームセパレーターバー……94
ルームミラー
（インナーミラー）……99
ルームランプ……227

れ

レーンディパーチャー
アラート（車線逸脱警報）..... 168
冷却水..... 343
水温計..... 61
冬の前の準備..... 211
メンテナンスデータ..... 343
冷却装置（ラジエーター）..... 343
オーバーヒート..... 331
メンテナンスデータ..... 343
レバー
シフト..... 129
方向指示..... 134
ボンネット解除..... 250
ロック（ドア）..... 76

ろ

ロック
シフトロック..... 131
スライドドア..... 78
チャイルドプルーフ..... 79
バックドア..... 83
パワーウインドウロック..... 106
フロントドア..... 74
リモコンキー..... 72

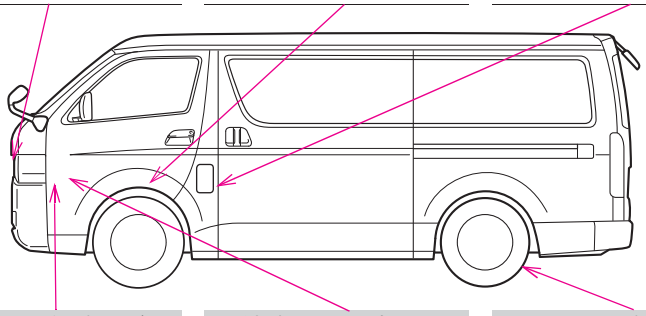
わ

ワイパー & ウォッシャー
ウインドシールド
デアイサー..... 217
ウォッシャー液の補充..... 259
フロント..... 144
リア..... 146
ワックス..... 240
ワット数..... 346
輪止め..... 312

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	エンジン点検口	給油口
P. 250	P. 247	P. 150



ボンネット解除レバー	給油扉オープナー	タイヤ空気圧
P. 250	P. 150	P. 345

燃料の容量（参考値）	70L
燃料の種類	▶ ガソリン車 ・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。 ▶ ディーゼル車 超低硫黄軽油（S10ppm 以下）
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 345
エンジンオイル容量（参考値）	▶ オイルのみ交換時 ・ガソリン車：4.9L　・ディーゼル車：5.5L ▶ オイルとフィルター交換時 ・ガソリン車：5.3L　・ディーゼル車：6.1L
エンジンオイルの種類	P. 339